

一般国道180号道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ

鳥取県米子市

# 古市遺跡群 1

古市カハラケ田遺跡

古市河原田遺跡

1999

財団法人 鳥取県教育文化財団

## 『古市遺跡群1』 正誤表

頁	行ほか	誤	正
第2章 位置と環境			
4	註 8)	『目久美遺跡』	『目久美遺跡V・VI』
4	註 16)	註3に同じ	註2に同じ
第3章 古市カハラケ田遺跡の調査			
16	第 9図	s 101～s 103平面図の方位、南北逆	
22	第 15図	掘立柱建物跡	掘立柱建物跡
23	第 16図	掘立柱建物跡	掘立柱建物跡
24	第 17図	掘立柱建物跡	掘立柱建物跡
47	12行目	瀬戸・美濃系の剥ぎ菊皿	瀬戸・美濃系の削ぎ菊皿
61	76	土師器 底部	弥生 底部
63	125	高坏 坏部	土師器 高坏 坏部
67	226	長頸甗	長頸壺
第4章 古市河原田遺跡の調査			
101	3行目	観察表を第8節の後に	観察表を第7節の後に
102	6行目	船本IV式	船元IV式
102	6行目	72～74は後期初頭	67、72～74は後期初頭
184	22行目	比率を示したが	比率を示した <u>もの</u> が

一般国道180号道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ

鳥取県米子市

# 古市遺跡群 1

古市カハラケ田遺跡

古市河原田遺跡

1 9 9 9

財団法人 鳥取県教育文化財団



1. 遺跡周辺航空写真



2. 遺跡遠景（南より）

## 序

鳥取県西部に位置する米子市は「山陰の商都」とされ、この地域の中心的な都市です。北は日本海に面し、東には秀峰大山を望む自然環境に恵まれた土地でありまして、古くよりこの地に人々が住んでいたことは、近年の発掘調査の増加により明らかにされてきています。

当財団では一般国道180号の道路改良工事に伴う発掘調査を、鳥取県の委託を受け平成10年度に行ないました。その結果縄文時代以降の遺構、遺物を検出し、特に縄文時代の多くの遺物や、弥生から古墳時代にかけての集落跡など当時の様子を物語る貴重な資料を提供できたと考えております。本発掘調査の成果が、今後の教育および学術研究のため多くの方々に活用していただければ幸いに存じます。

最期になりましたが、鳥取県土木部道路課及び鳥取県米子土木事務所、並びに地元の皆様をはじめご協力いただいた方々、その他関係各位に対し厚く御礼申し上げます。

平成11年 3月




財団法人 鳥取県教育文化財団

理事長 田 渕 康 允

## 例言

1. 本報告書は、「一般国道180号道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査」として平成10年度に実施した、埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 本発掘調査は下記に所在する遺跡を対象として実施された。  
古市カハラケ田遺跡：鳥取県米子市古市字カハラケ田 488-2～944番地  
古市河原田遺跡：古市字河原田 473～962番地
3. 本報告書における方位、座標値は、国土座標第V系の座標値である。また、レベルは海拔標高を表す。
4. 本報告書に掲載した地形図は国土地理院発行の1/50,000地形図「米子」を使用した。
5. 本発掘調査に当たっては、遺跡の地質学的なことに関する現地指導を島根大学徳岡隆夫先生に、出土した木製品の樹種鑑定を鳥取大学古川郁夫先生、石製品の石材の産地同定を岡山理科大学白石純先生、石製品の石材鑑定を大山自然公園指導員の会遠藤勝壽先生にお願いした。明記して深甚の謝意を表します。
6. 本発掘調査の実施に当たっては、放射性炭素年代測定、種実同定、蛍光X線分析、遺跡の空中写真撮影をそれぞれ専門業者に、現地における基準点測量を測量コンサルタントに委託した。
7. 遺物の実測は調査員及び第1章第3節に挙げた室内整理作業員が行なったほか、古市河原田遺跡の石器実測及びトレースの一部を業者に委託した。
8. 掲載図面は、調査員が作成したものを調査員及び室内整理作業員が浄書を行なった。
9. 遺物の写真撮影は調査員が行なった。
10. 発掘調査によって作成された記録類及び出土遺物は鳥取県埋蔵文化財センターに保管されている。
11. 本報告書の作成は調査員の協議に基づいて執筆及び編集し、文責は目次に記した。
12. 現地調査および報告書の作成に当たっては上記の先生方の他に、多くの方々からのご指導、ご助言及びご支援をいただいた。明記して深謝いたします。(敬称略、順不同)  
遠部 慎、小原貴樹、佐伯純也、下高瑞哉、田中義昭、中村健二、中村唯史、深田 浩、柳浦俊一、  
米子市史編さん事務局、米子市立山陰歴史館

## 凡例

1. 本報告書において採用した遺構の略称は、以下のとおりである。  
S I：竪穴住居跡      S B：掘立柱建物跡      S D：溝状遺構      S K：土坑状遺構  
S X：不明遺構      P：ピット
2. 遺物実測図のうち、須恵器は断面を黒塗りにし、それ以外は白抜きであらわした。
3. 遺構、遺物図に用いたスクリーンはそれぞれ以下のものをあらわす。  
赤色顔料  磨面  貼り床 
4. 石器実測図に用いた矢印は敲痕、凹痕の範囲をあらわす。
5. 本文中、挿図中及び写真図版中の遺物番号は一致する。
6. 遺物番号は遺跡ごと（第3章古市カハラケ田遺跡、第4章古市河原田遺跡）に、それぞれ通し番号を付けた。また石器、石製品には番号の頭にS、木製品にはW、金属製品にはFを付けており、番号のみのものは土器、土製品である。
7. 出土した遺物には以下のように遺跡の略称を記してある。  
古市カハラケ田遺跡：F K K      古市河原田遺跡：F K D

# 目 次

序

例言・凡例

目次

第1章 調査の経緯	(中森)	1
第1節 調査に至る経緯		1
第2節 調査体制		2
第2章 位置と環境	(中森)	3
第3章 古市カハラケ田遺跡の調査	(中森、家塚、内田)	6
第1節 調査の経過と方法	(中森)	6
第2節 遺跡の概要	(中森)	9
第3節 縄文時代の遺構と遺物	(中森)	11
1. 検出した遺構		11
2. 遺構外出土遺物		14
第4節 弥生・古墳時代の遺構と遺物	(中森、家塚、内田)	15
1. 検出した遺構		15
2. 遺構外出土遺物		42
第5節 中・近世の遺構と遺物	(中森)	43
1. 検出した遺構		43
2. 遺構外出土遺物		47
第6節 時期不明の遺構	(内田)	48
第7節 自然化学分析		69
1. 古市カハラケ田遺跡出土材の樹種鑑定	古川郁夫	69
2. 古市カハラケ田遺跡における種実同定	株式会社 古環境研究所	71
第8節 考察		73
古市カハラケ田遺跡の集落の様相－弥生時代後期から古墳時代を中心に－	(家塚)	73
第9節 まとめ	(中森、家塚、内田)	77
第4章 古市河原田遺跡の調査	(濱田、濱、吉田)	79
第1節 調査の経過と方法	(濱田)	79
第2節 調査区内の堆積について	(濱田)	80
第3節 縄文時代(第1・2・3遺構面)の遺構と遺物		84
1. 概要	(濱田)	84
2. 第1遺構面(縄文時代後期中葉)の遺構と遺物	(濱田、濱)	84
3. 第2遺構面(縄文時代後期中葉)の遺構と遺物	(濱田、濱、吉田)	86
4. 第3遺構面(縄文時代晩期後葉)の遺構と遺物	(濱田、濱)	100
5. 包含層出土の遺物	(濱田、濱)	100
第4節 弥生時代前期(第4遺構面)の遺構と遺物	(濱田)	136
1. 概要		136
2. 遺構と遺物		136
3. 包含層出土の遺物		136
第5節 弥生時代中・後期の遺構と遺物	(吉田、濱田)	138
1. 概要		138
2. 遺構と遺物		138
3. 包含層出土の遺物		143
第6節 古墳時代(第5遺構面)の遺構と遺物	(濱)	144
1. 概要		144
2. 遺構と遺物		144
3. 包含層出土の遺物		145
第7節 中・近世の遺構と遺物		145
1. 概要	(濱)	145
2. 遺構と遺物	(吉田、濱)	148
3. 包含層出土の遺物	(濱)	149
第8節 自然化学分析		171
1. 古市河原田遺跡出土石器石材の産地について	白石 純	171
2. 古市河原田遺跡出土材の樹種鑑定	古川郁夫	175
3. 古市河原田遺跡出土材の放射性炭素年代測定	株式会社 古環境研究所	176
4. 古市河原田遺跡における種実同定	株式会社 古環境研究所	177
5. 古市河原田遺跡出土石器に付着した赤色顔料の蛍光X線分析	株式会社 古環境研究所	178
第9節 考察		183
1. 古市河原田遺跡出土の突帯文土器について－古市河原田式の提唱－	(濱田)	183
2. 米子平野周辺における縄文時代の石器利用について	(濱)	193
第10節 まとめ	(濱田、濱、吉田)	199

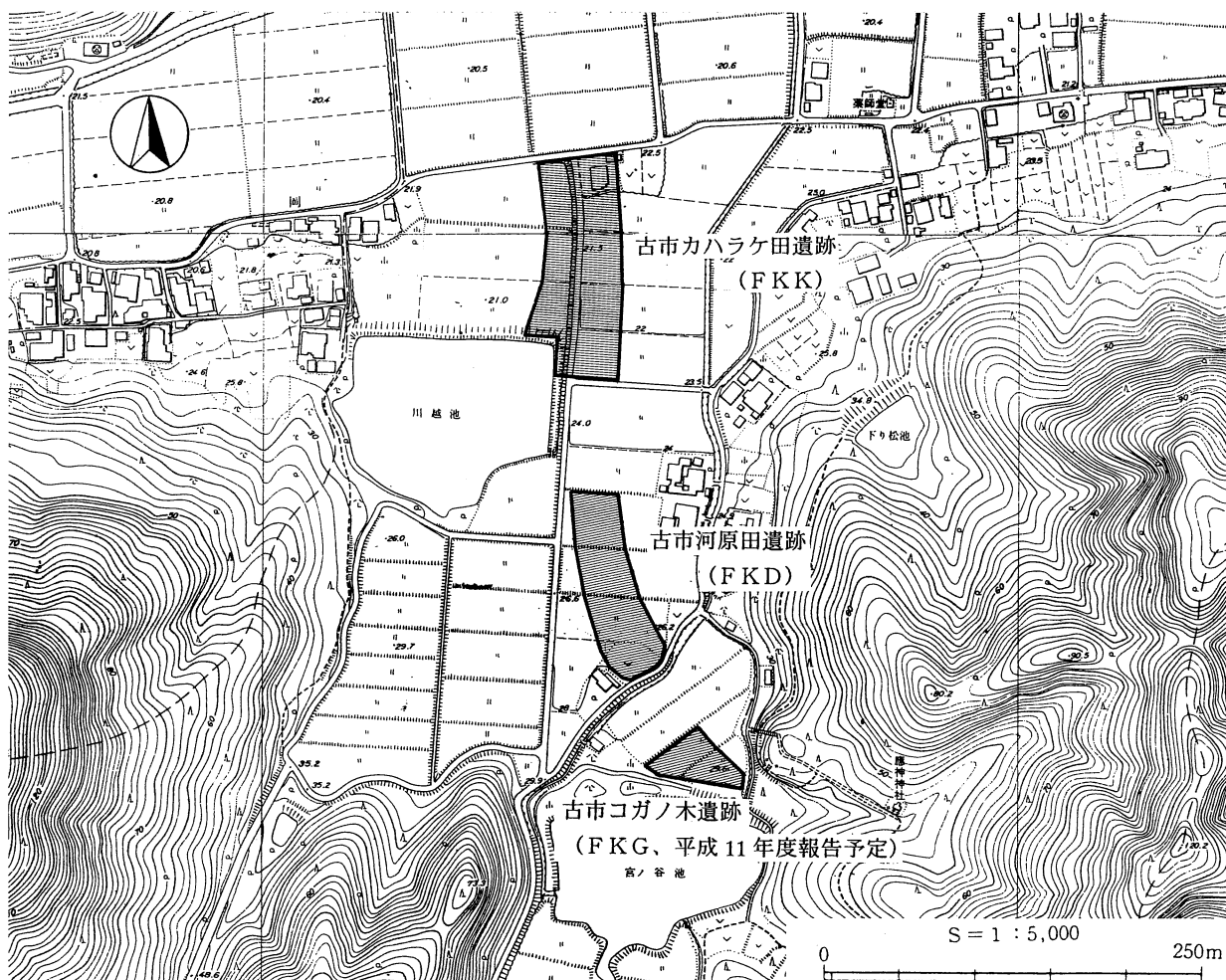
# 第1章 調査の経緯

## 第1節 調査に至る経緯

本発掘調査は、鳥取県によって進められている一般国道180号（米子バイパス）道路改良工事を原因とし、米子市古市地内において工事予定地内に存在する埋蔵文化財の記録保存を目的としたものである。バイパスは米子市陰田町の山陰道陰田ランプを起点として、同市新山、古市を経て南進し西伯町へと結ぶ。この改良工事における埋蔵文化財の保護と事業計画との調整については、事業計画策定に伴って関係機関間で協議され、米子市教育委員会によって分布、試掘調査が実施されてきた。

すでに本事業に伴う発掘調査が、陰田から新山にかけては国道180号バイパス関係埋蔵文化財発掘調査団、財団法人米子市教育文化事業団によって実施され、成果が出されている<sup>1)</sup>。

今回の調査地については1996年度に米子市教育委員会によって試掘調査が行なわれたが、19本の試掘トレンチが設定され、縄文時代から古墳時代にかけての遺物、溝状遺構やピットを検出した<sup>2)</sup>。これを受けて、鳥取県土木部道路課及び鳥取県米子土木事務所は鳥取県教育委員会事務局文化課と協議し、文化財保護法第57条の3に基づく発掘通知を文化庁長官に提出した。その上で、記録保存のための事前発掘調査の指示を得た鳥取県土木部道路課は、発掘調査を財団法人鳥取県教育文化財団に委託した。調査の対象となった遺跡は古市カハラケ田遺跡、古市河原田遺跡である。これにより、平成10年度に西部埋蔵文化財米子調査事務所が調査を担当することとなり、財団法人鳥取県教育文化財団理事長から文化庁長官に文化財保護法第57条に基づく発掘届を提出した。



第1図 調査区位置図



## 第2節 調査体制

調査主体 財団法人鳥取県教育文化財団

理事長 田淵 康允（鳥取県教育委員会教育長）  
常務理事 大和谷 朝（鳥取県教育委員会事務局次長）  
事務局長 岡山 宏徳

財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター

所長 古井 喜紀  
次長 八木谷 昇  
調整係長 松田 潔  
調査員 小谷 修一（平成10年6月末で退職）  
庶務係主任事務職員 矢部 美恵  
事務職員 嶋村八重子

調査担当 財団法人鳥取県教育文化財団鳥取県埋蔵文化財センター西部埋蔵文化財米子調査事務所

所長 国田 俊雄  
主任調査員 中森 祥、濱田 竜彦  
調査員 家塚 英詞、濱 隆造、吉田 学、内田 浩文  
整理員 山崎 裕子、塚田 文子

調査指導 鳥取県教育委員会事務局文化課 鳥取県埋蔵文化財センター

下記の方々に発掘調査作業、整理作業に従事または協力いただいた。

野口勝子、野口辰枝、野口キヨノ、板持 章、福井徳子、後藤菊夫、後藤貞子、伊藤景子、山川愛子、渡辺 杣  
渡辺静江、永江美枝子、西村美知枝、宇田川東功子、稲田三枝子、細田フサ子、木下恒代、田中重子、干村澄子  
山崎 博、秋里登志子、佐伯 進、松波綾子、船岡幹子、松本良子、都田一枝、大櫃光江、遠藤 伝、篠村孝美  
松代美佐枝、高塚克人、高塚公栄、高塚早智子、長谷川芳之、長谷川節子、笹谷加寿夫、片岡登志枝、勝部 恵  
山崎さき江、石倉信夫、石倉信子、細田恒夫、前田文子、渡 貞夫、遠藤綾子、伴藤 栄、安部好江、板 英臣  
潮 哲男、秋田康一、日置恒夫、埴畑友雄、吉原和行、松浦万喜男、野口葉子、野口哲弘、田宮 繁、富永武子  
小林等子、永江 辨、都田三郎、遠藤清子、頼田美佐子、池野 毅、吾郷琴江、福本蓉子、吉田 繁、吉田一子  
奥田道子、頼田つゆ子、野津松夫、藤江利夫、川成寿々子、新田幾子、安達久美子、田中セキ子、益井季里子  
長田慶子、高田 茂、石橋幹夫、石山忠重、倉敷 精、西本友一、野口洋一、本田 昇、本田美雪、笹間晴美  
角田輝彰、豊田真康、加藤豊久、野口基治、野口文恵、妹尾美百子、安原港子、吉村京子、千葉徹志、山中直也  
野口博文、吉岡千鶴、泉谷圭子、小原里子、山崎博子、畠 延子、遠藤万須美、中橋智明、小原 円  
表 明美、伊藤恵美子、小山菜穂子、清水房子、厨子彰子、中原千恵、南條孝子、野崎悦子、野島尚子  
福田延子、福田弥千代、松本敬子、山本清子、山本久美恵、山本博子、米山麻紀、大角展子、大東敦子

註 1) 財団法人米子市教育文化事業団編 1994 『萱原・奥陰田Ⅰ』

2) 杉谷愛象、下高瑞哉編 1997 『米子市内遺跡発掘調査報告書』 米子市教育委員会

## 第2章 位置と環境

調査地は米子市古市に所在する。

米子市は古くから「山陰の商都」と呼ばれ鳥取県西部地方の中核都市として位置付けられ、北に日本海、東には中国地方最高峰の「伯耆富士」大山がある。また市の東部を流れる日野川からの流出土砂により形成、発達した弓浜半島、中海に面し、自然環境に恵まれた土地である。

遺跡群のある古市は市の南西部に位置する。市街地からは直線距離でほぼ4 km、南の山を越えれば西伯町、そして西へ2 kmほど向かうと鳥根県との県境にあたる。その県境に向かう県道米子広瀬線は要害山とトウド山に挟まれた東西に長い谷筋にあるが、ここは古代山陰道のルートのひとつとも考えられており、峠は『出雲国風土記』の手間割に比定されている。また調査地周辺は律令期には会見郡12郷のうち半生郷に属していたとされる。中世には標高287mの要害山上に新山要害（長台寺城）が築かれ、出雲・伯耆の国境地域の拠点となっていた。なお調査地は字名（カハラケ田、河原田）が示す通り、加茂川の支流が形成した南北に伸びた谷間に広がる農村にあり、現況は田圃であった。

この周辺地域では、縄文時代初期から人々の居住が始まっていることが知られている。原位置を保った出土状況ではないため草創期にさかのぼるものかは断定できないが、有舌尖頭器が米子市奈喜良遺跡<sup>1)</sup>、陰田宮の谷遺跡<sup>2)</sup>で見ついている。続く早期には黄島式から高山寺式に相当する押型文土器が西伯町清水谷遺跡<sup>3)</sup>、高山寺式期のものが新山山田遺跡<sup>4)</sup>で僅かに出土している。該期の遺跡としては米子市上福万遺跡が著名である他、大山西麓、日野川東岸に分布が密であり、西岸にはほとんどみられない。

早期末・前期初頭になると中海沿岸に集落が形成され始め、その後も引き続いて居住される。米子市目久美、陰田、松江市タテチョウ、西川津遺跡などが挙げられるが、これらは低湿地に位置するため土器などとともに多くの動物、植物遺体が見つかり、当時の植生など生活環境を復原し得る貴重な資料を提供している。

中・後期の様相は鳥取県東部に比べ不明瞭であるが、目久美遺跡ではドングリ貯蔵穴が多数検出されており、中期のものと推定されている<sup>5)</sup>。また本調査地（古市河原田遺跡）においては後期の土器が比較的多く出土しており、この他淀江町百塚第7遺跡では竪穴住居跡が1棟<sup>6)</sup>、井手跨遺跡では多くの土器とともに漆塗りの櫛が出土している<sup>7)</sup>。

晩期においては前葉のものが会見町口朝金遺跡においてまとまって見ついている。後葉の突帯文期になると平野部において遺跡が散見できる。その中で目久美遺跡や米子市大袋丸山遺跡などは弥生時代へと引き継がれる。

晩期末から弥生時代に入り海退が進むことで中海沿岸は低湿地化し、農耕に適した土地が拓がっていたと考えられる。こうしたところで水田が開かれ、周辺の微高地に集落が形成されている。目久美遺跡では前期の堆積層からプラントオパールが検出された他、中期の水田跡も見ついている<sup>8)</sup>。ここに隣接する池ノ内遺跡では後期の、長砂第1遺跡でも前期後半から中期初頭の水田跡を検出するとともに土坑（S K01）内から焼けた獣骨、魚骨や多量の炭化米が出土した<sup>9)</sup>。また目久美、池ノ内、米子城跡下層あるいは中海対岸の西川津やタテチョウ遺跡などでは木製農耕具が多量に見ついている。

一方日野川の支流である法勝寺川流域では、この時代の集落が多く検出されている。清水谷遺跡では標高55mほどの丘陵部上に、早期末から中期にかけての全長125mを測る環濠集落が見つかった<sup>10)</sup>。さらに前期のものは全長80mほどを測る断面V字状を呈する溝を検出した会見町諸木遺跡<sup>11)</sup>の他同町天王原遺跡、中期は同町宮尾遺跡がある。

中期になると遺跡数は増加し、台地や河岸段丘上に集落が営まれるようになり、後期には米子市青木遺跡、福市遺跡のような大きな集落の形成を見る。これらは次の時期にも引き継がれていく他、陰田遺跡群や西伯町福成石佛前遺跡などのように、短期間存在した集落もある。米子市尾高浅山遺跡では三重の環濠集落と四隅突出形墳丘墓を含む墳墓群が確認されている<sup>12)</sup>。尾高浅山1号墓は後期初頭から前葉とされ、隣接する丘陵上にある環濠

集落もほぼ同時期とされている。ここより1 kmほど南にある日下1号墓（後期中葉）も四隅突出形墳丘墓であり、さらに南方500mの丘陵上にはほぼ同時期の環濠をもつ集落がある<sup>13)</sup>。これら2基の墓は山陰地域の平野部において確認されたものの中でも古い例として注目される。

また外来系の遺物が増加し、畿内系や吉備系の土器、分銅形土製品といったものから、土笛（陶埴）など大陸系のものも見つかっている。特に土笛は九州から北陸の日本海側で50例ほどが知られているが、西川津とタテチヨウ遺跡で40例近く、また目久美遺跡からも1点出土しており中海沿岸で大多数を占めるなど非常に興味深いものである。

古墳時代前期から中期にかけての古墳の様相は明確ではない。前期では米子市日原6号墳や石州府29号墳、中期では陰田41号墳などがある。

本調査区北向かいの陰田地区では60基以上の古墳が確認されている。いずれも後期に属し、この時期幾つもの古墳群が造営される。日野川西岸域では他に米子市宗像古墳群、西伯町福成古墳群、境古墳群など、東岸域は米子市尾高古墳群、石州府古墳群、淀江町壺瓶山古墳群などが挙げられる。また横穴墓も同時期に築かれ、陰田横穴墓群では50基ほどが確認されている。これらは後背部に墳丘をもつことを特徴としており、米子市大塚山古墳群、尾高1号横穴、西伯町マケン堀横穴群、安来市穴神横穴群において同様な特徴をもつものが見られる。なお穴神1号横穴墓は装飾石棺をもつもの<sup>14)</sup>で、北部九州とのかかわりを窺わせる。

この時代の集落は陰田遺跡群において、その横穴墓の造墓集団のものと考えられる集落が検出されている。清水谷遺跡では前期から後期にかけて連綿と展開しており、西伯町福成早里遺跡においても後期に斜面地を切り開いた集落が存在している。低地部では池ノ内遺跡で前時代に引き続いて、水田が営まれている。

陰田においては7世紀後葉に入り官衙的な性格を帯びた地域であることが指摘され、館の存在を窺わせる墨書土器も出土している<sup>15)</sup>。また陰田第6遺跡において見つかった石敷道路はこれら館などの施設と山陰道とを結ぶ支道と考えられている<sup>16)</sup>など、伯耆・出雲の国境近くに位置するこの地域は極めて重要なところであったと言える。

平安時代には錦町第1遺跡で畑の跡が検出され、また米子城跡下層においても遺構・遺物が見られるなど、米子城が形成される以前の様相も少しずつ判明している。

(中森)

- 註 1) 小原貴樹編 1976 『鳥取県米子市埋蔵文化財発掘調査報告』Ⅰ 米子市教育委員会  
2) 濱田竜彦他編 1997 『陰田第6遺跡、陰田宮の谷遺跡3区・4区』 財団法人米子市教育文化事業団  
3) 松本哲他編 1992 『清水谷遺跡』 西伯町教育委員会  
4) 杉谷愛象他編 1994 『萱原・奥陰田』Ⅰ 財団法人米子市教育文化事業団  
5) 小原貴樹、北浦弘人他編 1986 『目久美遺跡』 米子市教育委員会  
6) 仲田信一、家塚英詞編 1995 『百塚第7遺跡(8区)』 財団法人鳥取県教育文化財団  
7) 太田正康、西川徹他編 1993 『井手跨遺跡』 財団法人鳥取県教育文化財団  
8) 註5および濱田竜彦他編 1998 『目久美遺跡』 財団法人米子市教育文化事業団  
9) 小原貴樹他編 1990 『長砂第1・2遺跡』 米子市教育委員会  
10) 註3に同じ  
11) 赤井進編 1975 『諸木遺跡発掘調査概報』 会見町教育委員会  
12) 下高瑞哉 1994 『鳥取県米子市尾高浅山遺跡』 『日本考古学年報』45 日本考古学協会  
13) 岩田文章 1997 『地域報告 鳥取県西部』 『四隅突出形墳丘墓とその時代』 山陰考古学研究集会  
14) 卜部吉博、錦田剛志他編 1995 『平ラII遺跡 吉佐山根1号墳 穴神横穴墓群』 鳥根県教育委員会  
15) 北浦弘人他編 1996 『陰田遺跡群』 財団法人鳥取県教育文化財団  
16) 註3に同じ



第2図 周辺遺跡図

- 1. 古市遺跡群   2. 新山遺跡群   3. 奥陰田遺跡群   4. 陰田遺跡群   5. カンボウ遺跡
- 6. 平ラⅠ遺跡   7. 平ラⅡ遺跡   8. 徳見津遺跡   9. 米子城跡遺跡   10. 錦町第1遺跡
- 11. 目久美遺跡   12. 池ノ内遺跡   13. 長砂第1遺跡   14. 長砂第2遺跡   15. 長砂古墳群
- 16. 東宗像古墳群   17. 宗像古墳群   18. 福市遺跡   19. 青木遺跡   20. 諏訪遺跡群
- 21. 大袋丸山遺跡   22. 諸木遺跡   23. 田住桶川遺跡   24. 口朝金遺跡   25. 三崎殿山古墳
- 26. 宮尾遺跡   27. 天万遺跡   28. 天萬土井前遺跡   29. 寺内8号墳   30. 枇杷埜遺跡
- 31. 清水谷遺跡   32. 福成古墳群   33. 福成早里遺跡   34. 新山要害

# 第3章 古市カハラケ田遺跡の調査

## 第1節 調査の経過と方法

調査は平成10年4月より開始し、11月に現場作業を終えた。調査地内は事前に米子市教育委員会により試掘調査が行なわれており、9本のトレンチ（T1～4、T15～19）から弥生土器、土師器、須恵器、黒曜石片などの遺物の他、ピット、溝状遺構が検出されている<sup>1)</sup>。これら遺構、遺物の検出状況から調査範囲を設定した。そして、試掘トレンチの土層断面などの結果を勘案しながら重機により表土を除去、その後10m画グリッドをなす測量用基準杭を南北軸に合わせて設定した。それには南北軸は北から1・2・3…、東西軸は西からA・B・C…と番号を付け、グリッドの番号は北西隅の杭番号をもって表した。

調査地内はほぼ中央部をはしる南北の農道によって大きく2分される。さらに圃場整備により西3面、東4面の田圃が造成されており、これらによって調査区は区切られていたためその区画を西1～3区、東1～4区として調査を進めていった（第3図）。

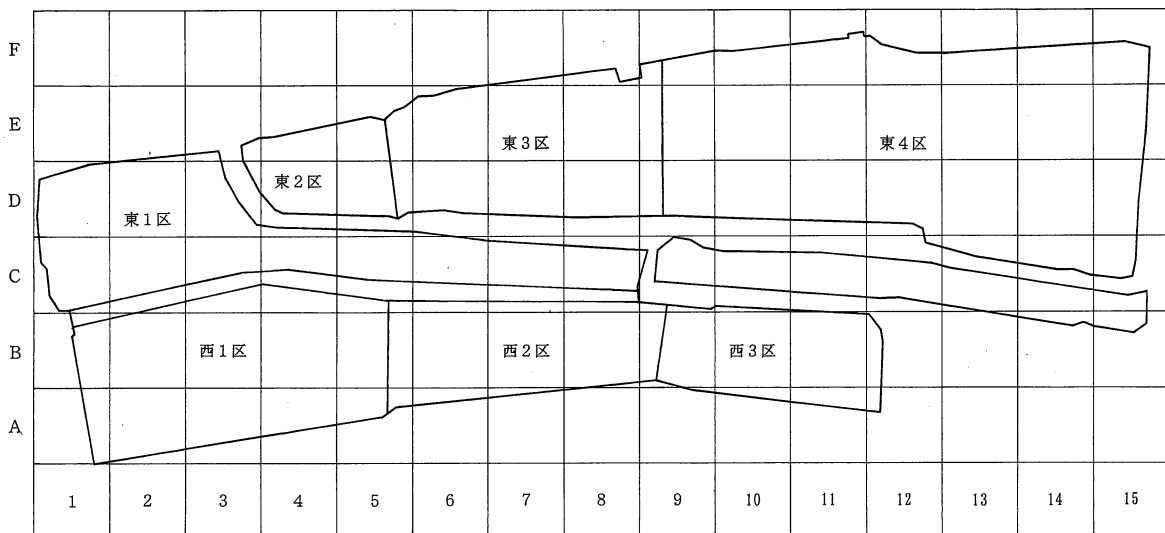
発掘調査は精査を北側の調査区から順に南へと行なった。しかし調査区西側に隣接する田圃では耕作がされること、そしてそこへの進入路が他にないことから、調査地の東側に並行して付設された仮設道から田圃へ通じる道を調査地を横切って付ける必要が生じた。そのため東西方向の仮設道を西2・3区、東3・4区境に設け、この部分は耕作が終了した10月に再び重機によって表土を除去、調査を行なうこととした。

またすでに米子市教育委員会の試掘調査でも指摘されていたことだが、調査区全体の表土剥ぎの段階で幾つかトレンチを入れ、西側の調査区及び東1・2区はかなり圃場整備によると思われる削平を受けていることを確認した。

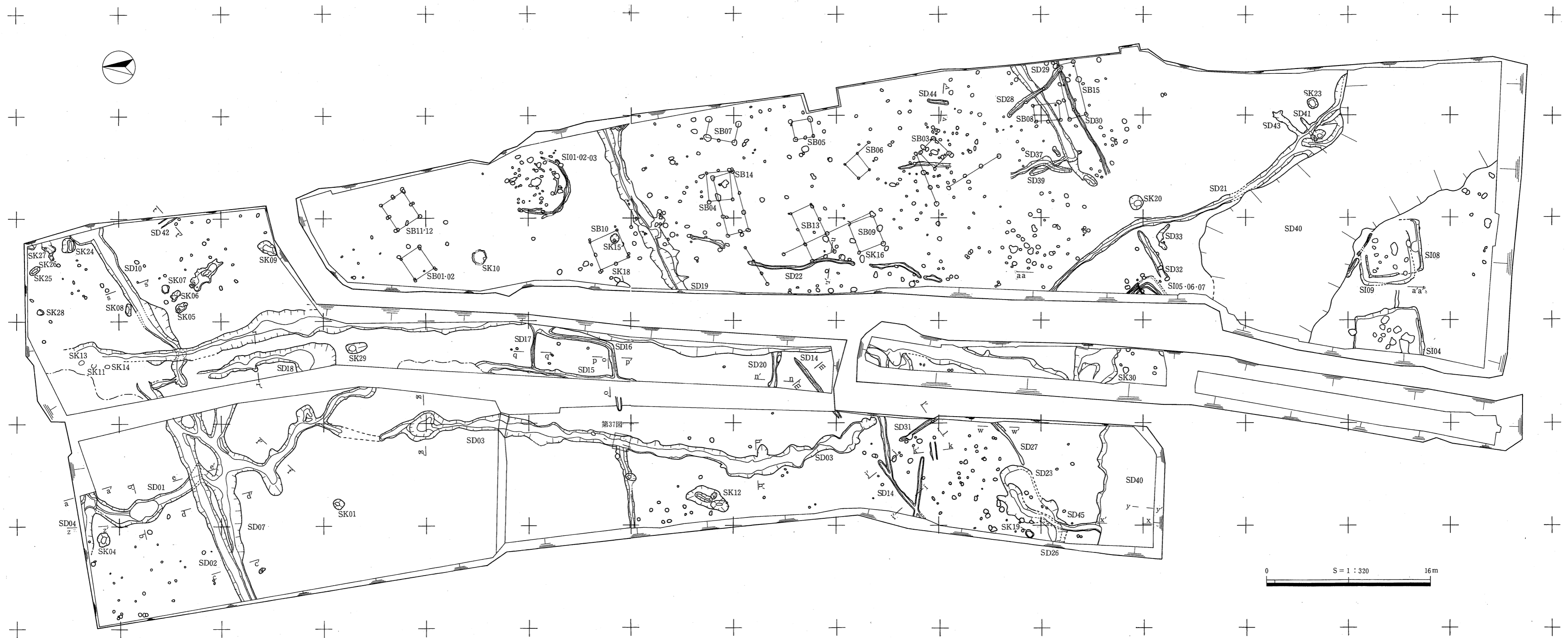
本調査では遺跡の性格を探るべく、幾つかの自然化学分析を行なった。それらは土坑や溝状遺構から検出した植物遺体の同定、竪穴住居跡の建材、溝状遺構出土杭の樹種鑑定などである（第7節参照）。

検出した遺構は、それぞれ平板、トータル・ステーションを用いて実測・写真撮影を行ない、調査区全体については調査後の地形を測量し、ラジコン・ヘリコプターによる空中写真撮影を行なった。（中森）

注 1) 杉谷愛象、下高瑞哉編 1997『米子市内遺跡発掘調査報告書』 米子市教育委員会



第3図 調査区及びグリッド配置図



第4図 遺構配置図

- |                            |                 |
|----------------------------|-----------------|
| a-a' b-b' f-f' z-z' : 第35図 | v-v' : 第31図     |
| c-c' ~ e-e' s-s' : 第36図    | w-w' : 第29図     |
| g-g' h-h' : 第37図           | x-x' : 第32図     |
| i-i' ~ r-r' u-u' : 第25図    | y-y' : 第33図     |
| t-t' : 第41図                | a-a' a'a' : 第5図 |

## 第2節 遺跡の概要

発掘調査は西1区から着手し、田圃で区画された調査区をひとつずつ終わらせていく方法を採用した。検出した遺構は竪穴住居跡9棟、掘立柱建物跡15棟、土坑24基、溝状遺構34条である。縄文時代後期に位置付けられる土坑が1基、中世の溝状遺構が6条、また時期不明の土坑は18基を数える。その他の遺構は弥生時代後期から古墳時代後期に比定されるもので、本遺跡の中心となる時代である。

最も古いものは縄文時代後期であり、植物遺体などを含む土坑を1基（SK10）検出している。しかしこれ以外には黒曜石、あるいは安山岩製の石鏃が調査区全体に分布していたのみである。また該期の遺物は本遺跡の南に位置する古市河原田遺跡において良好に出土している（第4章参照）。

弥生から古墳時代にかけての遺構は調査区東側の東2～4区に密に分布している。それらは大きく2時期に分けられ弥生時代後期においてはSD19、30という並行にはしる溝状遺構の向きに規定された集落跡と考えられ、それらの向きと同じくする、あるいは直交する掘立柱建物跡、竪穴住居跡、溝状遺構などがある。もう一方は古墳時代中期以降で、SD21と並行した向きをもつSI05～07のほか、中期後葉には弥生時代後期の方向性とは関係ない向きをもつ竪穴住居跡群（SI04、SI08・09）が東4区南側に造られる。

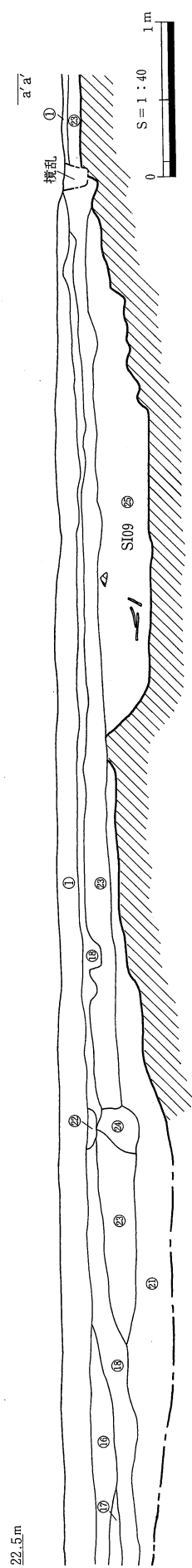
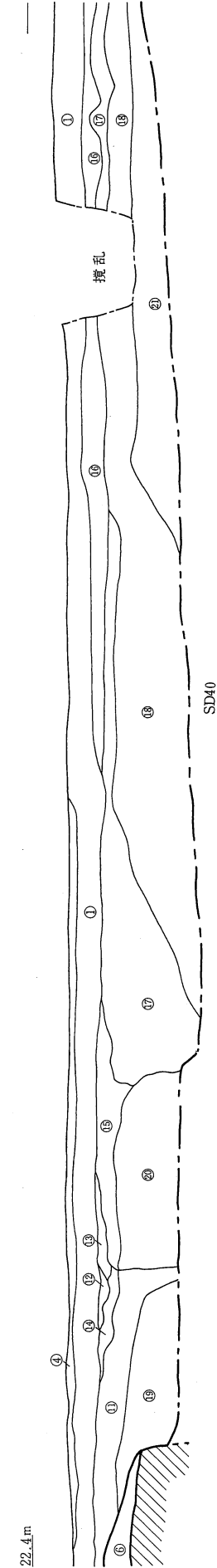
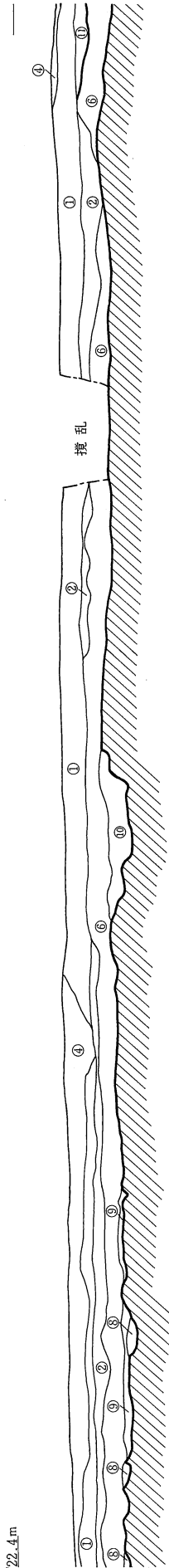
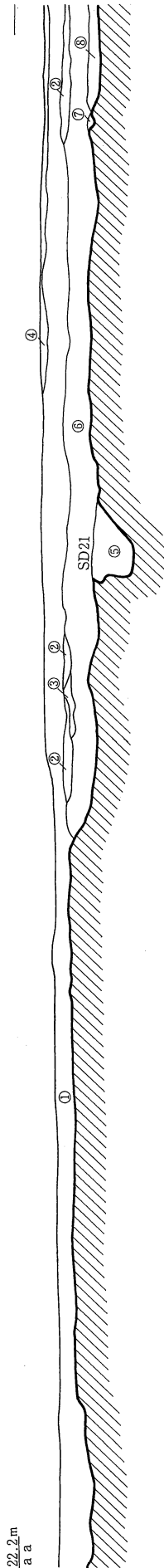
また東4区から西3区にかけて流れるSD40は、古墳時代から奈良時代にかけての自然流路である。西3区においては杭を打ち込んだ痕跡も検出しており、この流路を積極的に利用していたことが窺える。これ以外に調査地内においては奈良時代の遺構はみられない。

また中世に入っても建物跡などはみつかっていないが、自然流路を利用したような溝状遺構など生活の痕跡をとどめている。

なお遺構名は調査時と本報告とで基本的には変わらないが以下のものは変更した（表）。新遺構名が本報告書で使用しているものである。（中森）

新遺構名	旧遺構名	新遺構名	旧遺構名	新遺構名	旧遺構名	新遺構名	旧遺構名
SI08	SX05	SB09	-	欠番	SK17	欠番	SD05
SI09	SX05	SB10	-	欠番	SK21	欠番	SD08
SB01	SB01	SB11	-	欠番	SK22	欠番	SD09
SB02	SB01	SB12	-	SK29	SX02	欠番	SD11
SB03	SB02	SB13	-	SK30	SX04	欠番	SD12
SB04	SB02	SB14	-	SD01	SD06	欠番	SD13
SB05	-	SB15	-	SD14	SD24	欠番	SD35
SB06	-	欠番	SK02	SD40	SD25	欠番	SD36
SB07	-	欠番	SK03	SD45	-	欠番	SD38
SB08	-						

遺構名新旧対照表



第5図 東4区土層断面図

- SD40
- ①明灰色粘質土
  - ②明灰色粘質土 (砂礫粒を多く含む)
  - ③灰色粘質土 (砂礫混)
  - ④淡灰色粘土 (耕土)
  - ⑤暗灰色粘質土 (SD21埋土)
  - ⑥灰色粘質土
  - ⑦暗灰色粘質土
  - ⑧灰褐色粘質土 (黄色粘土粒を多く含む)
  - ⑨暗灰色粘質土 (⑦より暗い)
  - ⑩暗灰色粘質土 (炭化物混)
  - ⑪淡黄褐色砂
  - ⑫灰色シルト (黄白色粘土ブロック混)
  - ⑬淡褐色粗砂
  - ⑭灰色シルト (粘性強い、砂粒混)
  - ⑮黄白色礫ブロック (淡褐色粗砂含む)
  - ⑯灰色シルト (粗砂、粘土粒含む)
  - ⑰灰色シルト混粗砂 (粘性がある)
  - ⑱暗灰色シルト (白色粘土粒混)
  - ⑲淡灰色砂
  - ⑳橙色粘土粒 (黄褐色粗砂含む)
  - ㉑明灰色粘性シルト
  - ㉒淡黄褐色粗砂
  - ㉓淡灰色シルト (白色粘土粒を多く含む)
  - ㉔橙色砂質土
  - ㉕灰褐色粘質土 (SI09埋土)



### 第3節 縄文時代の遺構と遺物

本遺跡では縄文時代の遺構と遺物は非常に少なく、遺構は土坑が1基のみ、遺物は調査区内に散発的にみられただけであった。

#### 1. 検出した遺構

SK10 (第5、6図)

東2区、D5グリッドに位置する不整形な円形を呈した土坑である。直径は1.4mほどを測る。上部はかなり圃場整備によるものと思われる削平を受けており、検出した深さは最も深いところで0.25mであった。

また土坑中心部を東西方向に暗渠排水溝が横切っており、それより北側は南よりも削平の度合いが強く、遺構の壁面は南側の方が0.1mほど高く残存している。この影響か、出土した遺物も南側に密集した状態で検出した。さらに埋土中には植物遺体が多く含まれていたため、すべての土壌を採取し整理室に持ち込んだ。それらを水洗選別し、種子などの検出作業を行なった。同定作業の結果、コナラ属の炭化子葉と堅果片が確認された(第7節参照)。

これら遺物を取り上げ土坑底面を検出したところ、壁面及び壁の立上がり部分辺りに、直径0.1m内外の小さなピットを検出した。これらは多くが壁面内側へと掘られており、深いものでは0.2mほどのものもあった。さらに土坑周辺にも同規模のピットがみられ、この土坑になんらかの上屋構造物があったことも考えられる。

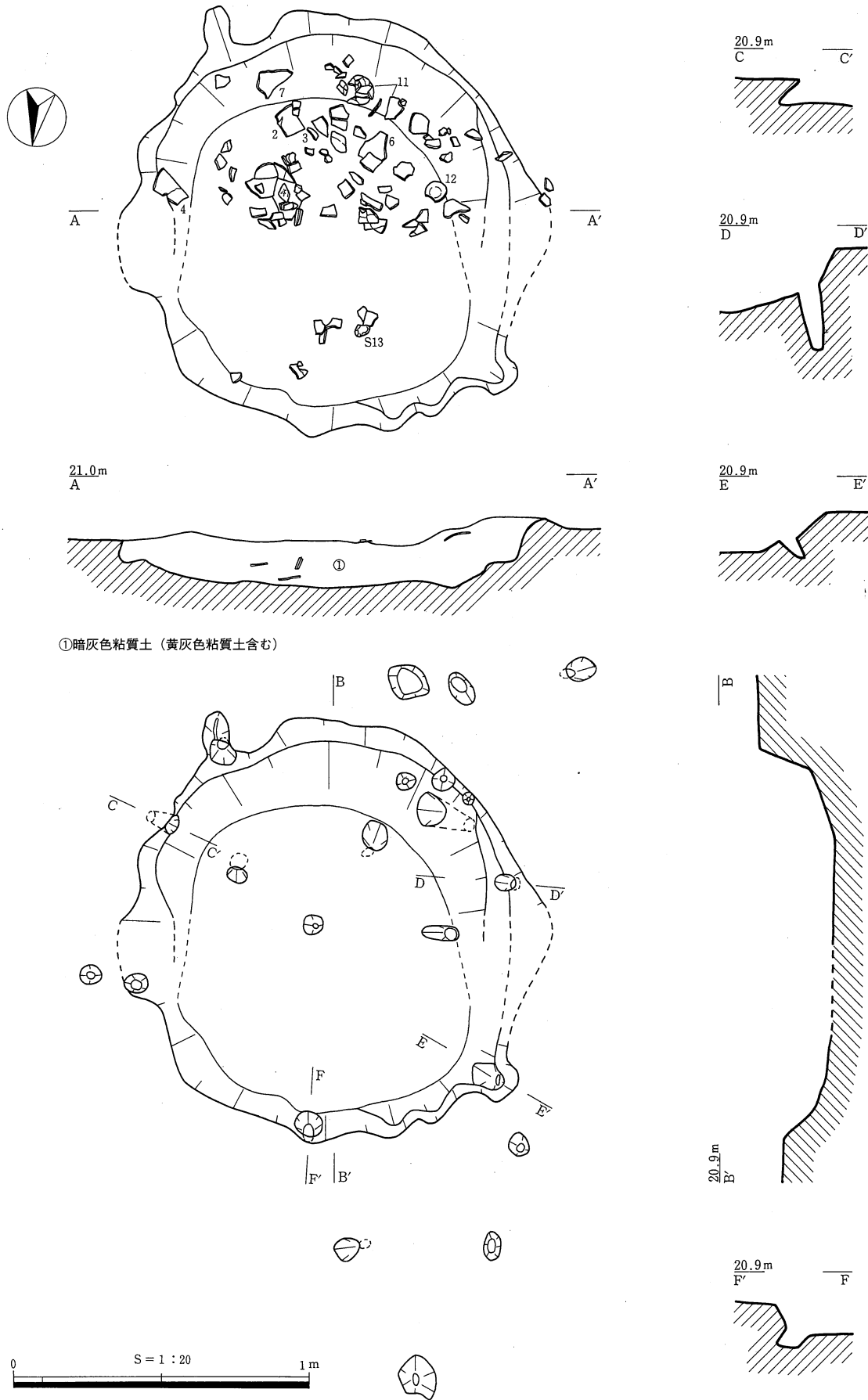
1～7、11～13は深鉢である。1は外反する深鉢の口縁部で、内外面横方向のミガキがみられる。口縁端部は肥厚し外面にRLの縄文を施した後、一条の沈線を巡らせる。2は波状の口縁部片で、全体に摩滅しており不明瞭ながら波頂部から斜めに垂下する2条+aの沈線がみられる。3～7は粗製のもので、内面ナデ、外面はケズリである。3は外反する、4はほぼ直立する口縁部。5・6は同一個体。5は口縁端部を折り曲げるようにして直立させるものである。外面の屈曲部より上をやや強くヨコナデしている。また内面の端部より少し下がった位置には突帯状のものが一条巡る。11は胴部から底部にかけて残るもの。底面はやや凹み底を呈す。摩滅しており不明瞭だが、外面には2条の並行する細い沈線が底面近くに巡り、そこから斜方向に伸びる2本の沈線が観察できる。12は凹み底の底部。8～10は同一個体の鉢。緩く屈曲する頸部を持ち、そこから上は無文である。胴部には縄文を羽状に施す。S1は黒曜石製のスクレーパー。(中森)

出土した土器は北白川上層式に比定され、土坑の時期は後期中葉に相当する。

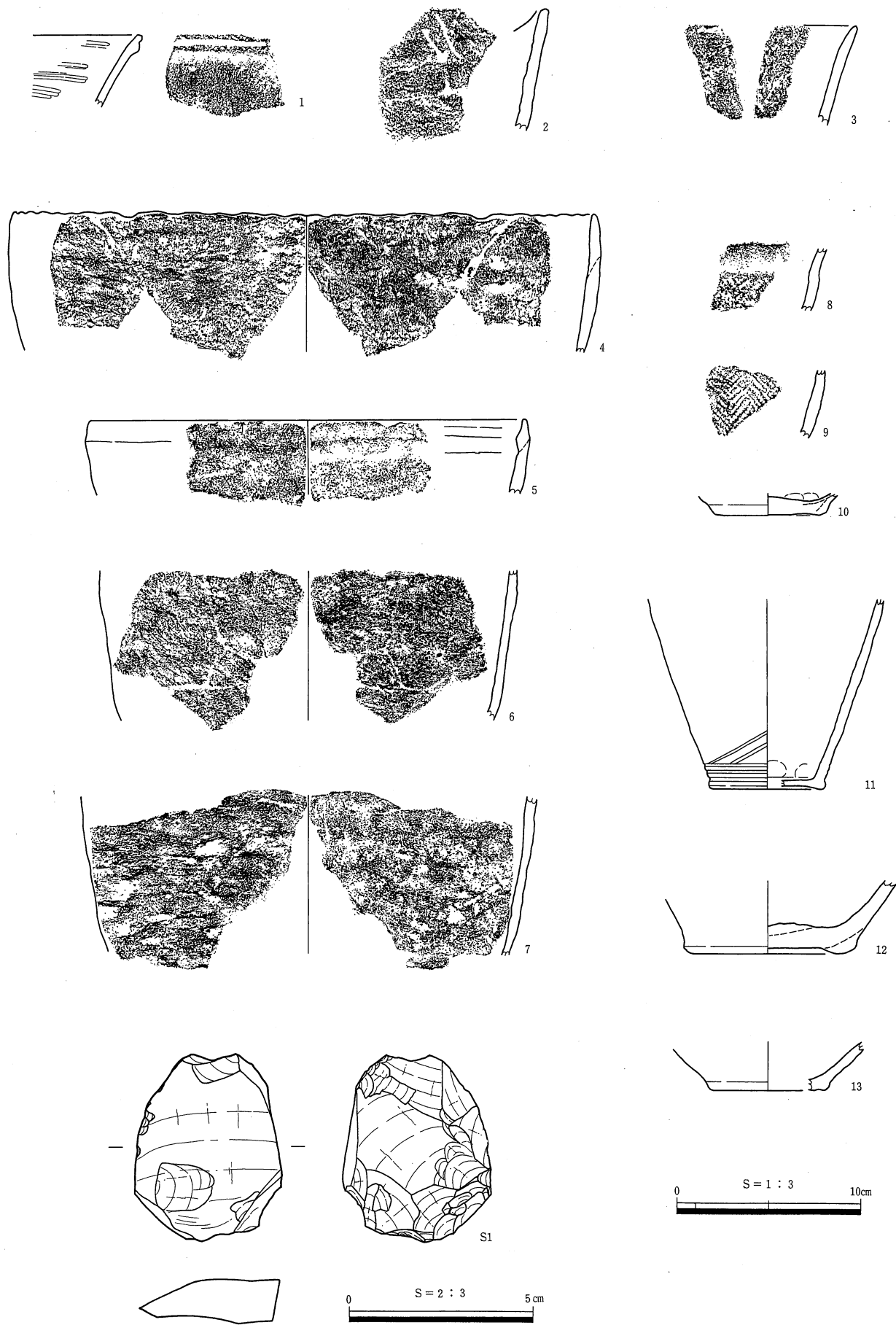
番号	地点	材質	全長	最大幅	厚さ	重量
S 3	A 3	安山岩	*1.9	1.5	0.3	0.6
S 4	F 11	安山岩	*1.8	1.3	0.3	0.5
S 5	C 5	安山岩	1.5	*1.1	0.2	0.3
S 6	B 5	安山岩	1.7	1.4	0.3	0.6
S 7	B 3	メノウ	1.8	1.3	0.4	0.8
S 8	B 11	安山岩	1.9	1.3	0.3	0.7
S 9	B 5	安山岩	1.7	1.5	0.3	0.8
S 10	SD10	安山岩	2.4	1.3	0.5	1.3
S 11	SD07	安山岩	2.4	1.4	0.3	1.0
S 12	SD07	安山岩	2.7	1.9	0.5	2.1
S 13	D 11	黒曜石	1.8	*1.4	0.4	0.9
S 14	A 2	黒曜石	*1.8	1.2	0.3	0.7
S 15	SD19	黒曜石	1.5	1.8	0.4	0.7

番号	地点	材質	全長	最大幅	厚さ	重量
S 16	C 3	黒曜石	2.1	1.8	0.4	1.6
S 17	SD02	青メノウ	*1.8	1.6	0.4	1.0
S 18	F 12	黒曜石	2.5	*1.2	0.4	0.7
S 19	SD19	黒曜石	2.3	1.2	0.3	0.7
S 20	C 10	黒曜石	*1.8	1.3	0.3	0.4
S 21	A 3	黒曜石	1.9	1.4	0.4	0.8
S 22	A 10	黒曜石	1.6	*1.3	0.3	0.5
S 23	E 4	黒曜石	*4.2	1.7	0.6	5.6
S 24	SD19	黒曜石	2.4	1.6	0.5	1.6
S 25	E 12	黒曜石	2.3	2.2	0.5	1.2
S 26	B 11	黒曜石	2.1	1.6	0.3	0.8
S 27	SI09	黒曜石	2.7	*1.8	0.4	1.6
S 28	B 7	黒曜石	0.6	*1.2	0.3	0.3

石鏃一覧表 (法量の単位はcm、重量はg、\*は残存値)



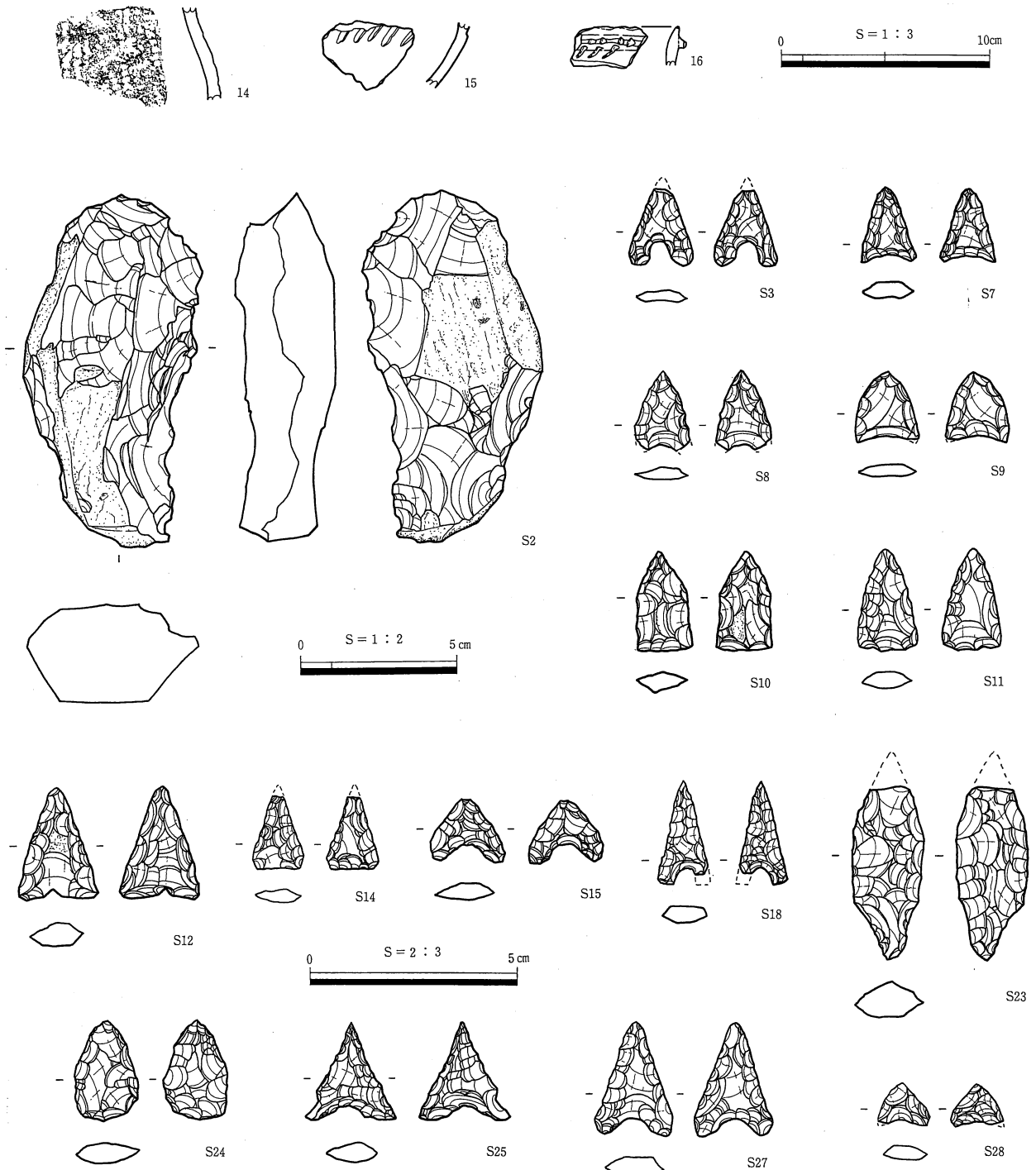
第6図 SK10実測図



第7図 SK 10出土遺物実測図

## 2. 遺構外出土遺物 (第8図、図版16)

図示し得た土器は3点のみである。14は頸胴部片。粒の大きい縄文R Lが縦位に施される。15は浅鉢の胴部である。S K 10の南東5 mほどのところに位置するS I 01内P 560から出土。斜位の刻み目が巡るもので、北白川上層式に比定される。16は晩期後葉の突帯文土器である。突帯上に小D字が施され、また突帯下部にも胴部にかけて刻み目がある。S 2は黒曜石の石核である。調査区内からは33点の石鏃が出土しているが、その大半が耕作土や遺物包含層、あるいは中世の溝状遺構内からのものであった。そのため弥生時代に属する可能性のあるものも含まれているかもしれないが、ここで一括した。(中森)



第8図 遺構外出土遺物(黒曜石)実測図

## 第4節 弥生・古墳時代の遺構と遺物

本遺跡の中心となる時代であり、特に弥生時代後期から古墳時代後期にかけて多くの遺構・遺物を検出した。遺構は竪穴住居跡9棟、掘立柱建物跡15棟、土坑5基、溝状遺構27条などで、これらは調査区南半分にほとんどが分布する。

### 1. 検出した遺構

#### ・竪穴住居跡

9棟を検出したが、建て替えられたものがほとんどを占める。また削平が著しく、規模などの全容を知り得るものはまったくなかった。

#### S I 01・02・03 (第9、10図)

東3区のE5・6グリッドに位置する。中央は東西方向に掘削された排水溝による攪乱を受けている。圃場整備によって全面的に削平を受けていたが、南側に弧状の周溝を3条検出した。円形の住居で少なくとも2度の建て替えが行われている。周溝の内側のものから外側に向かってS I 01、02、03と呼称する。

S I 03の遺構埋土は基本的には黒褐色粘質土の1層であり、切り合いが見られないことから、この一番外側の周溝をもつ住居が最も新しいものと判断した。直径約7m、床面積約39㎡と推定する。周溝の断面形は逆台形を呈し、幅は約0.2m、住居床面からの深さは約0.05mを測る。南側で部分的に貼り床を検出しており、厚いところで約0.1mを測る。床面で焼土痕は検出していない。

中央ピット(P323)の平面形は隅丸方形で長軸1.1m、短軸0.7m、床面からの深さは0.45mを測る。埋土は床面埋土と同質であり、下層は炭化物を含んでいた。この土壌を水洗選別し分析をした結果、炭化米とイヌビエが検出された(第7節参照)。底面の四隅に直径0.05~0.1m、深さ約0.1mの小さな窪みが認められた。埋土は暗灰色粘質土で、木杭のようなものがあつたのであろうか。その用途は不明である。

S I 02は長軸約6.5m、短軸約5.5mの楕円形、床面積は約27㎡と推定する。S I 02の周溝はS I 03の周溝のやや内側を巡っており、S I 03の貼り床によって一部被覆されていた。周溝の断面形は逆台形を呈し、幅は約0.15m、住居床面からの深さは約0.1mを測る。中央ピットは位置から見てS I 03と共通と考える。

S I 01は直径約4.8mの円形、床面積は約18㎡と推定する。周溝は拡張時の掘削によって分断されたと見られ、一部は貼り床によって埋め立てられていた。その断面形はV字形ないしU字形を呈し、幅0.1~0.15m、床面からの深さ約0.05mを測る。中央ピットは位置的にS I 03のものとは共通しないと考えられる。

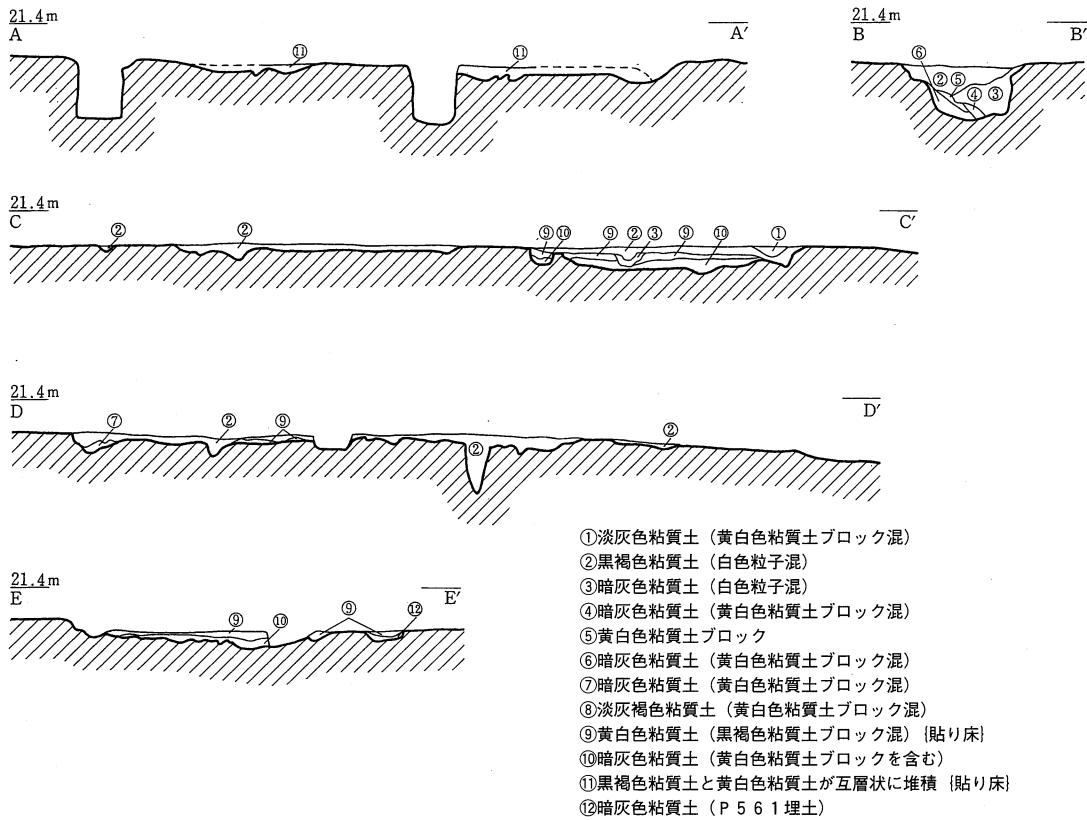
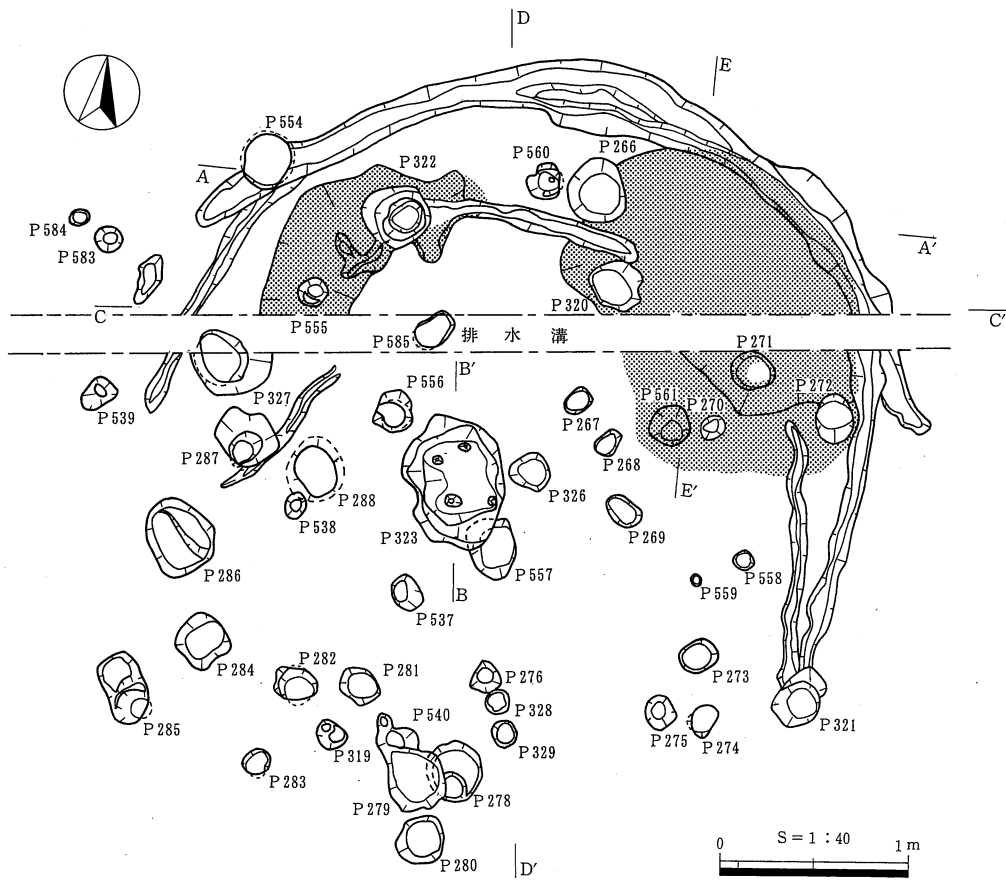
中央ピットの他にこの一帯で45基のピットを検出しており、この中からそれぞれの住居の主柱穴を抽出する。残存する貼り床はS I 01の周溝を埋めることからS I 02、03に伴うものであり、貼り床の下から検出したP561はS I 01の、貼り床の上から検出したP266、P270、P271、P272、P320、P332、P555はS I 02あるいはS I 03の柱穴の可能性が考えられる。貼り床土で根固めされたP271は確実に竪穴住居に伴うものである。P557、P585は埋土が地山土と同質で柱痕跡がなく、P286は須恵器片が出土し住居跡と時代が異なるため除外される。さらに個々のピットの底面標高を比較すると(第10図中の表参照)、0.2m単位で大きく4つのグループに分けられる。このうち浅い方の2グループ、標高20.7m以上(深さ0.35m未満)のものは直径が0.1m前後で、標高20.7m未満(深さ0.35m以上)のものが0.2~0.3mを主体とするのに比べてかなり小さい。これに従い標高20.7m未満のものを主柱穴の可能性が高いピットと判断する。さらにそれぞれの周溝との位置関係及び拡張の方向などを考慮した結果、以下の組み合わせが考えられる。

S I 03の主柱穴は、P266、P272、P280、P284、P321、P322、P327。

S I 02の主柱穴は、P271、P273、P279、P284、P287、P555、P560。

S I 01の主柱穴は、P275、P281、P556、P561。

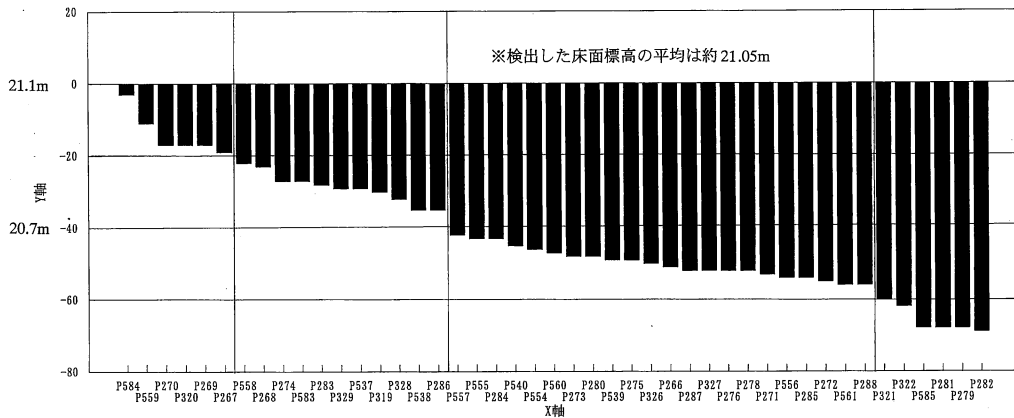
その他のピットは補助柱か、あるいは時代を異にするものと判断する。



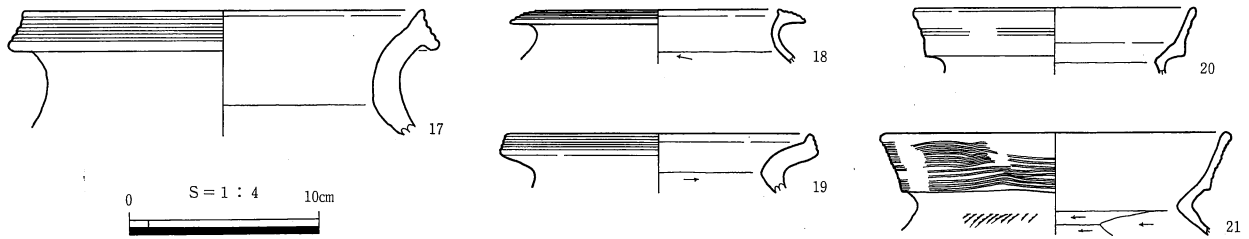
第9図 S101-03実測図



SI01, 02, 03 Pit底面標高



縦軸0を標高21.1mとする



第10図 S I 01~03変遷図及び出土遺物実測図

遺物はいずれも埋土中から出土し、床面直上のものはない。壺（17）、甕（18、19）が弥生時代後期前葉、甕（20、21）が後期後葉に相当する。一番新しいS I 03の時期は弥生時代後期後葉と考えられ、S I 02、01については弥生時代後期の範疇に収まるものであろう。（家塚）

S I 04（第11図）

東4区、C・D14グリッドにおいて検出した方形の竪穴住居跡である。主軸は南北ラインよりやや西側に振れるが、東に隣接するS I 08・09と同じ向きを示す。東側は調査区外へと続くため全容は不明であるが、一辺の長さは6.1mほどを測るものと思われる。深さは0.6m。住居内にはピットを10基検出したがそれらは密集しており、この建物の主柱穴がどれであるかは特定できなかった。またP 602に西接するように浅く幅広い溝状遺構を検出したが、この性格も不明である。

出土した遺物は少量であった。22は土師器甕、23は須恵器高坏、24は坏蓋で住居床面で検出した。本竪穴住居跡は古墳時代後期に属するものと考えられる。（中森）

S I 05・06・07（第12図）

東4区、D11・12グリッドに位置する。鉤状の周溝を3条確認し、大半は調査区外になるため詳細は不明だが、方形の住居跡3棟と認識した。内側の周溝から順にS I 05、06、07と呼称し、以下順に記述する。

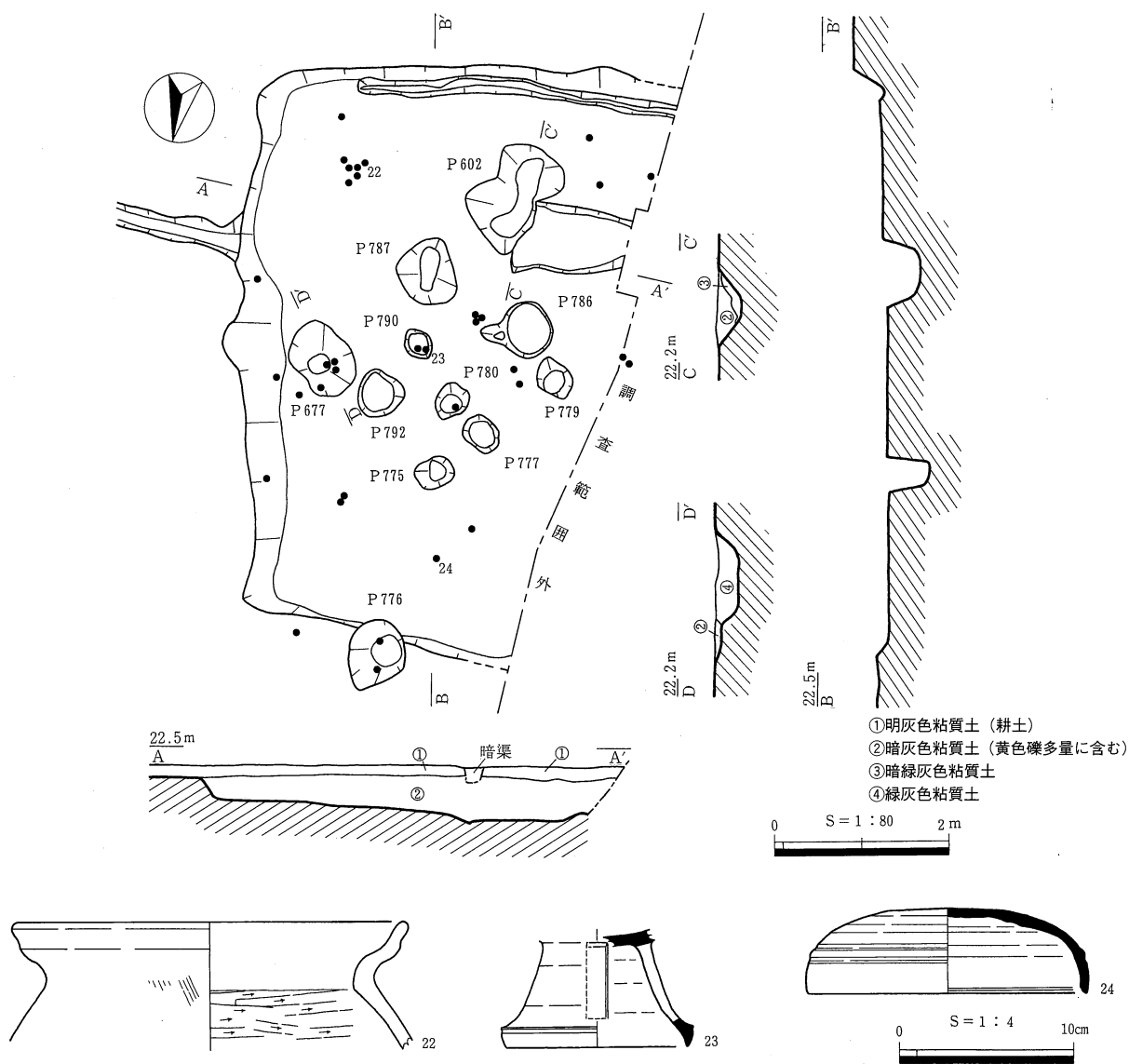
S I 05の一辺の長さは1.4m以上。周溝の断面形はU字形で、幅約0.1m、深さ約0.05mを測る。S I 06の一辺の長さは1.8m以上。周溝の断面形はU字形で、幅約0.15m、深さ約0.1mを測る。S I 07の一辺の長さは2.8m以上。周溝の断面形はU字形で、幅約0.15m、深さ約0.1mを測る。北東側の辺の周溝から派生し、南西方向に伸びる溝があり、S I 05、06の周溝を切る。その断面形はU字形で幅約0.2m、深さ約0.1mを測る。これらに伴う柱穴はいずれも検出されなかった。溝の切り合いからS I 07はS I 05、06よりも後出と考えられる。

周溝から遺物は出土しておらず、この遺構の時期を決定する決め手に欠く。住居跡を被覆する土層はS D 40から流出した土砂と考えられ、図示した土師器の高坏 (25) 及び磨石 (S 29) は床面付近から出土したものである。東側のS D 21の方向と住居跡の周溝の方向がほぼ並行することから、両者に関連があるものとするれば、古墳時代中期と考えられる。 (家塚)

S I 08・09 (第13、14図)

東4区、D14グリッドにおいて検出。西側には同規模のS I 04がある。これらの北側にはS D 40があり、それによる削平をかなり受けているものと思われる。

S I 08は北側をS I 09に切られ、辛うじてその南壁を検出できた。地山を削って造られており、その長さは約



第11図 S I 04実測図及び出土遺物実測図



5 m、深さは 0.3mほどで、周囲には深さ0.05mほどの周溝が巡らされている。また南壁中央に接して径 1 mほどの円形土坑 (P 788) があるが、特殊ピットと考えられる。さらに位置から考えて P 760 が中央ピットであろう。

遺物 (第13図) は住居内南西隅に土師器甕の口縁から胴部上半のものが 3 个体 (27~29)、口縁部を下に向けた状態でかたまって出土した (図版13)。30は完形の土師器坏、31、32は高坏、33は脚部である。34は須恵器蓋、S 30は花崗岩製の砥石。

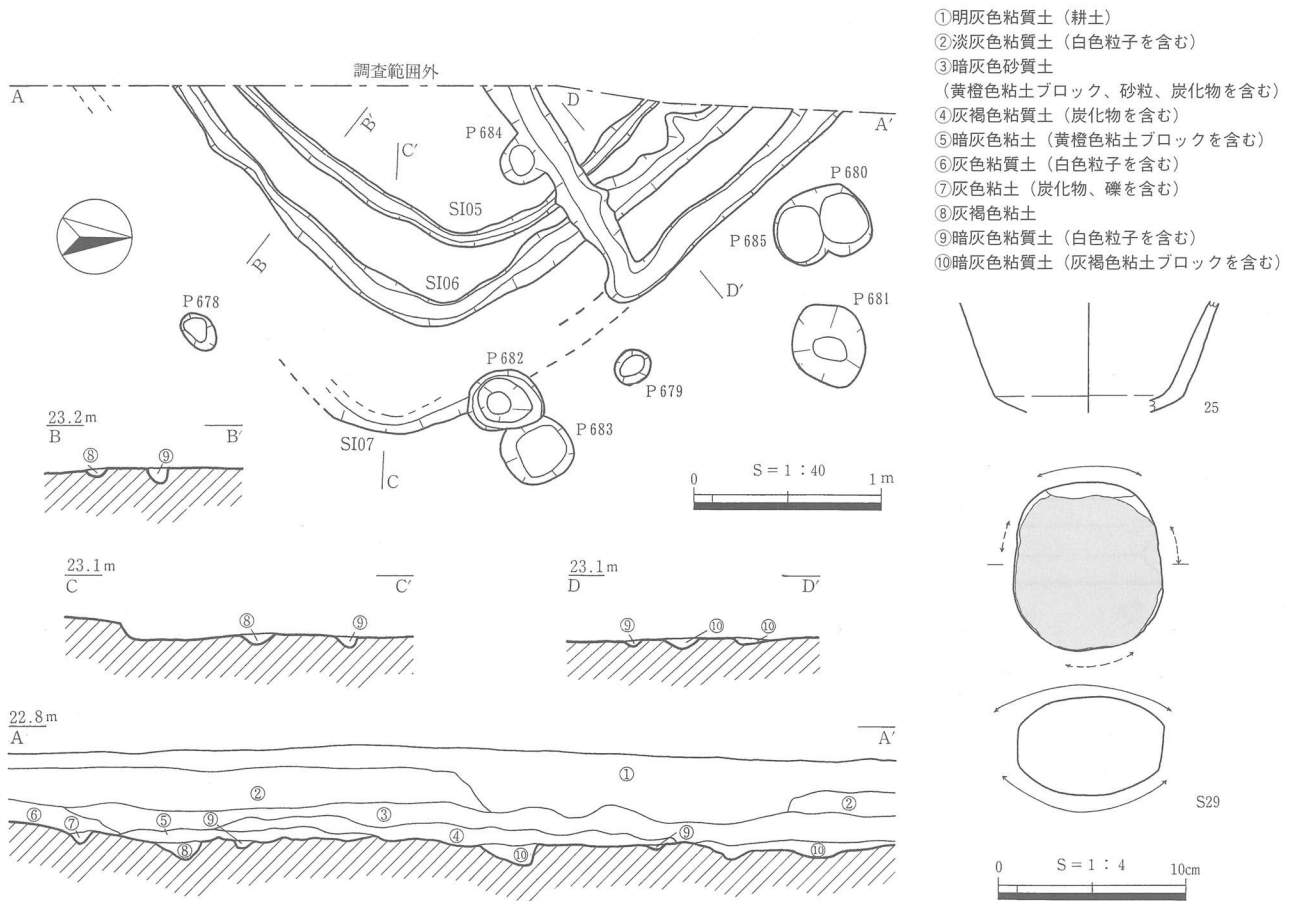
S I 09は S I 08を切り、またその床面をわずかに掘り込み、やや北東にずれて造られている。その規模は S I 08と同じであったと思われ、西側周溝の長さは約 5 mを測る。深さは 0.5mほどを検出し得た。この北壁を平面では明確に捉えることができず、断面によって確認するに止まった。それによれば S I 08を埋めるにあたり少なくとも 2度に亘って埋められているが、とくに叩きしめることはしなかったようである。また壁面も同様である。遺物は住居内からまばらに出土した (第14図)。35~37は土師器、38~43は須恵器である。

以上の遺物などからいずれも古墳時代中期後葉~後期に位置付けられるものであり、かなり短期間で建て替えが行なわれたと思われる。なおピットが14基検出されたが、いずれの住居の支柱穴であるかはわからなかった。

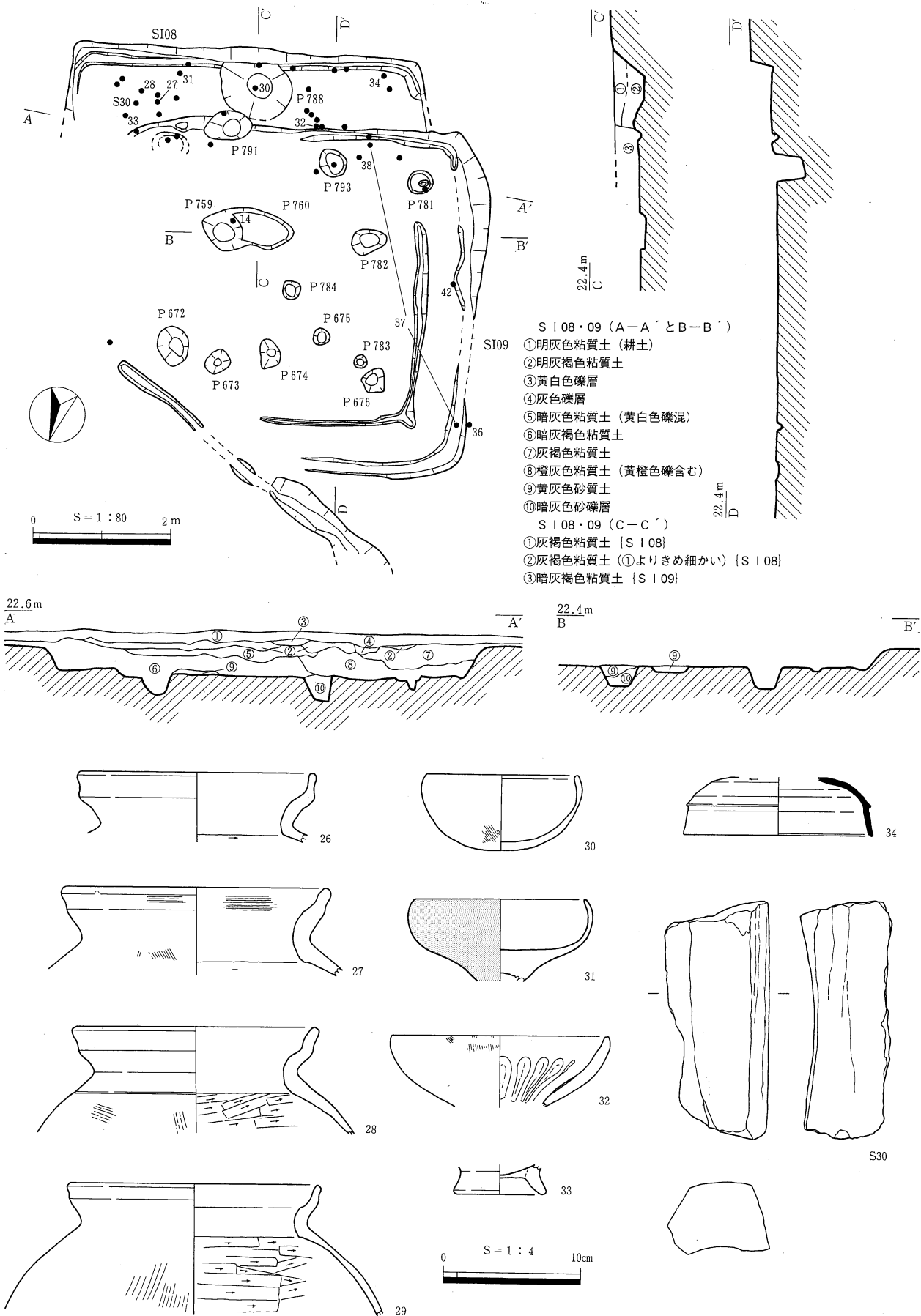
(中森)

・掘立柱建物跡

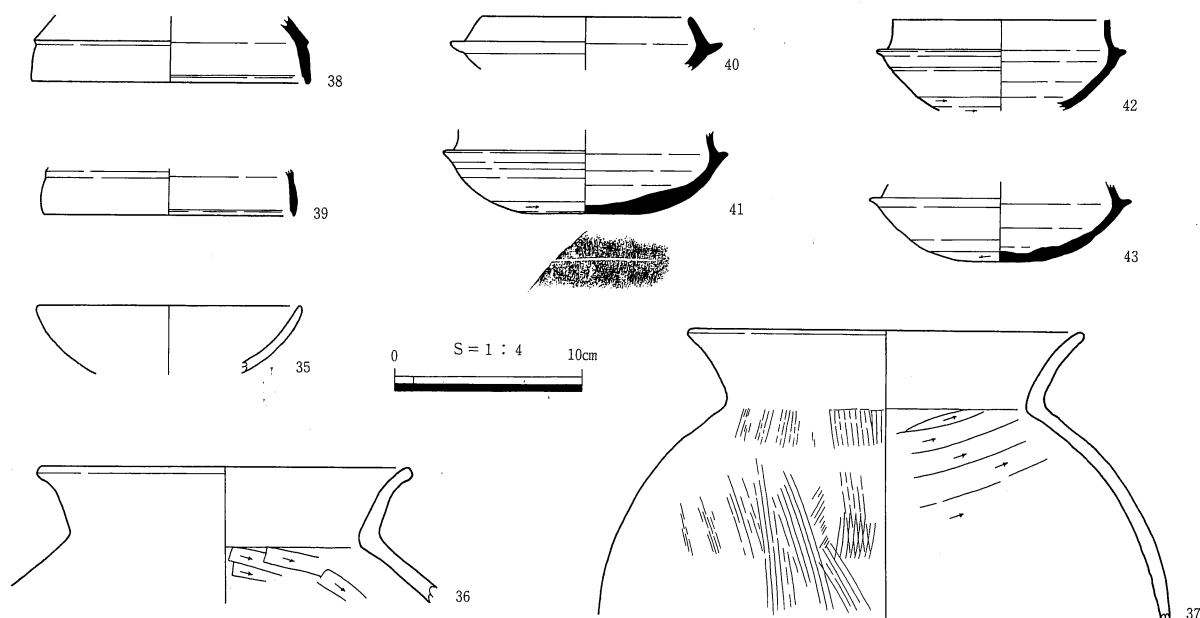
東 2~4 区にかけて検出した。1 間×1 間のもの 6 棟、1 間×2 間は 3 棟、2 間×2 間が 2 棟、1 間×3 間が 3 棟とバリエーションに富む。ピット内から出土する遺物は僅かで、図示できたものも S B 13~15出土品だけであった。そのためこれら掘立柱建物跡の時期を決定する要素は少ないが、これらが後述する S D 19などと並行または直交する向きで建てられていることから、弥生時代後期から古墳時代中期にかけてのものと考えられる。



第12図 S I 05~07実測図及び出土遺物実測図



第13図 S 108・09実測図及びS 108出土遺物実測図



第14図 S I 09出土遺物実測図

S B 01・02 (第15図)

東2区に位置する。北から東へ55度の主軸をもつ1間×1間のもので、やや平行四辺形を呈する。建て替えが行なわれており、S B 01が2.4×2.1m、S B 02はやや拡張されて2.8×2.3mの規模をもつ。いずれのピットも径が0.2~0.3m、深さも0.2~0.3mを測る。東にはやはり建て替えの行われた同じ方向を向くS B 11、12があり、同時期に併存したものであろう。

S B 03 (第15図)

東4区にて検出した2.0×2.1mの正方形に近いもの。主軸は北から東へ45度の方向をとる。ピットプランは楕円形を呈し長径が0.4~0.5m、短径0.3~0.45m、深さは0.4~0.5mである。

S B 04 (第15図)

東3区にて検出した1間×1間の方形を呈すもの。2.8×2.3mを測り、北から東へ85度の角度をもつ。検出したピットは径が0.3~0.4m、深さは0.2mほどと浅い。S B 14と重なって位置しているが、時期的な前後関係は不明である。

S B 05 (第15図)

東3区にある1間×1間、柱間が1.8mの正方形のもの。その軸線は北から7度東を向く。ピットの大きさが径0.3~0.6mと様々であり、深さは0.2~0.3mを測る。

S B 06 (第15図)

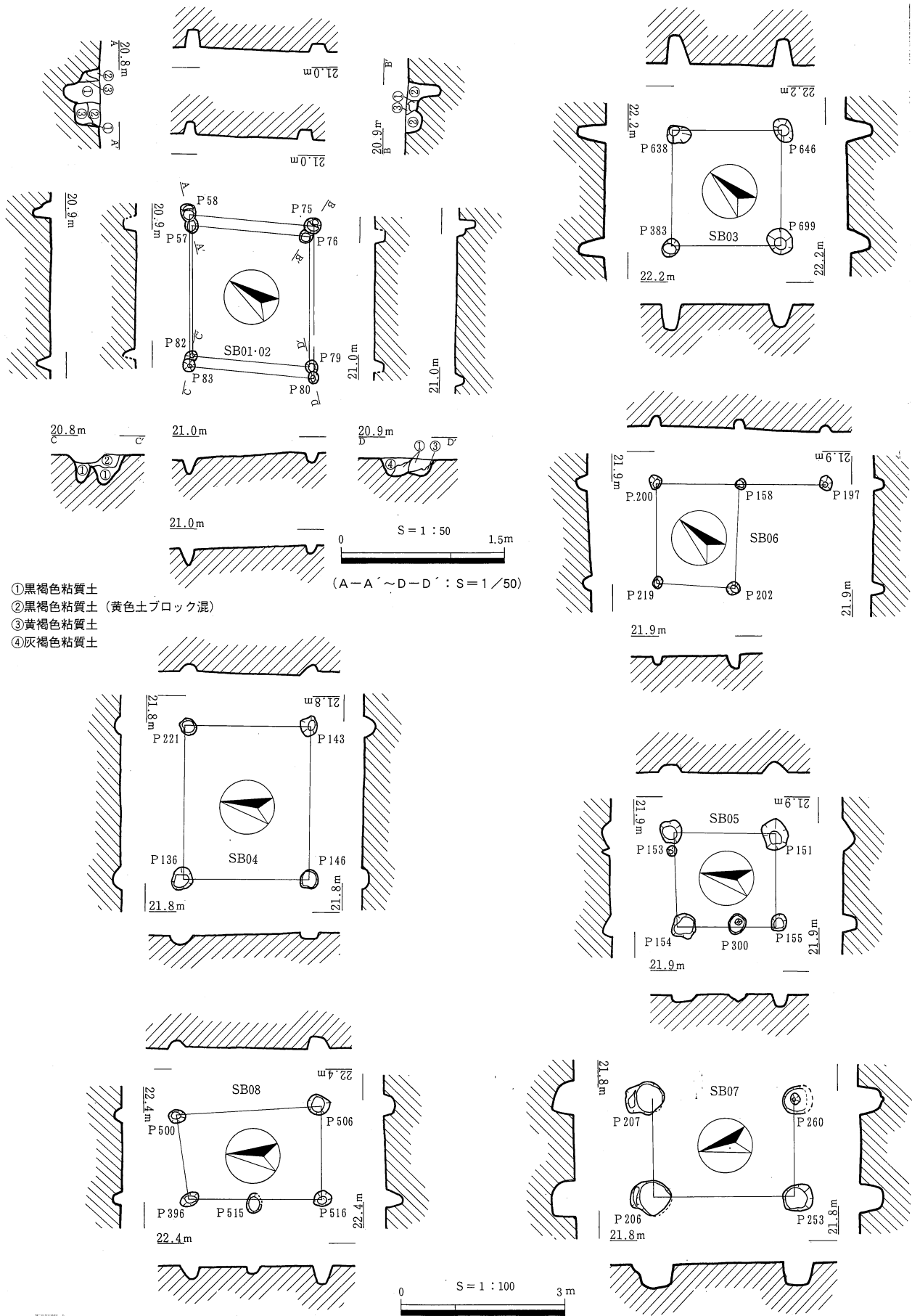
東3区に位置する。北東側は柱穴が3基並ぶが、それに対応する南隅にピットはみられなかった。北東側は柱間1.5m、南東は1.8mを測る。北東列は北から東へ41度の角度をもつ。ピットは径が0.2mほど、深さ0.1~0.2mであった。

S B 07 (第15図)

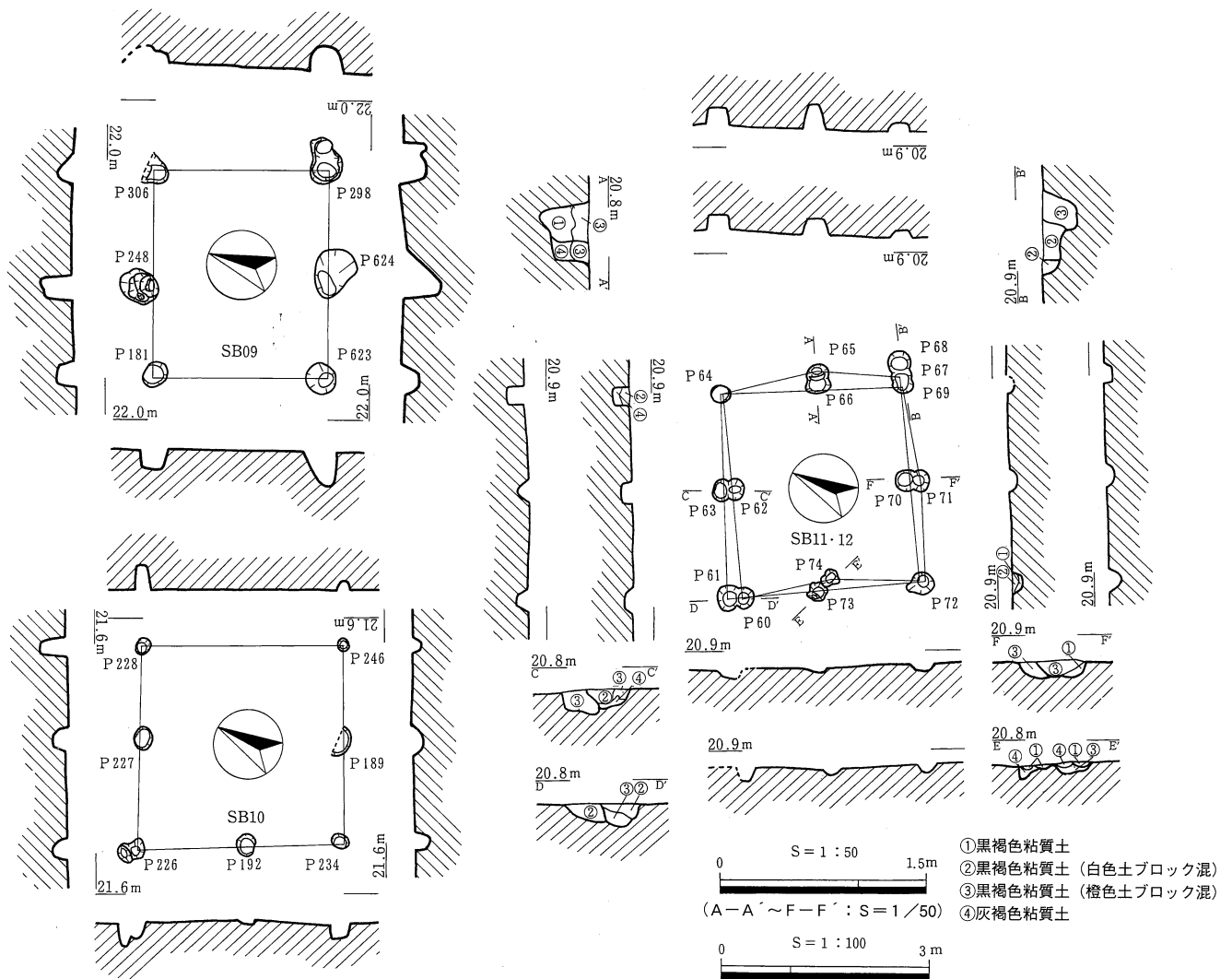
東3区調査区東側に位置する。柱間は長辺が2.5m、短辺は1.8mを測り、またピットも径が0.5~0.6m、深さ0.5mと他のものに比べ大きい。これらの規模からして、この掘立柱建物跡はおそらく調査区外へ続くものと思われる。

S B 08 (第15図)

東4区に位置するややいびつな1間×2間の掘立柱建物跡。東列真ん中のピットはS D 29に切られたと考えられる。ほぼ南北に主軸をもち、柱間は1.2×1.7mを測る。ピットは径が0.3~0.4m、深さは0.2~0.4m。



第15図 堀立柱建物跡実測図(1)



第16図 掘立柱建物跡実測図(2)

SB09 (第16図)

東3区に位置する1間×2間のものである。柱間は1.5×2.5m、主軸は北から71度東の方向をとる。ピットの規模は0.4~0.7m、深さは0.2~0.5mを測る。

SB10 (第16図)

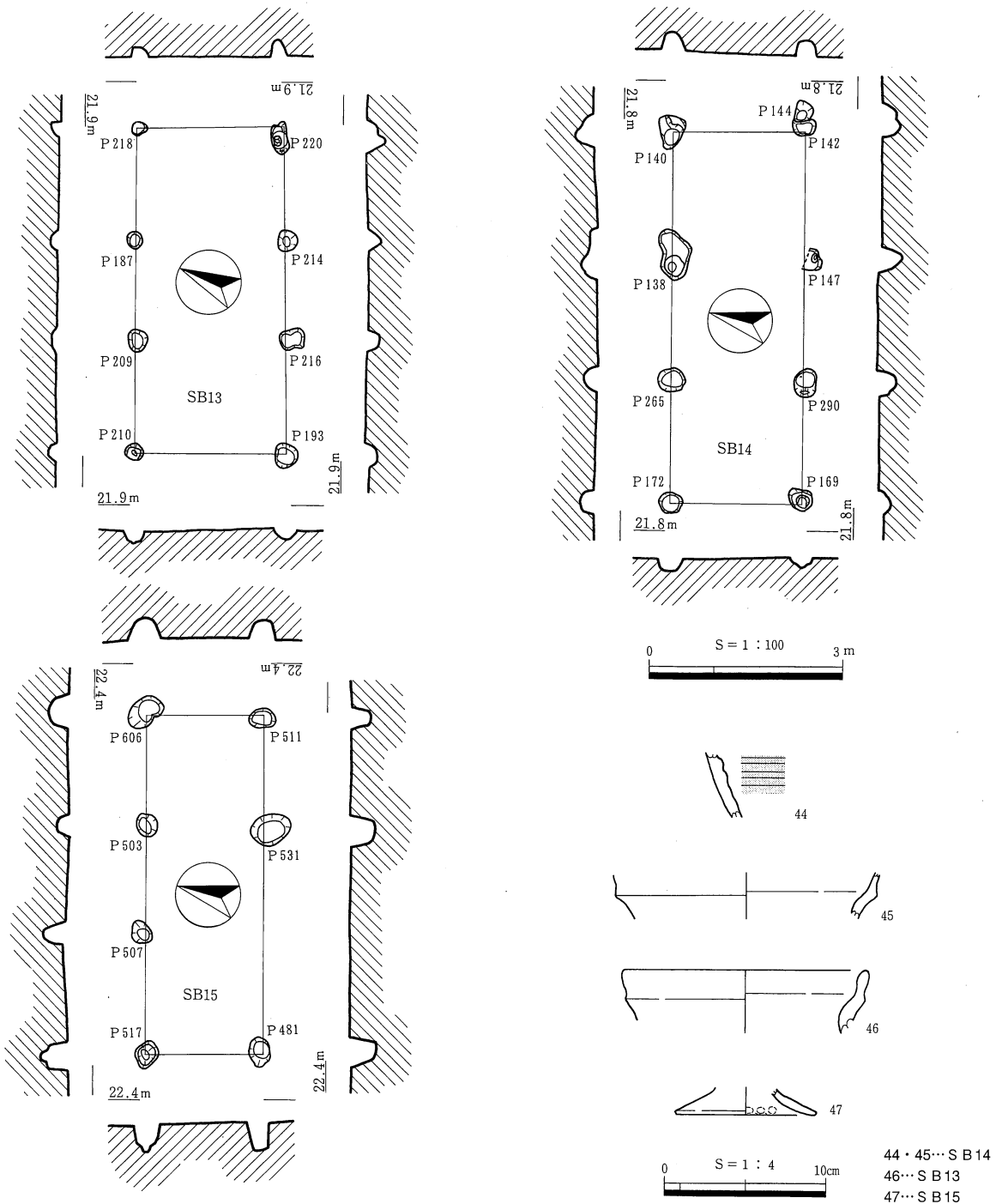
東3区に位置する。柱間約2.9×1.4m、1間×2間の掘立柱建物跡である。ピットは径0.2~0.3m、深さ0.15~0.2mと規模は小さい。主軸は北から65度東を向く。

SB11・12 (第16図)

東2区、SB01、02の東に位置する2間×2間のもの。その向きが同じであること、またどちらも一度建て替えが行なわれていることから、同時期に併存していたものと考えられる。柱間はいずれも1.4~1.5mを測り、ピットの規模は径約0.4m、深さは0.1~0.2mである。

SB13 (第17図)

東3区に位置する1間×3間の掘立柱建物跡である。東から2列目のピットにはさらに左右にそれぞれ1、2個のピットが並ぶ。柱間は2.3×1.7mで、主軸は北から64度東を向く。P214からは土師器甕の口縁部(46)が出土した。



第17図 堀立柱建物跡実測図（3）及び出土遺物実測図

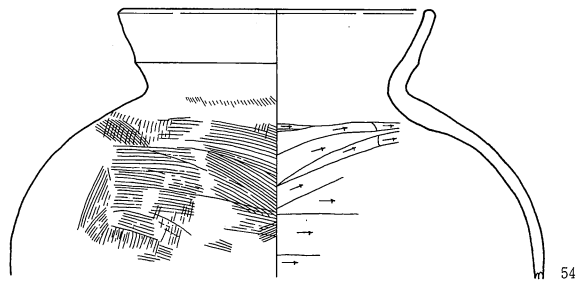
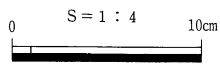
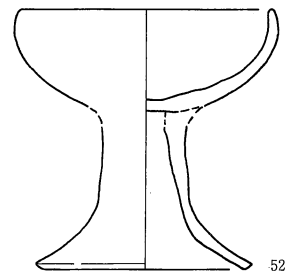
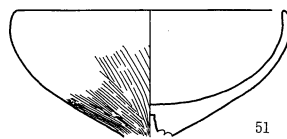
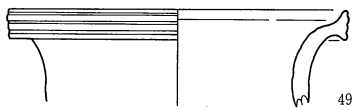
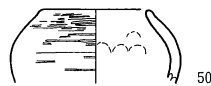
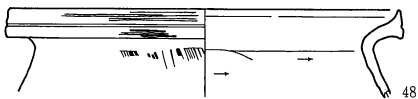
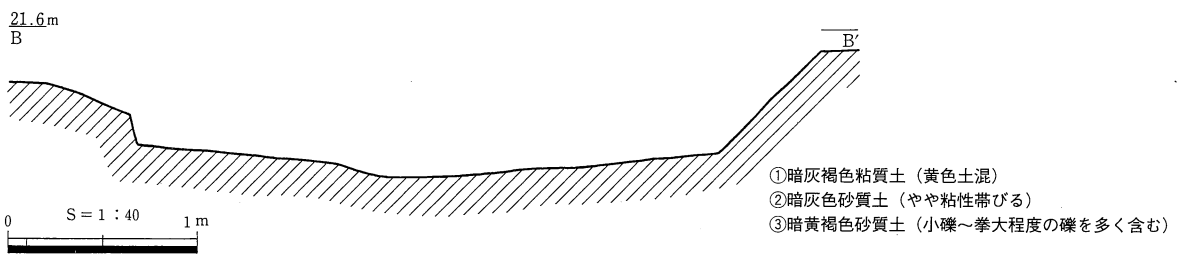
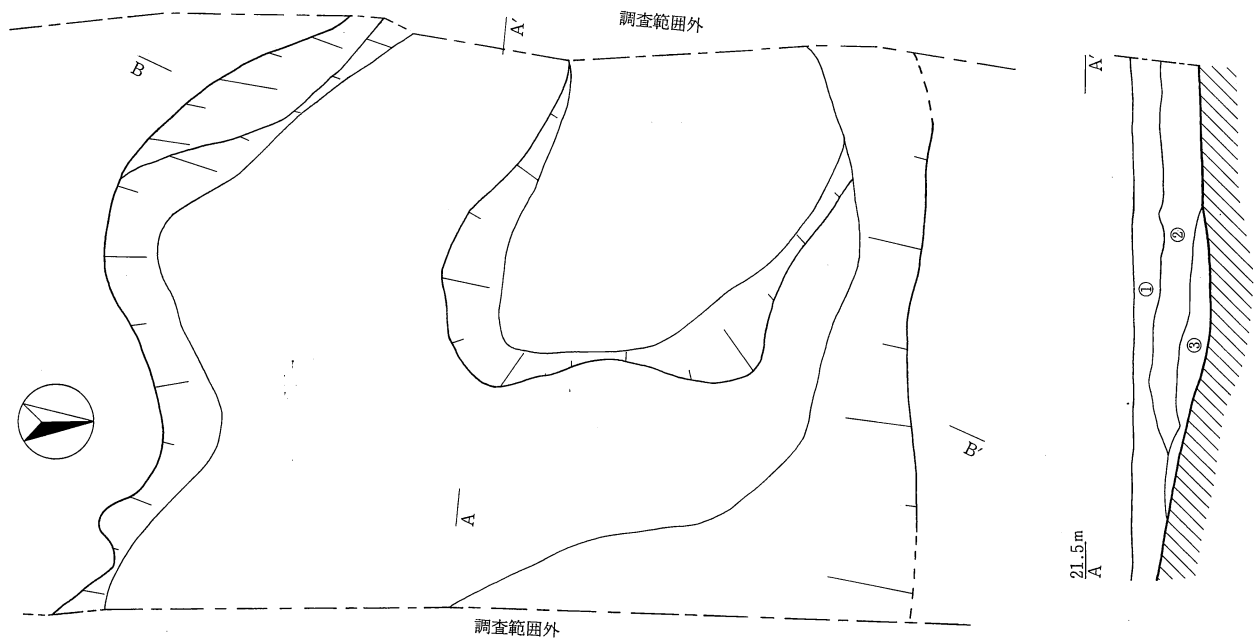
SB14（第17図）

東3区にあり、SB04と重なる。主軸は北から東へ76度の方向をとる。柱間は2mを測り、ピットの径0.4mほど、深さは0.2~0.3mであった。P138からは弥生時代中期後葉の壺頸部（44）、後期の甕（45）の頸部が出土している。

SB15（第17図）

東4区、SD30を跨ぐように位置している。主軸は北から東へ76度とSB14と同じ方向をとる。南列の東から3基目にはピットは検出できなかった。ピットは0.3~0.6mの径をもち、深さ0.2~0.45mを測る。P511から土師器高坏脚部片（47）が出土した。

（中森）



第18図 S K 30実測図及び出土遺物実測図

・土坑状遺構

遺物を出土したものがほとんどなく、また上部は削平を受けているためその掘り込み面も確認できず、時期決定できる土坑は5基のみであった。

S K 06 (第19図)

東1区、D2グリッドで検出した不整形な土坑である。北西-南東を軸としたもので、南東側は緩やかな斜面になり、北西に楕円形の落ち込みがある。検出した深さは約0.3m、長軸は1.25mを測る。55は甕である。口縁部がやや外反するもので、外面は縦方向のハケメ、内面は頸部までケズリがみられる。他に図示できなかったが、弥生土器あるいは土師器片が出土している。(中森)

S K 18 (第19図)

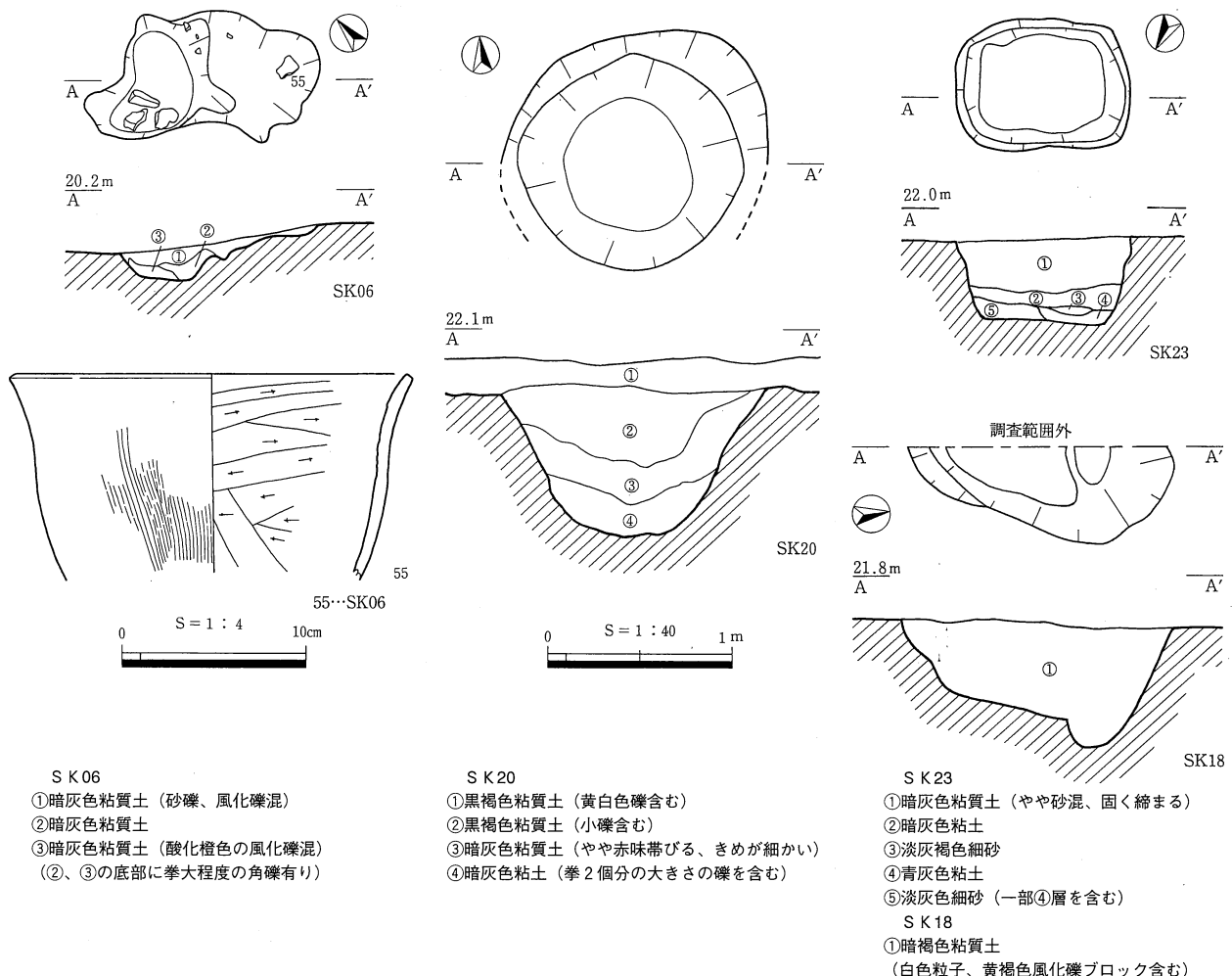
東3区、D6グリッドにおいて検出した。西側は調査区外へと続いており、その形状は不明である。出土遺物はないが、層位的な検討から本遺構は弥生時代後期以前のもと考えられる。(中森)

S K 20 (第19図)

東4区、E11グリッドで検出した円形の土坑。直径は1.4mほどを測る。検出した深さは0.8m、黒褐色、暗灰色などの粘性の強い土が厚く堆積している。出土遺物はなく、層位的な検討から古墳時代中期以前のもと思われる。なお同様な形状、規模をもつものを西1区においても2基(SK01、04)確認している。これらの性格についてはわからないが、いずれも底面が湧水点に達しており井戸の可能性も考えられよう。(家塚)

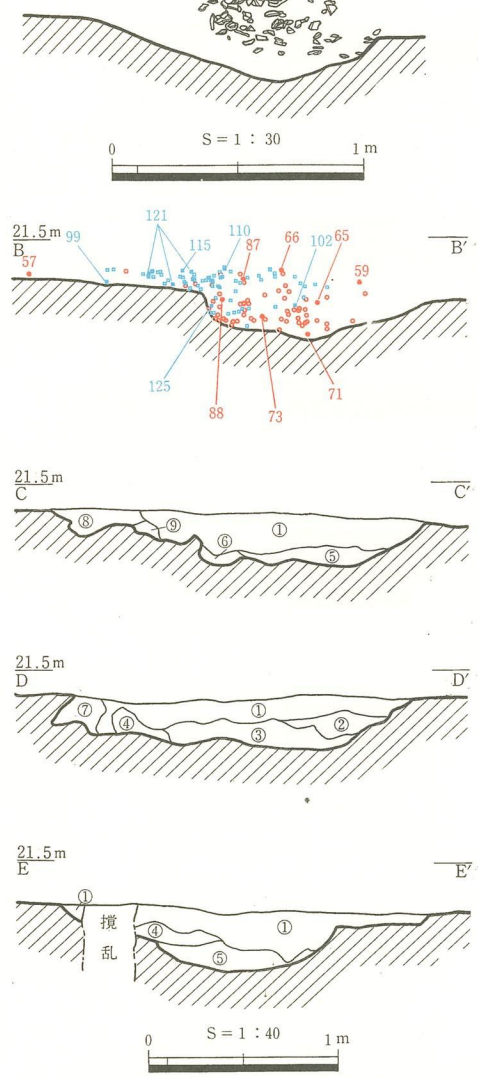
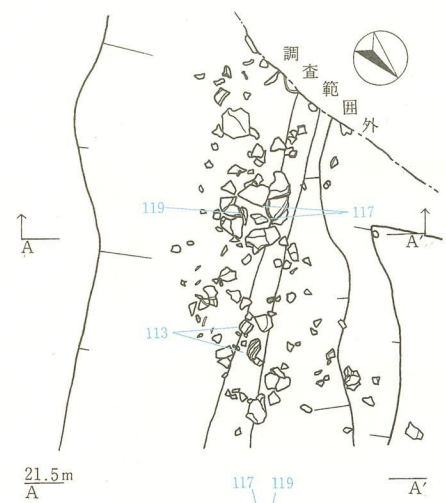
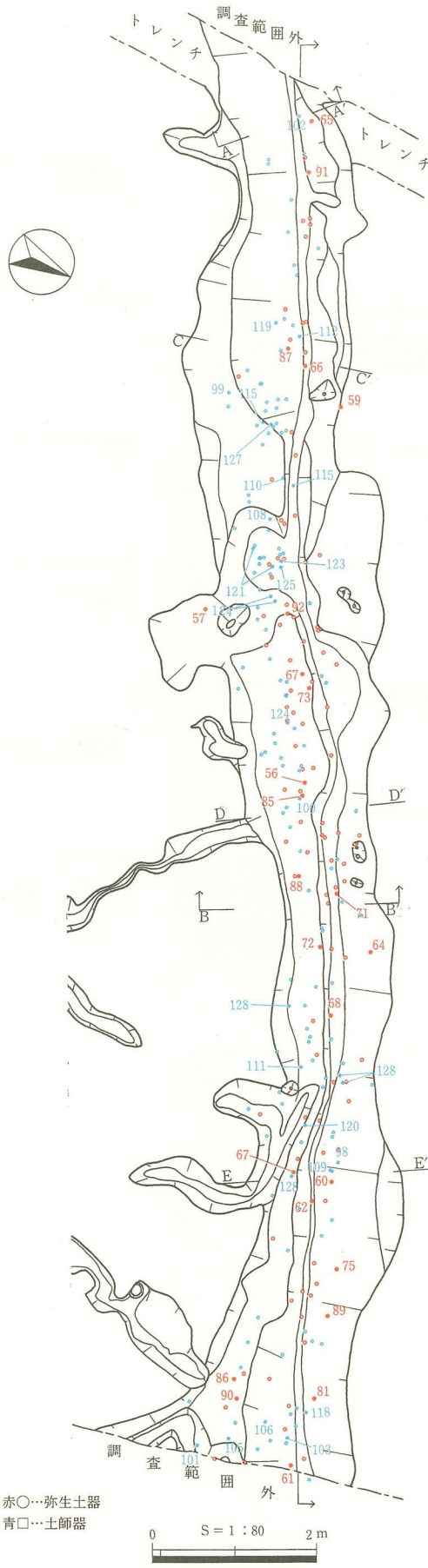
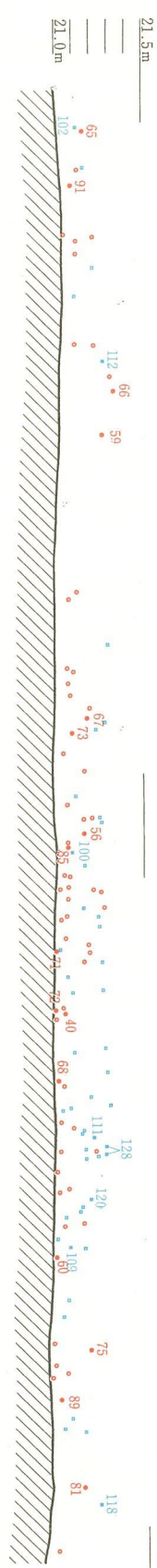
S K 23 (第19図)

東4区、F13グリッドにおいて検出。隅丸の方形を呈した土坑である。長軸は0.95m、短軸は0.7m、深さは



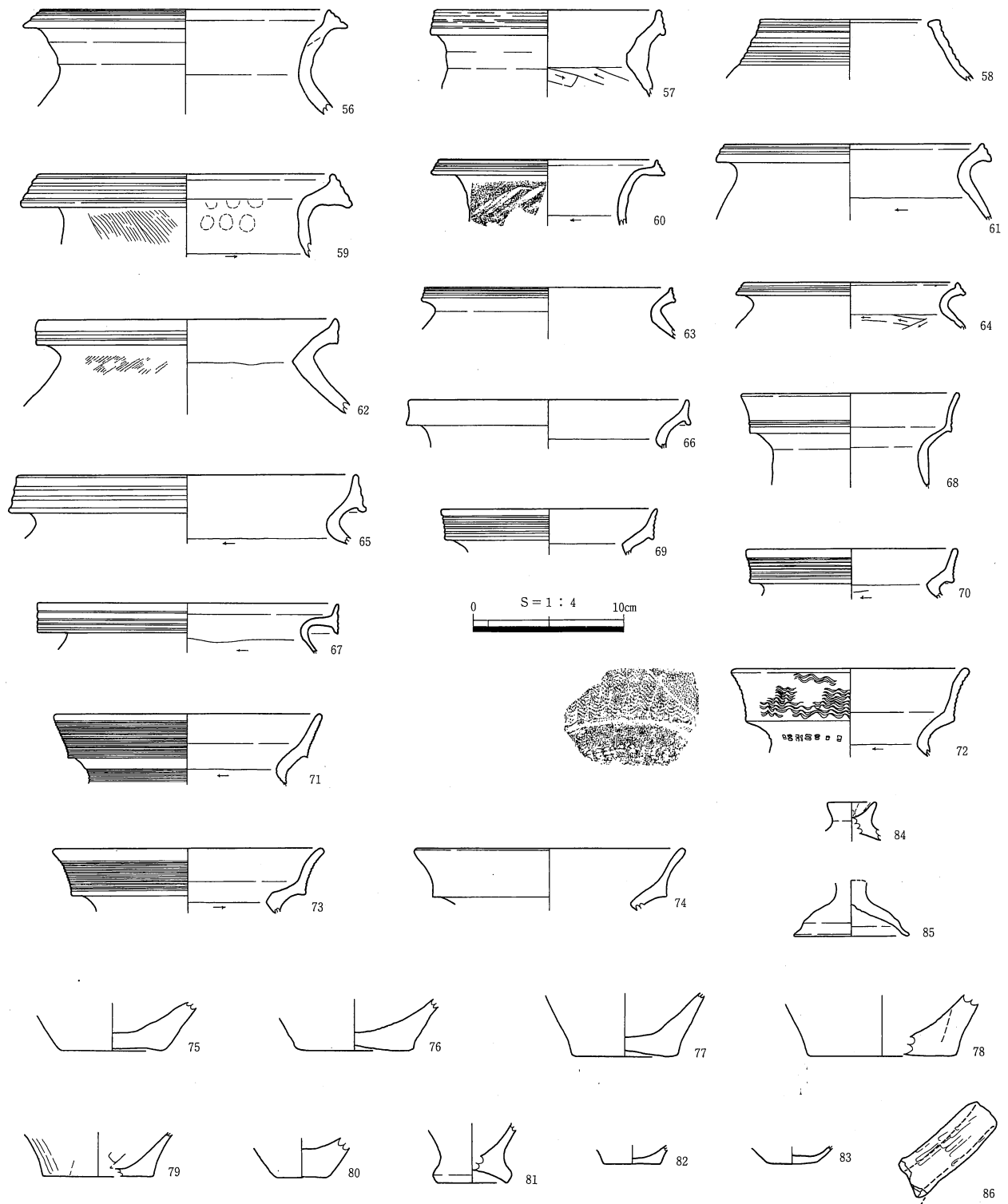
第19図 S K 06・18・20・23遺構実測図及びS K 06出土遺物実測図



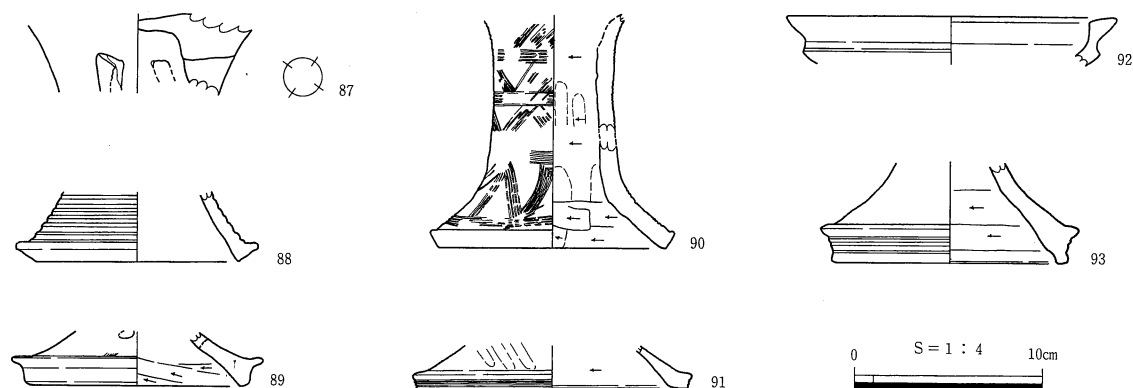


- ① 灰褐色砂質土 (黄色土粒を含む、しまり悪い、やや粘質)
- ② 暗褐色粘質土
- ③ 暗褐色粘質土 (黄色土ブロック混じり)
- ④ 黒褐色土 (黄色土ブロック混じり)
- ⑤ 暗灰褐色砂質土 (黄色土混じり、やや粘質)
- ⑥ 黄灰色砂質土 (土質としては③に近い)
- ⑦ 黄灰褐色粘質土
- ⑧ 暗褐色粘質土 (黄色土粒を含む)
- ⑨ 黄灰色砂質土 (灰色土混じり)

第20図 S D 19実測図



第21図 S D19出土遺物実測図(1) 弥生時代中～後期



第22図 S D 19出土遺物実測図(2) 弥生時代中～後期

0.5mほどを測る。断面形状は逆台形を呈し、下層には粘土と砂が互層に、その上には暗灰色粘質土が厚く堆積する。遺物はないが、層位的な検討から古墳時代中期以前のものであり、堆積状況から井戸の可能性を指摘しておきたい。(家塚)

S K 30 (第18図)

C11グリッドにおいて検出した不整形な土坑。東西両側が調査区外へと続くため、その形状は不明である。検出し得た長さは4.1mほどで、深さ約0.65mを測る。北西側で浅く2段に落ち込む。遺物は弥生時代後期から古墳時代中期のものがある。48は甕、49は壺で弥生時代後期に属する。その他は土師器で51、52は高坏。53、54は甕。これらから本遺構は古墳時代中期に相当すると考えられる。(中森)

・溝状遺構

S D 19や29のように人工的で直線的なものと、やや蛇行する自然流路に手を加え利用したようなもの、そしてまさに自然流路と考えられるものの3種類がある。

S D 14 (第25図)

東1区及び西3区のB9、C8～9グリッドに位置する。北東から南西に伸びる直線的な細い溝であり、S D 03によって切られている。断面形は緩いV字形で、その形態から人工的に掘削されたものと考えられる。幅約0.35m、深さ約0.15mを測る。埋土は2層で出土した多量の土器片はその上層に含まれる。壺(130、131、133)、甕(132、134～138)が出土している。遺構の時期は弥生時代後期と考える。(家塚)

S D 15 (第25図)

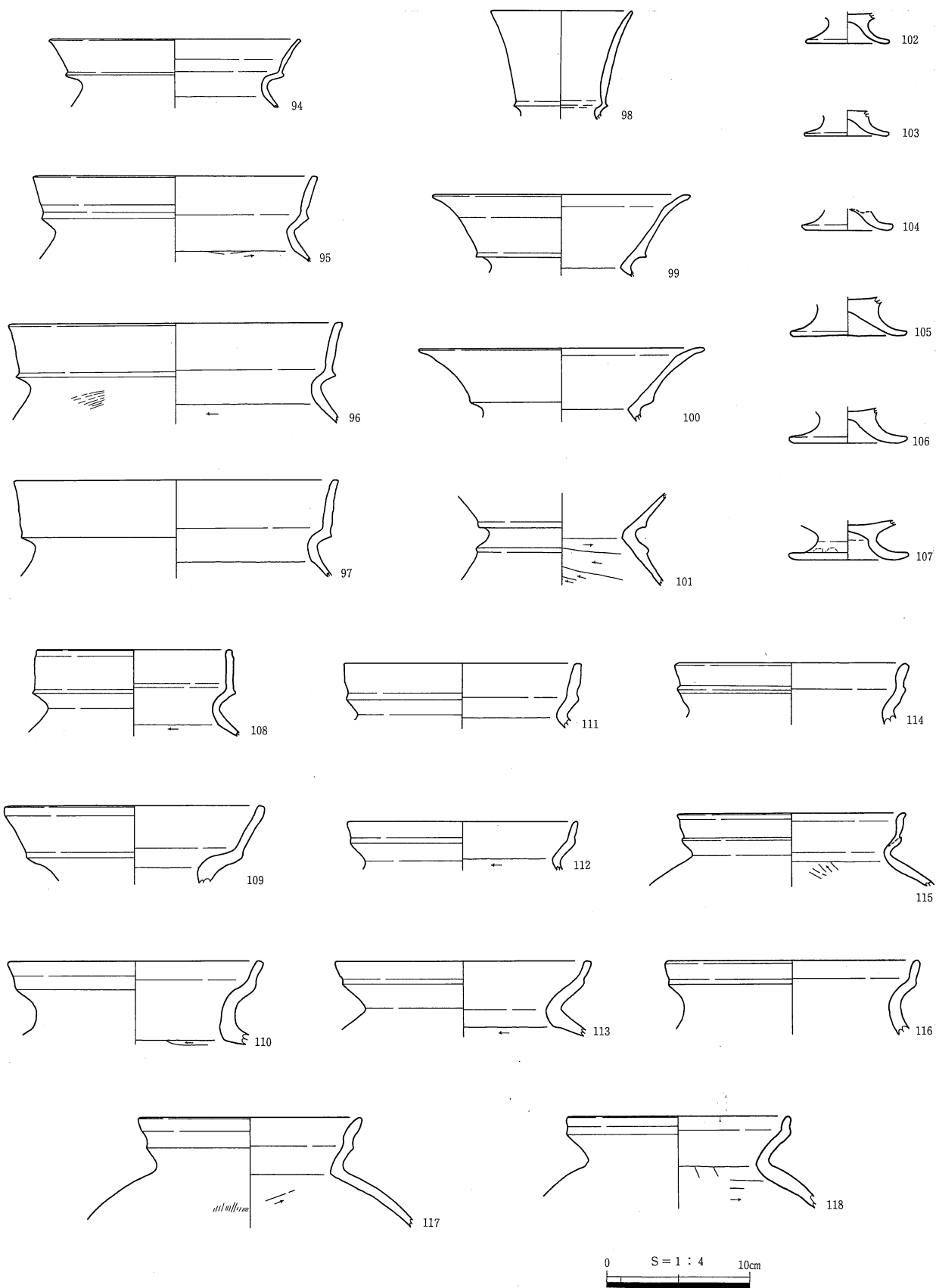
調査区の中央やや北よりに位置しており、南北方向に直線的に伸びる。北端は後世の攪乱、南端は排水溝により削平されている。幅0.3～1.1m、深さ0.1～0.35mを測る。埋土中より土師器・須恵器の土器片がそれぞれ出土している。これらの遺物及び埋土から古墳時代後期の遺構であると推察される。(内田)

S D 16 (第25図)

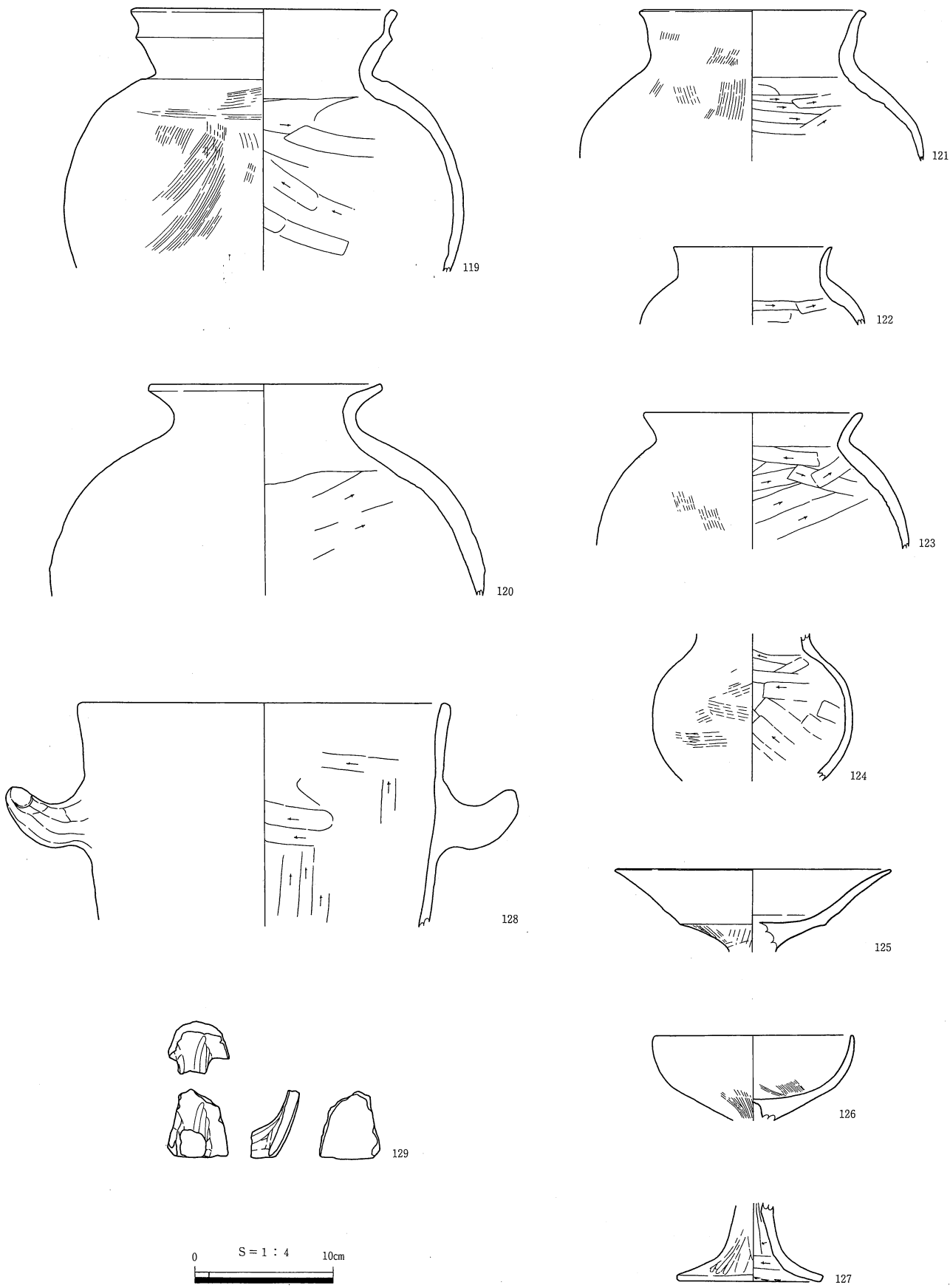
調査区の中央やや北よりに位置する。L字状の溝で東西に長く、西は調査区外に伸びる。C6グリッドの南西でS D 15と直交し、東側では並行するようにはする。S D 15との切り合いの前後関係は不明である。幅は0.3～0.7m、深さ0.04～0.1mを測る。須恵器片が出土した。出土遺物や溝の方向、切り合い関係からS D 15とほぼ同時期の遺構であると推定される。(内田)

S D 17 (第25図)

C6グリッドの北隅に位置し、S D 16に並行するよう伸びる。東側をS D 16に、西側をS D 15に切られるため、全容は不明である。幅0.15～0.3m、深さ0.05～0.1mを測る。切り合いの前後関係は不明であるがS D 15、16とほぼ同時期の遺構であると考えられる。(内田)



第23図 S D19出土遺物実測図(3) 古墳時代前~中期



第24図 S D 19出土遺物実測図（4） 古墳時代中期

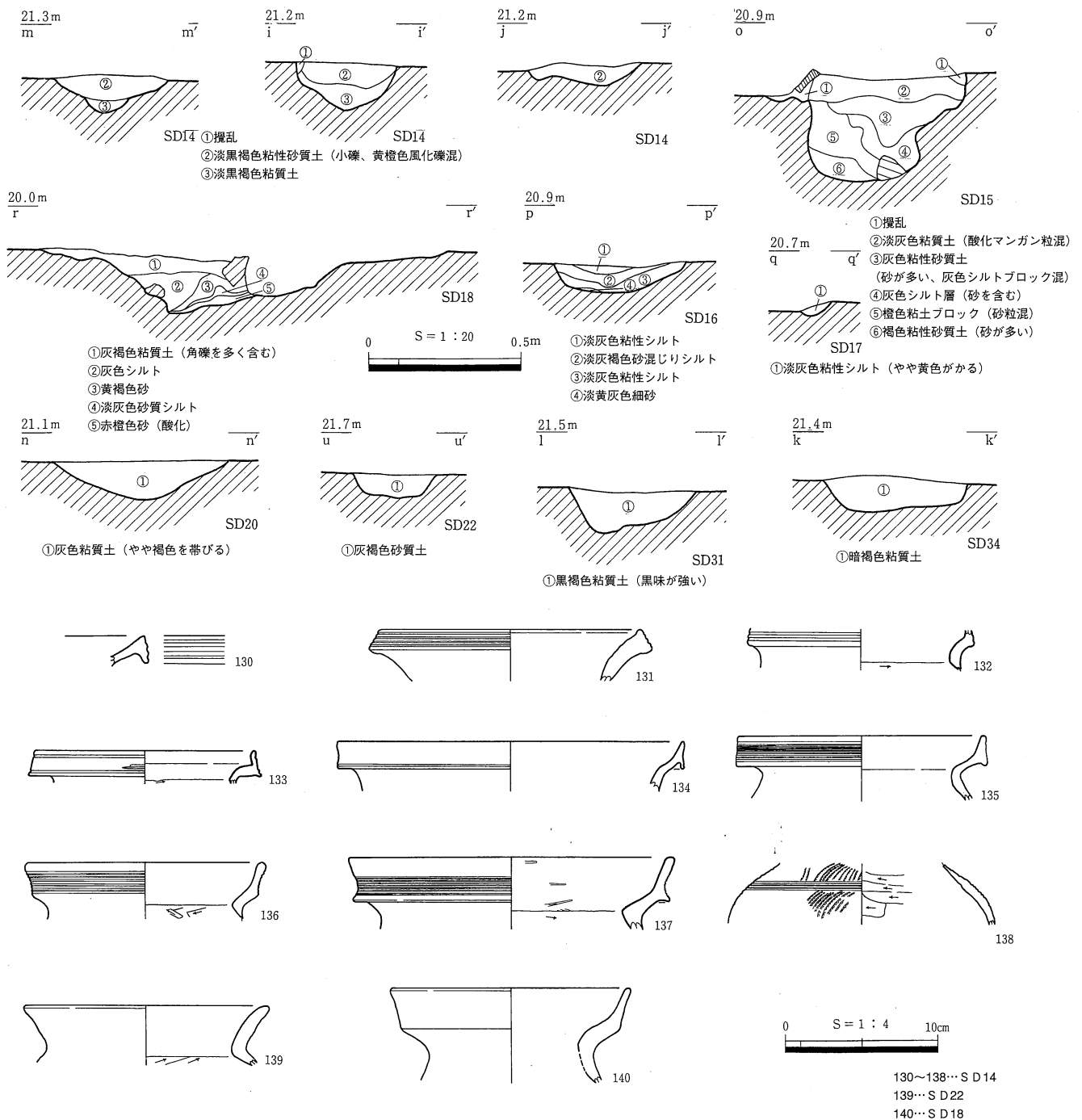
SD18 (第25図)

東1区のC3グリッドに位置する。南北に伸び、検出長8.6m、幅約0.8m、深さ約0.2mを測る。埋土は砂とシルトの互層であり、大きな角礫も混入することから自然流路と考える。遺物は土師器壺(140)、須恵器片が出土しており、古墳時代後期以降のものとする。(家塚)

SD19 (第20~24図)

東3区に位置する。東北東から西南西に伸びる、幅の広い直線的な溝である。検出長は17mで東西端は調査区外に伸びる。断面形は緩いU字形であり、底部中央が細い溝状にくぼんでいる。幅1.2~2m、深さ約0.3mを測る。溝の底面に大きな高低差はない。

埋土は大きく2層に分かれる。下層は地山土や礫を多く含むが、上層は少なくしまりが悪い。いずれにも多量



第25図 SD14~18・20・22・31・34断面図及び出土遺物実測図

の土器片を含む。それらの土器は多様で、時代幅も広い。弥生時代のもの（第21・22図）は、壺（56、57、59、60、68）、無頸壺（58）、甕（61～67、69～74）、壺ないし甕の底部（75～83）、注口（86）、蓋（84、85）、高坏（87、92）、高坏あるいは器台の脚部（88、89、91、93）がある。90は櫛状工具による装飾が器面に施される。古墳時代のもの（第23・24図）は、壺（109、110、116）、長頸壺（98）、甕（94～97、108、111～115、117～124）、器台（99～101）、低脚坏（102～107）、高坏（125～127）、甗（128、129）がある。

遺物の出土状況には、時期によって分布の偏りが見られる。弥生時代の遺物は下層から上層まで見られるが、中心は下層であり、やや北よりに分布する。それに対して古墳時代の遺物は上層のやや南寄りに分布する。その出土状況から見て、溝状遺構の出現は弥生時代後期前葉であり、古墳時代中期末まで機能していたと考えられる。これは人為的に掘削されたもので、埋土中の土器は投棄されたものと考えられる。（家塚）

#### S D 20（第25図）

C 8グリッドのほぼ中央に位置し、S D 16と並行するように東西に伸びる。攪乱と削平により全容は不明である。幅は0.3～0.8m、深さは0.05～0.15mを測る。出土遺物は黒曜石と須恵器片である。規模や方向性、埋土などからS D 15、16などと同時期の遺構であると推定される。（内田）

#### S D 21（第26・27図）

東4区の南南東から北北西に伸びる、ゆるやかな逆S字を描く溝である。検出長は33.6mで、北側は調査区外に伸び、南側はS D 40に切られる。断面形はU字形ないしは逆台形を呈し、上幅0.5m～1m、深さは0.25～0.4mを測る。南から北にかけて幅は狭く、深さも浅くなる。底面の標高差は南北端で約0.2mあり、南側が高い。埋土は基本的には1層で、最南端の断面（D-D'）を除いては流水の痕跡は認められない。複数個体の破損した土器が重なって出土するなど、意図的に廃棄された状況が観察された。この溝状遺構は人為的な掘削によるもので、S I 05～07の向きに並行することから、両者に関連性があるものと考えられる。

遺物は弥生時代中期の土器が2点（器台脚部144、壺頸部145）出土しているが、大半は土師器である。甕（147～157）、小型丸底壺（146）、高坏（158～161）、坏脚部（162）が出土している。古墳時代中期後半のものと考えられる。（家塚）

#### S D 22（第25図）

東3区南西に位置する。一部削平を受けているが、南北方向に緩やかに蛇行している。幅は0.2～0.5m、深さは0.05～0.1mを測る。断面は逆台形を呈す。埋土中から土師器や須恵器の小片を数点検出した。139は土師器甕である。古墳時代後期以降の遺構と思われる。（内田）

#### S D 23（第28図）

西3区において検出した北東-南西の向きをもつもの。幅が広く検出した最大幅は2.8m、深さは0.25mを測る。またS D 26を切り、S D 45に切られる。168は土師器甕、古墳時代後期のものと思われる。（中森）

#### S D 26（第28図）

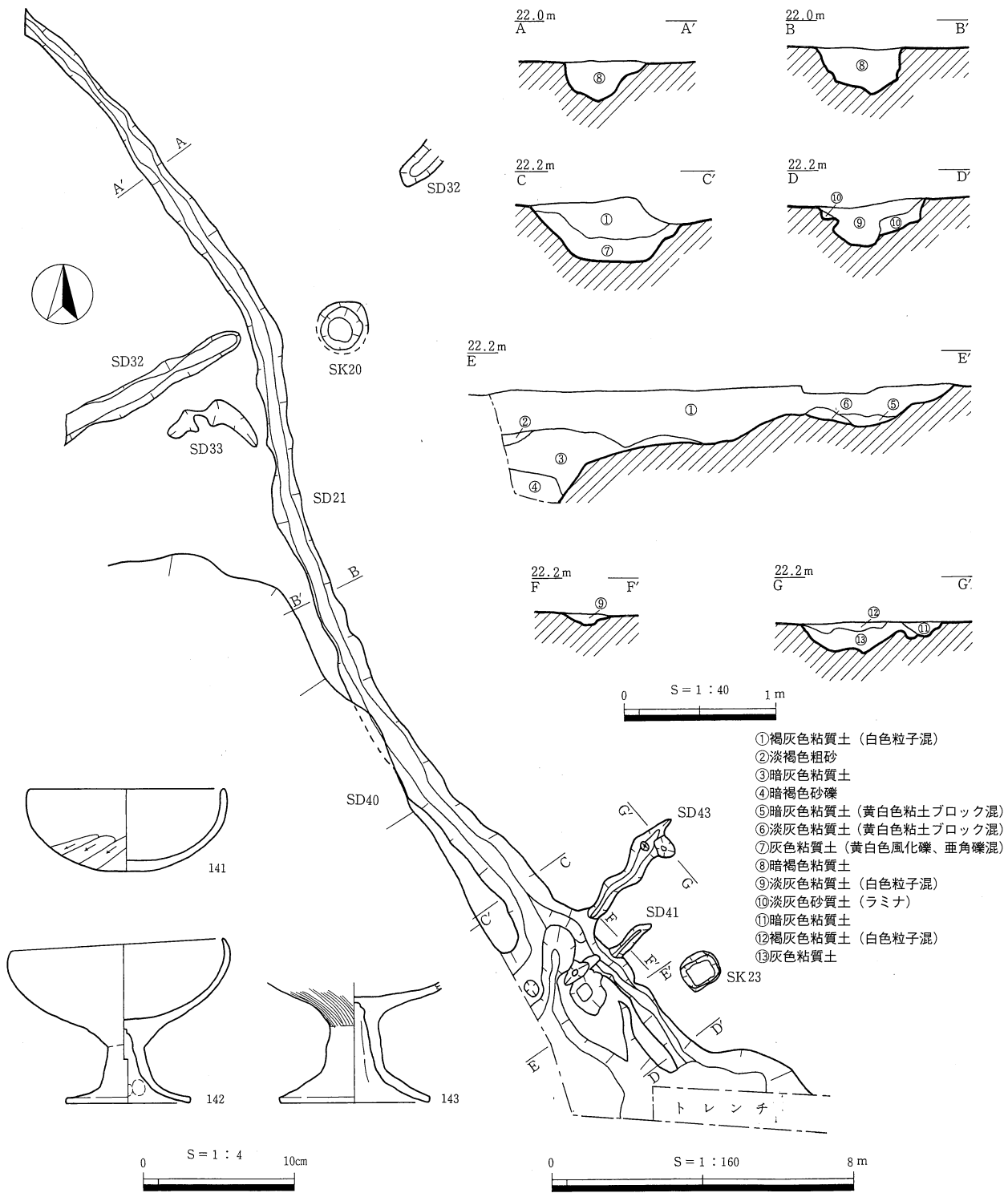
S D 23、45にその東側を切られる。北側は現代の暗渠により切られ、それよりも北には続いていないことからちょうど暗渠部分で溝が終結していると考えられる。また西側は調査区外へと伸びる。深さ0.7m。灰色粘土が厚く堆積している。出土した遺物はごく僅かで、164は甕の口縁から頸部にかけての破片である。口縁端部は破損しており、口縁部には3条以上の凹線が巡る。頸部には刺突が施される。弥生時代後期に比定される。165は内外面朱が塗られた甕。外面胴部はハケメ、内面は丁寧にミガキ。（中森）

#### S D 27（第29図）

西3区に位置し、S D 14と並行するように北東から南西にかけて伸びる。大部分が削平されている。幅約0.7m、深さは0.2m程を検出した。断面は逆台形を呈す。埋土中から弥生時代後期前葉の甕の口縁部（166）が出土している。溝の方向や埋土、出土遺物などから弥生時代後期のものと考えられる。（内田）

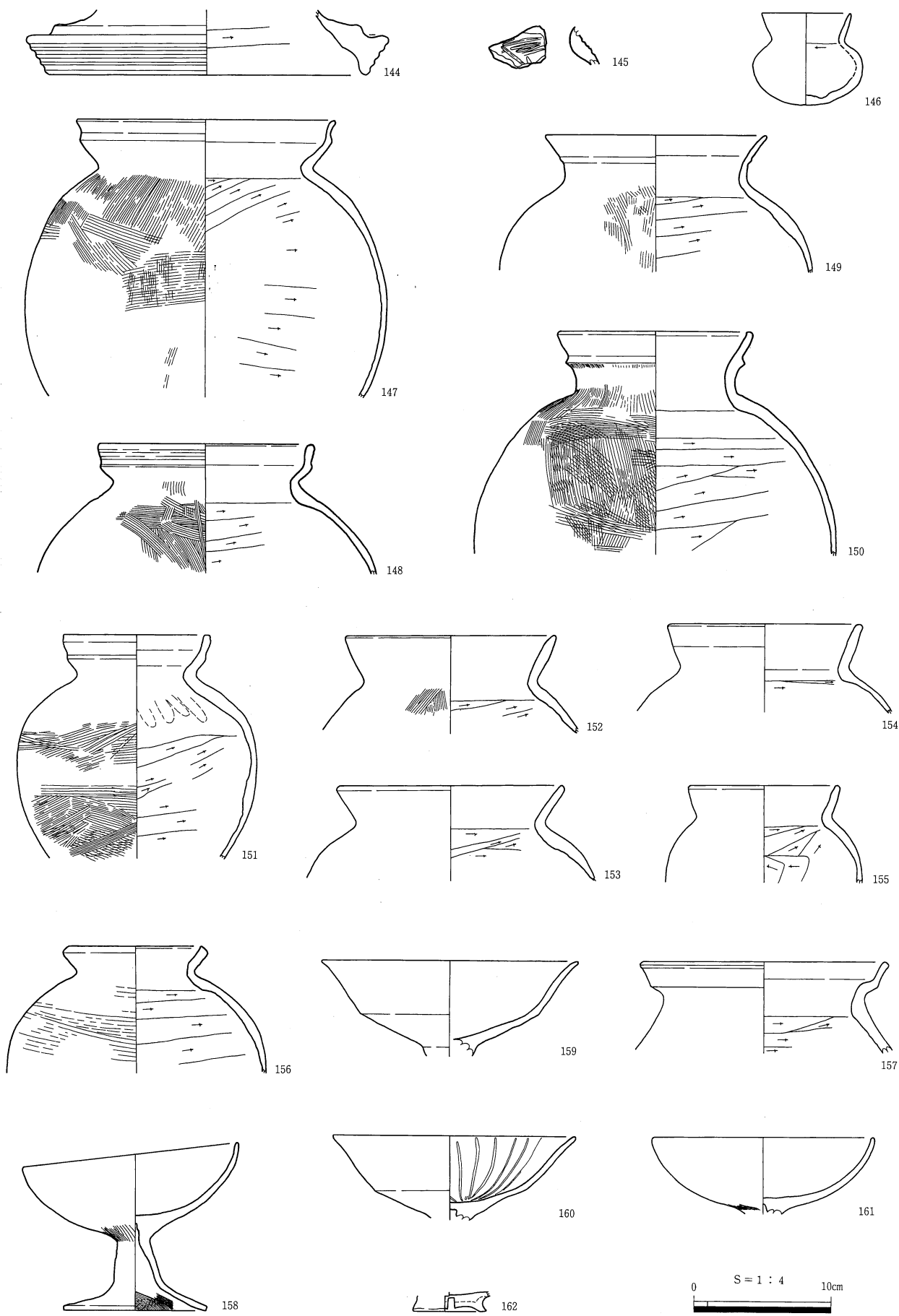
#### S D 28（第30図）

東4区のF 10・11グリッドに位置する。南東から北西に伸び、S D 29、30を切る。検出長7.4m、断面形は緩い



第26図 S D 21・41・43実測図及びS D 41出土遺物実測図





第27图 S D21出土遺物実測図

逆台形で、幅約0.4m、深さ約0.1mを測る。埋土は砂粒を多く含み、須恵器片が出土している。自然流路と推察される。  
(家塚)

SD29 (第30・31図)

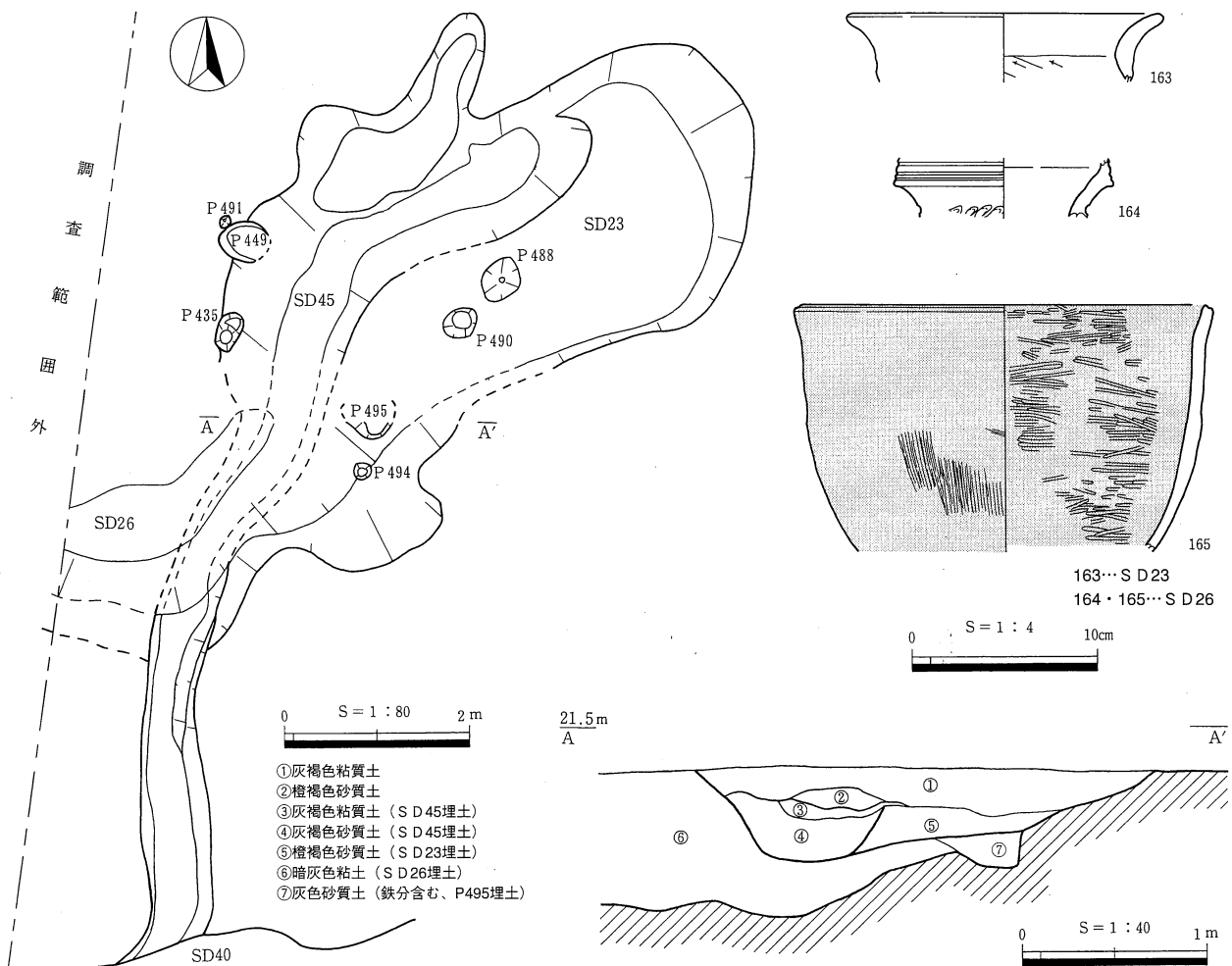
東4区に位置する。SD30に並行するように東北東から西南西に直線に伸び、検出長は11.2mで、西端の平面形は方形を呈し、東側は調査区外へ続く。断面形は逆台形を呈し、幅0.65~0.95m、深さ約0.3mを測る。底面は平坦で、立ち上がりの角度は急である。埋土は下層とその中央部に堆積する中層と、それらを被覆する上層の3層に分かれる。埋土中の遺物は少なく、いずれも小片で摩滅していた。層位ごとの時期差を求めることは困難であったが、上層から須恵器蓋坏(169、170)、土師器高坏脚部(171、172)が出土したことから、古墳時代後期に最終的に埋没したものと考えた。SD19と並行する位置関係をもつ。  
(家塚)

SD30 (第29・30図)

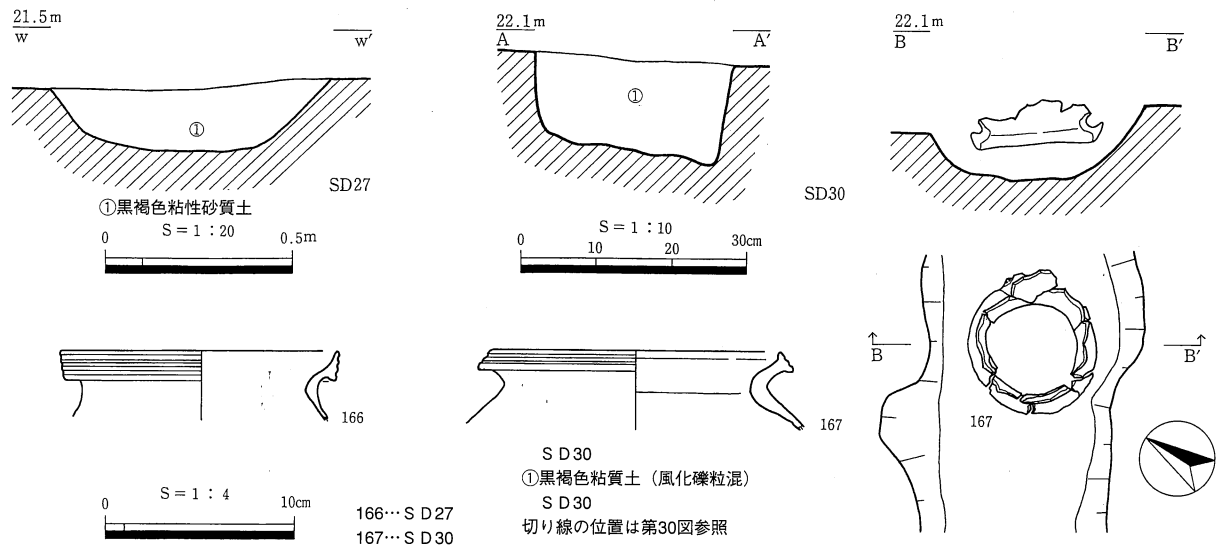
東4区のE・F11グリッドに位置する。東北東から西南西に直線的に伸び、東端は調査区域外へ、西端は地山土と遺構埋土が類似していたために検出できなかった。検出長15.6m、断面形はU字形ないし逆台形で、幅約0.3m、深さ約0.1mを測る。埋土は1層で、流水及び再掘削の痕跡は認められない。甕(167)が口縁部を下にして検出された(第29図)。胴部以下は無く、後世の削平によって失われたものと見られる。その他には数点の土器片が出土した。弥生時代後期前葉と考えられる。  
(家塚)

SD31 (第25図)

西3区北西隅に位置する。大きく削平されているが、SD21と同方向でSD14に直交するように伸びる。幅は



第28図 SD23・26・45実測図及び出土遺物実測図



第29図 S D 27・30実測図及び出土遺物実測図

0.3~0.4m、深さは0.1~0.15mを測る。断面形はほぼ逆台形を呈す。埋土は1層である。形状や埋土の状況からS D21につながるものと考えられる。(内田)

S D 32 (第30図)

東4区に位置する。S D29の北側を並行し、その西端で南に蛇行し、南西へ伸びる。中途は地面と遺構埋土が類似していたために平面では検出できない部分があったが、遺物の出土状況とその方向性から、同一の遺構と判断した。検出長17m、断面形は緩いU字形で、幅0.4~0.7m、深さ0.05~0.1mを測る。底面は凹凸を持ち、埋土は粘質土と地山粘土ブロックの混合である。須恵器坏身(168)が出土しており、古墳時代後期以降のものと考えられる。(家塚)

S D 33 (第30図)

東4区のD12グリッド、S D32の南側に位置する。平面形は不定形で検出長2.8m、断面形は緩いU字形で、幅0.4m、深さは最深部で0.15mを測る。埋土は隣接するS D21に類似し、土師器片が出土していることから同時期の古墳時代中期以降と考えられる。(家塚)

S D 34 (第25図)

西3区の北側に位置し、S D16と並行する向きで東西に伸びる。削平を受けており、長さは約2mしか検出していない。幅0.4~0.7m、深さ0.1m程度である。遺物は全く出土していない。埋土から古墳時代後期の遺構の可能性が考えられる。(内田)

S D 37 (第30・31図)

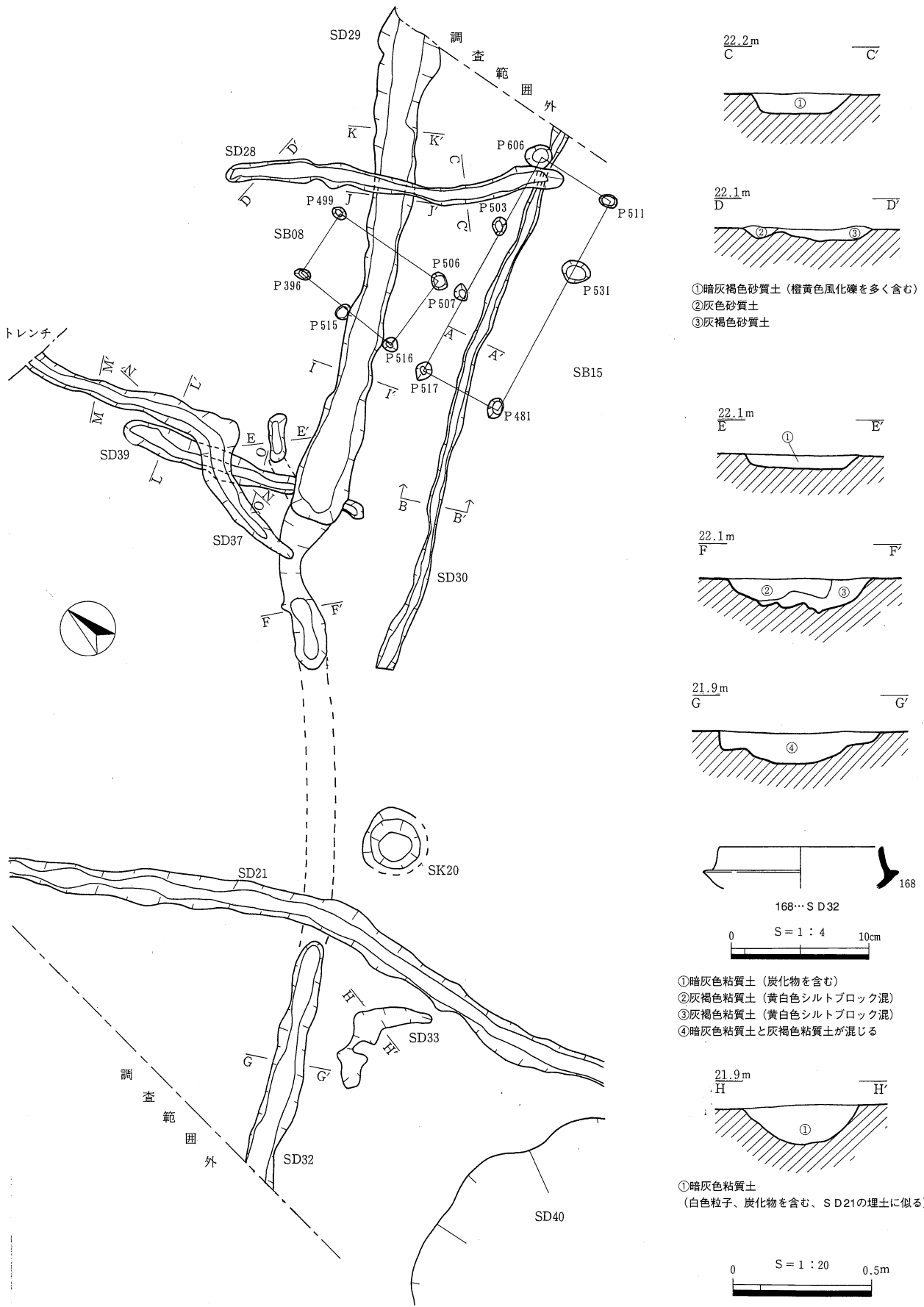
東4区のE10・11グリッドに位置する。検出長は3.5m、断面形は緩い逆台形で幅0.2~0.3m、深さ0.2~0.25mを測る。埋土は砂と粘土の互層で、流水の痕跡を示す。S D39を切っており、S D22、28と同様の自然流路と考えられる。土師器片が埋土中より出土している。古墳時代後期以降のものとする。(家塚)

S D 39 (第30・31図)

東4区のE10・11グリッドに位置する。南北に直線的に伸び、検出長は5.6m、断面形は緩い逆台形で幅0.25~0.6m、深さ0.1~0.25mを測る。両端が浅く、中央部分が特に深くなっている。S D29と直交するが、埋土は類似し、切り合い関係は不明である。S D37に切られる。土師器高坏脚部(173)が出土しており、古墳時代中期以降とする。(家塚)

S D 40 (第32・33図)

東4区の南東端から西3区の南西端にかけて位置し、南東から北西に向かい緩やかに湾曲して広がっている。西3区では北側の壁のみを検出した。正確な広がりとは判断しないが、東4区での検出状況から、幅は10m以上あ



第30図 S D 28・32・33実測図及びS D 32出土遺物実測図

と思われる。D14グリッドでS I 08、09の北東隅を切っている。堆積状況から恒常的な流れがあった自然流路と考えられる。また西3区においては溝に垂直に打ち込んだ木製杭を検出した（第33図、W1～6）。これらについては樹種鑑定を行っている（第7節参照）。遺物は弥生土器や古式土師器をはじめ須恵器など多数出土している。

174～179は弥生土器である。174は後期の甕。175は中期の脚部か。176は底部。177～179は胴部片で、円形のスタンプ文が施される。180～197は土師器。180～183、185、186は甕、184は壺か、187、188は直口壺、189は壺あるいは甕の底部、190～192は坏、193～197は高坏、いずれも古墳時代中期の範囲であろう。198は鞆の羽口、199は土製支脚と見られる。200～206は須恵器。200～202は蓋坏で6世紀初頭。203は罅で7世紀初頭。204は無蓋高坏で6世紀初頭か。205、206は坏で8世紀～9世紀頃のものとする。207は竈である。

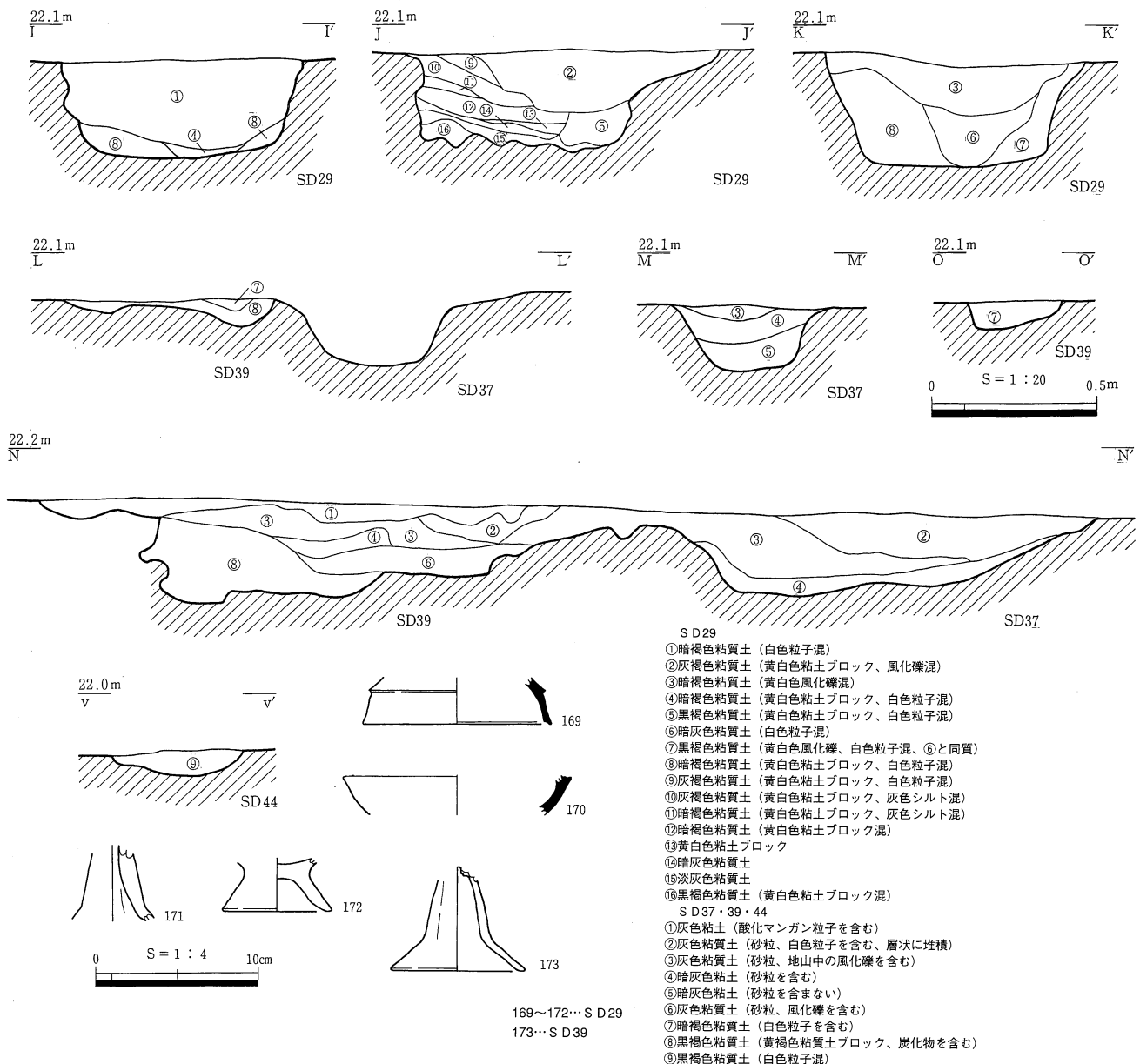
古墳時代の後期から奈良時代にかけて流れていたと考えられる。

(内田、家塚)

S D 41 (第26図)

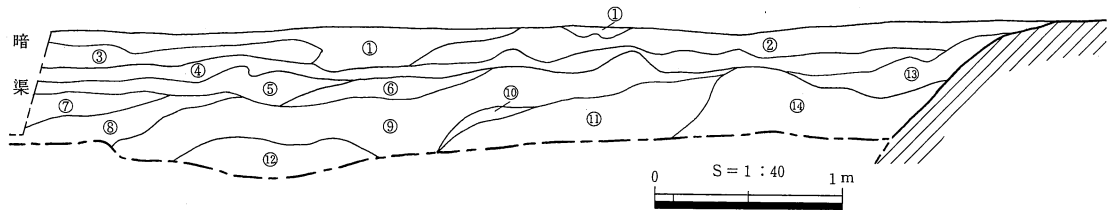
東4区のエ13グリッド東側に位置する。北東から南西方向に伸び、南西側はS D 21と切り合うが、前後関係は不明。検出長は1.4m、断面形は不定形で幅約0.3m、深さ約0.1mを測る。埋土はS D 21に類似、土師器坏(141)、高坏(142、143)が出土しており、古墳時代中期後半のものとする。

(家塚)

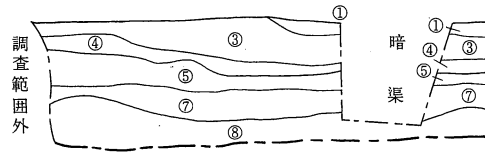


第31図 S D 29・37・39・44断面図及び出土遺物実測図

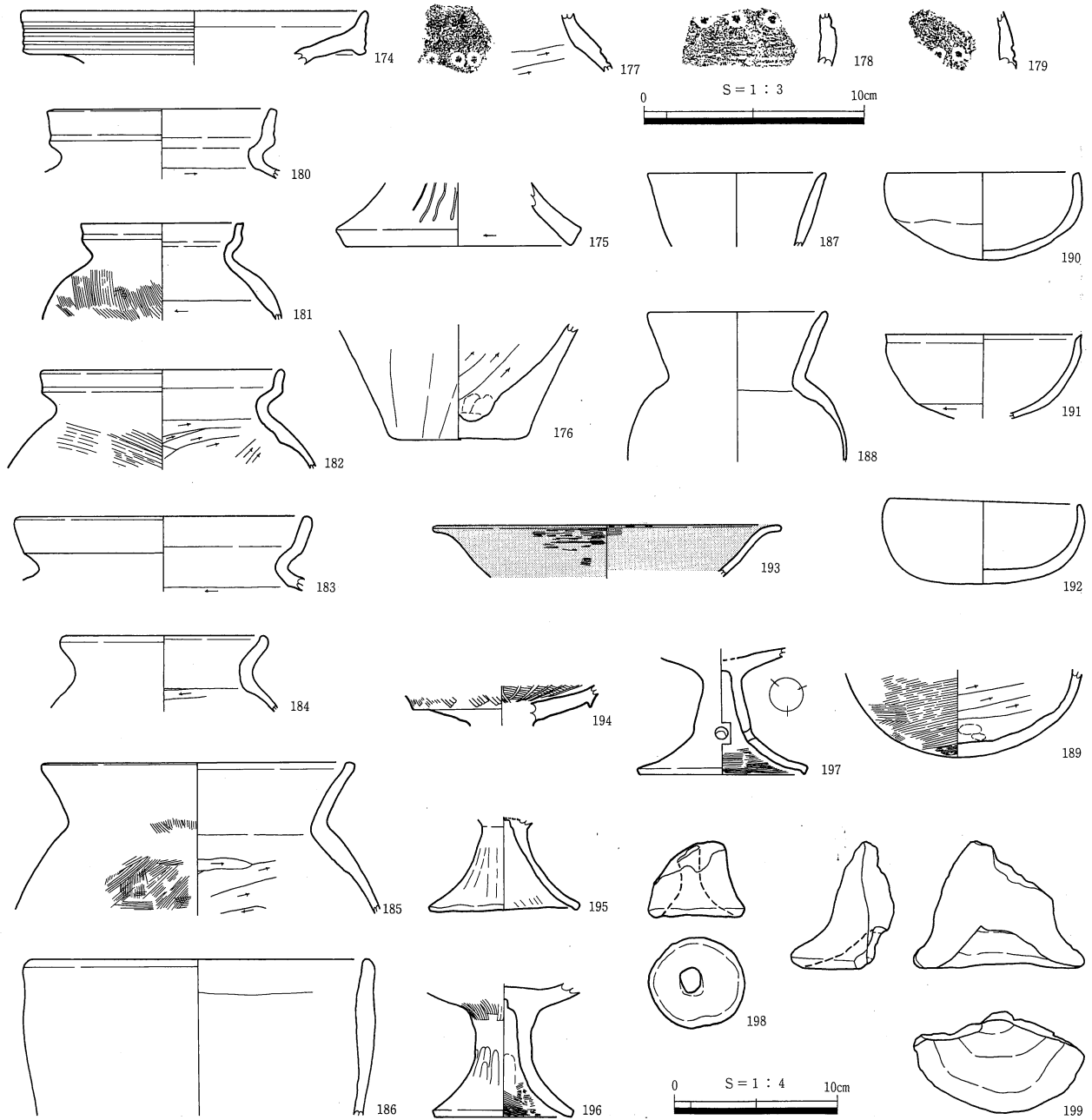
21.5m



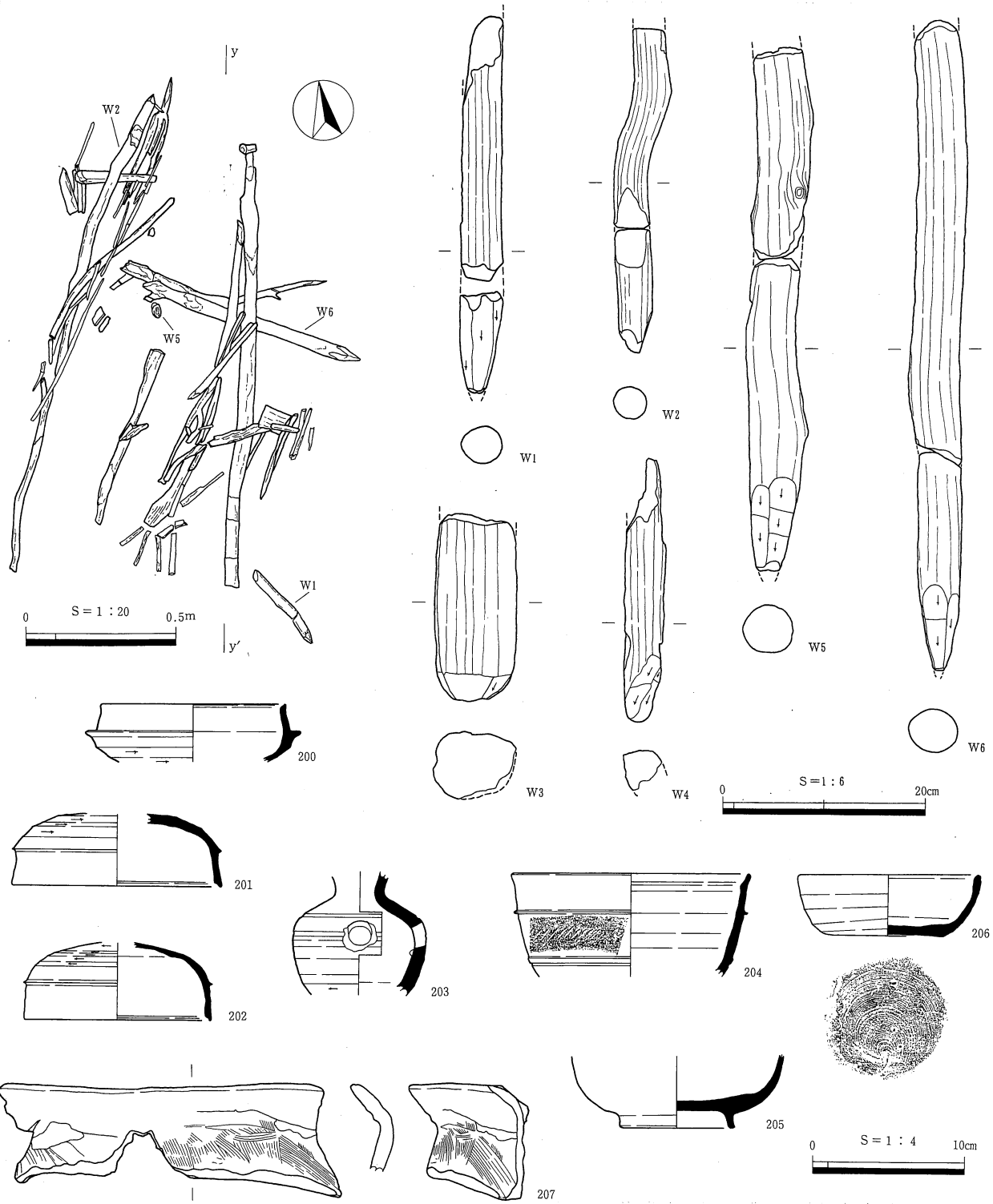
21.5m  
x



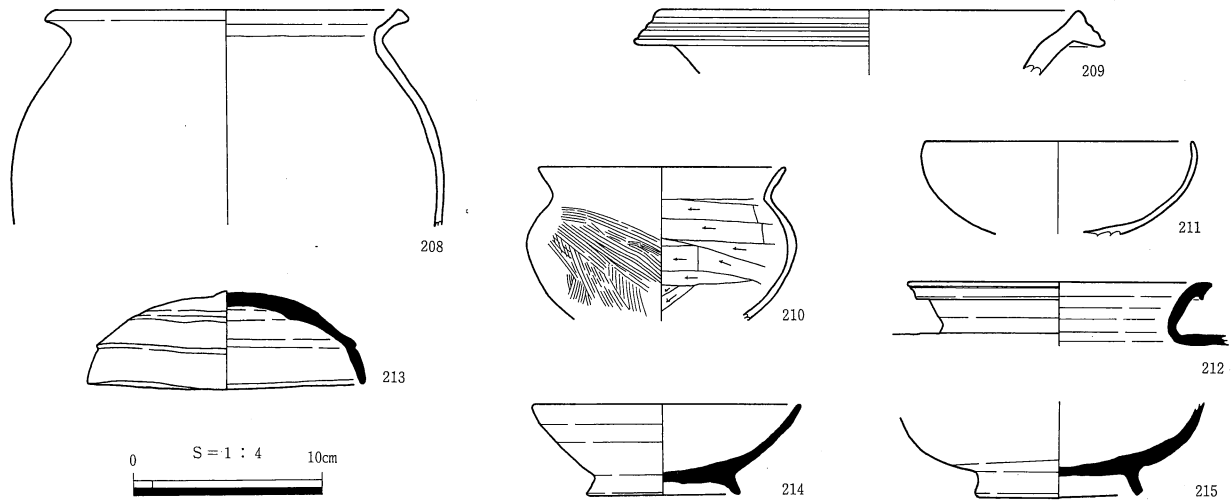
- ① 灰色砂質土
- ② 灰色砂質土 (橙色粗砂混)
- ③ 明黄灰色粗砂
- ④ 明灰色砂質土 (粘性帯びる)
- ⑤ 明灰色砂質土
- ⑥ 淡灰色砂質土 (粘性帯びる)
- ⑦ 明灰色砂礫
- ⑧ 灰色砂礫
- ⑨ 灰色粗砂
- ⑩ 暗灰色粘質土 (小礫混)
- ⑪ 灰色粘質土 (礫混)
- ⑫ 暗灰色粘質土
- ⑬ 淡黄灰色砂質土
- ⑭ 淡灰色粘質土 (やや砂質)



第32図 S D 40断面図及び出土遺物実測図 (1)



第33图 S D 40出土遺物実測図 (2)



第34図 遺構外出土遺物実測図

S D 43 (第26図)

東4区のE13グリッドに位置する。S D 41の北西側に並行して、北東から南西方向に伸びる。検出長は4m、断面形は不定形、幅約0.5m、深さ約0.2m、南西側はS D 21と切り合う。埋土は砂質土が主であり、土師器片が出土している。古墳時代中期以降と考える。(家塚)

S D 44 (第31図)

東4区北東のF9杭の東に近接する。南北に伸びるが、両側は大きく削平を受けている。幅は0.3~0.5m、深さは0.05~0.1mを測る。遺物は出土していない。埋土から古墳時代後期の遺構であると考えられる。(内田)

S D 45 (第28図)

S D 23、26を切る南北にはしる溝状遺構。幅0.8~1mほど、深さは約0.3mを測る。南端はS D 40に切られており、遺物は出土していないが、それぞれの切り合い関係から考えると古墳時代後期から奈良時代のものと言えよう。(中森)

2. 遺構外出土遺物 (第34図)

208は甕、209は広口壺で弥生時代中期後葉のもの。210は小型丸底壺で古墳時代中期のものか。211は高坏で古墳時代中期後葉のもの。212は須恵器の甕。213は須恵器の坏蓋で、6世紀末~7世紀初頭のもの。214、215は高台を持つ坏で、奈良時代以降のものとする。(家塚)



## 第5節 中・近世の遺構と遺物

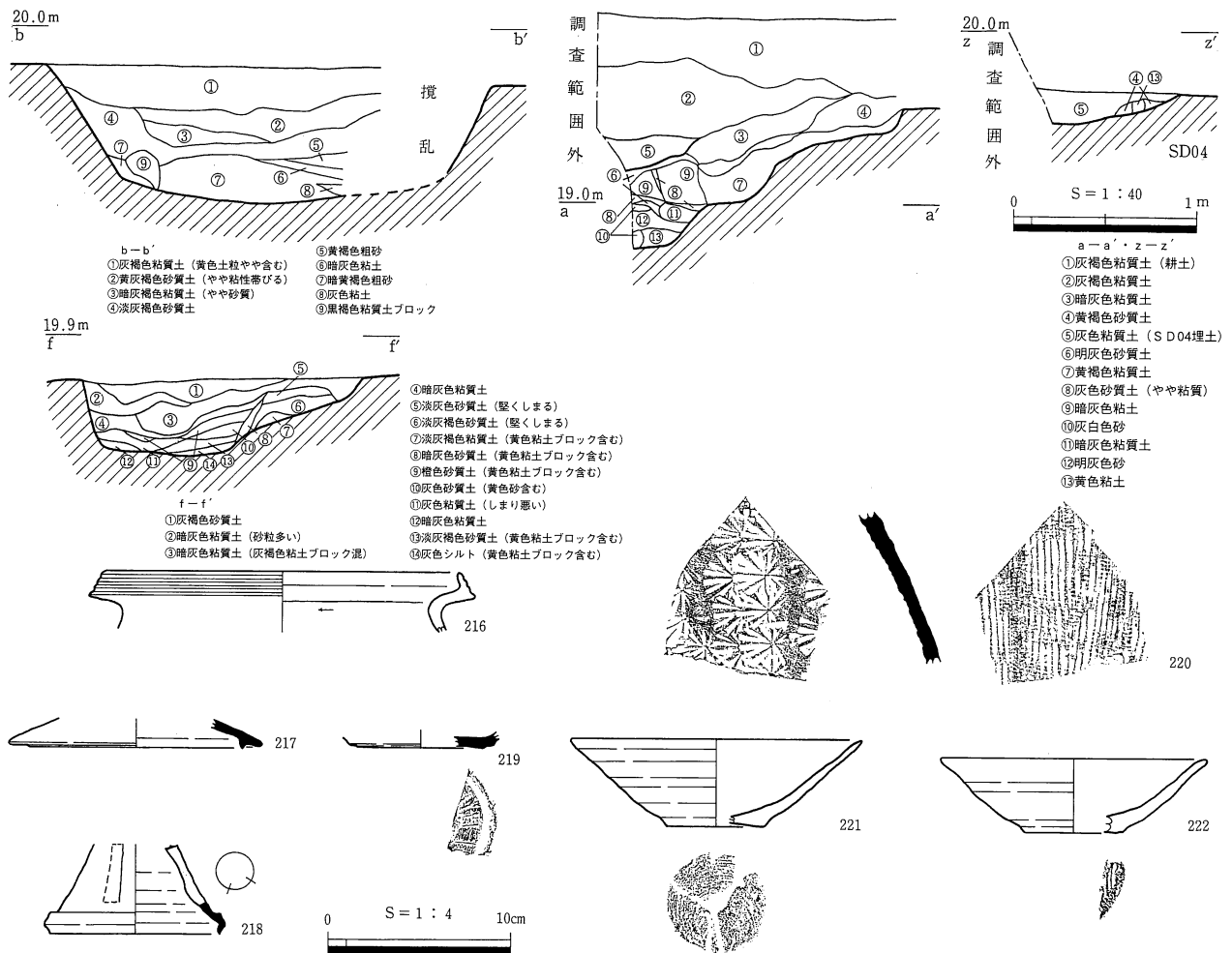
遺構は中世の溝状遺構を6条検出したのみである。図示しているように（第35～37図）、遺構内から出土する遺物は弥生時代から古墳時代にかけてのものが大半を占め、中世に属する遺物は少ない。しかしそれらの出土状況及び溝状遺構の切り合い関係から考えて中世のものだと判断した。これらは西1・2区と東1区に分布しており、とくに西1区に集中する。またSD02の北側では古銭が耕作土中ではあるがまとまってみつかっており（図版2）、この辺りに該期のなんらかの施設があったことが想定される。

### 1. 検出した遺構

#### S D 01（第35図）

西1区、C4グリッドからB1グリッドにかけて蛇行しながら北へと流れる溝状遺構である。下層には砂層が厚く堆積しており、その状況からみて自然流路であろう。幅は0.8～1.5m、深さは0.4mほどの規模をもつ。また部分的に土坑状の落ち込みがあり、そこは最大幅2.4m、最深部で0.7mほどを測る（第35図b-b'）。SD01はB2グリッドにおいてSD02、07に切られる。

216は弥生時代後期前葉の甕。217～220は須恵器である。220は甕の胴部片で外面は平行タタキ、内面には車輪状タタキがみられる。このタタキは平安時代終わり頃に比定される会見町両部太郎窯跡に特徴的なものとされる<sup>1)</sup>が、未だ様相は不明瞭である。221、222は土師器坏である。11～12世紀に比定されよう<sup>2)</sup>。



第35図 S D 01・04断面図及びS D 01出土遺物実測図

SD02 (第36図)

西1区、A2・3からC2グリッドにかかる東西方向の直線的な溝状遺構。調査区を縦断する排水溝を越えて東1区へは伸びない。断面は逆台形状を呈し、人為的に掘られたものであろう。幅1.6m、深さ0.3mを測る。223~229は須恵器で、古墳時代後期から奈良時代にかけてのものである。しかし埋土内に若干中世土師器片を含むこと、SD01との切り合い関係から本溝状遺構も中世以降とした。

SD03 (第37図A-A')

西1・2区にまたがり、南から北へと流れるもの。B4グリッドで切れているが、おそらくSD01へと連結するものと思われる。やはり部分的に土坑状の落ち込みがあり、検出した最大幅は2.7m、深さ1.0mを測る。またB6グリッドにおいて、杭を打ち込んでそこに拳から人頭大の礫を積んだ部分を検出した(第37図)。その東側にはテラス状の平坦面が形成されている。このテラスの機能は不明だが、杭や礫の状況からおそらく堰であったと考えられる。

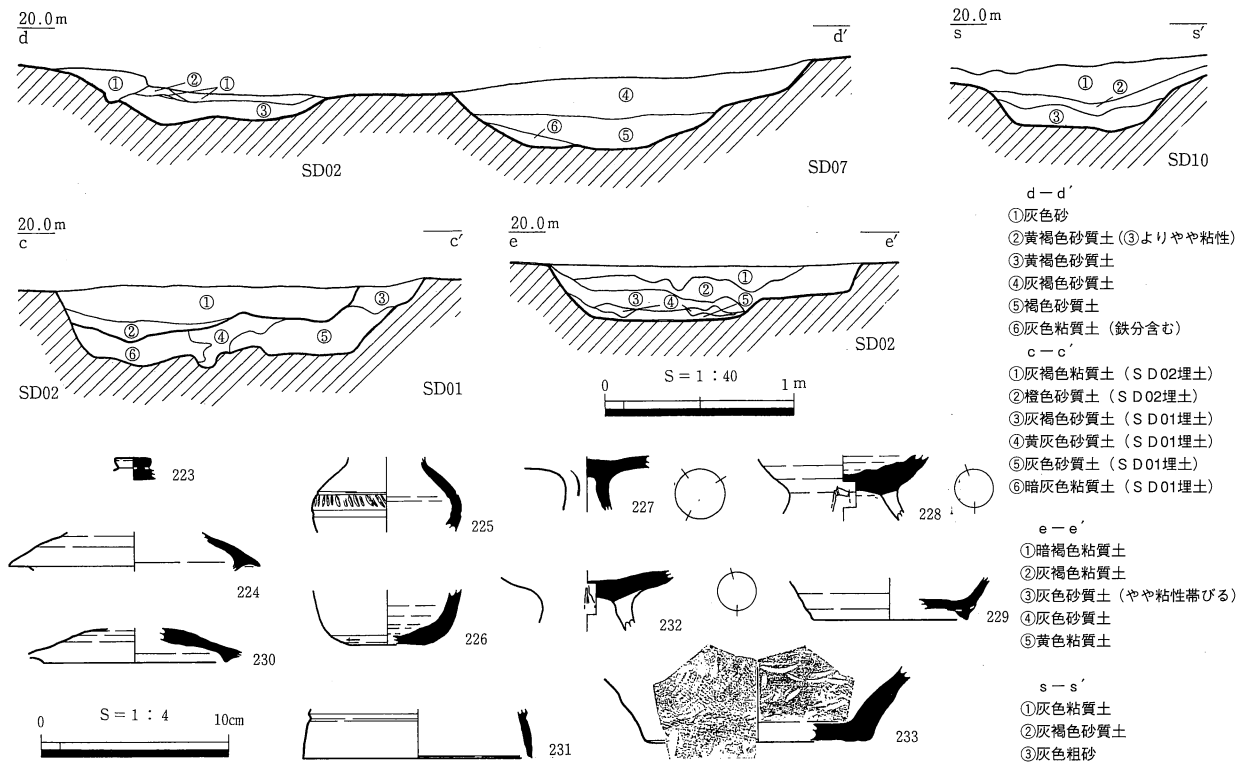
遺物は古くは弥生時代前期の甕(234)が出土するなど、弥生時代から中世まで幅広い。242は土師質の円筒埴輪片である。236~239は弥生時代後期、240、241は土師器、243~245は古墳時代後期の須恵器である。247は土師器坏で、底面に糸切り痕を残す。11~12世紀のものであろう。

SD04 (第35図)

西1区内北側にある南北にはしる溝状遺構。遺構南壁のみが調査区内にあるため、その幅は不明である。検出した深さは0.1mほど、幅は0.5m、長さは5mほどであった。遺物は出土していないが、SD01を切っていることから中世以降と判断した。

SD07 (第36図)

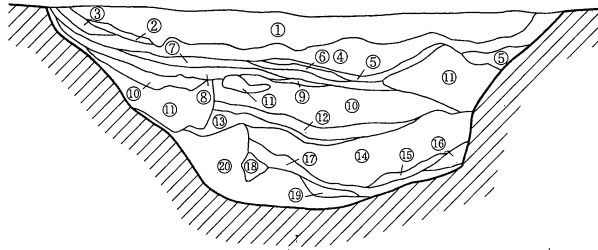
西1区にありA3グリッドでSD02に切られ、B2・3グリッドでSD01を切る。排水溝を越え東1区のSD10へと続くのであろうか。幅1.9m、深さ0.3mほどのものである。230~233は須恵器。古墳時代後期に位置付けられようが、やはり遺構の切り合い関係から中世以降とした。



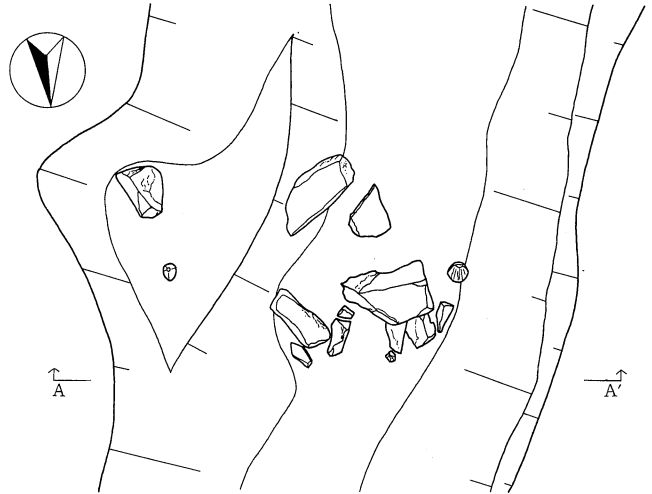
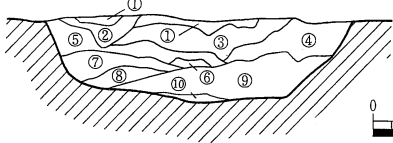
223~229...SD02  
230~233...SD07

第36図 SD02・07・10断面図及び出土遺物実測図

20.1m  
g



21.0m  
h



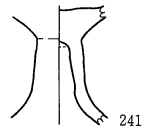
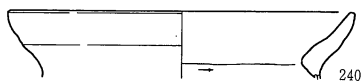
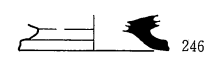
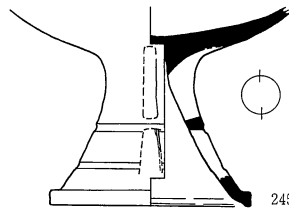
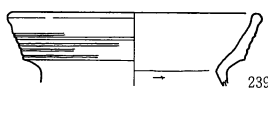
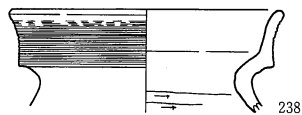
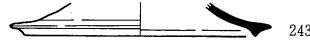
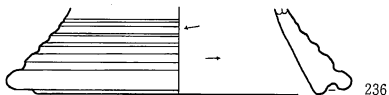
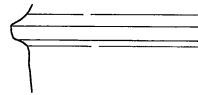
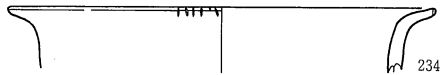
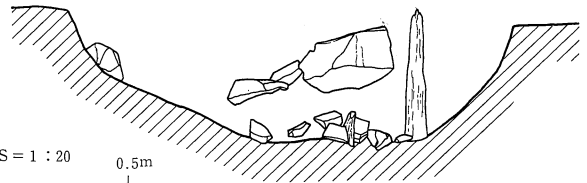
g-g'

- ① 淡黄褐色粘土ブロック (橙色)
- ② 淡灰色細砂 (シルト)
- ③ 暗灰色シルト (淡黄褐色粘土粒混、きめ細かい)
- ④ 暗灰色シルト (淡黄褐色粘土ブロック混、③より粒が粗い)
- ⑤ 暗灰色シルト (淡黄褐色粘土粒混)
- ⑥ 暗灰色シルト (淡黄褐色粘土粒少量混)
- ⑦ ⑤と極めて類似する
- ⑧ 淡灰色細砂 (シルト)
- ⑨ 暗灰色シルト (淡黄褐色粘土粒・淡灰色細砂混)
- ⑩ 暗灰色シルト (淡黄褐色粘土粒(径1~2cm大)混)
- ⑪ 暗灰色粘質土
- ⑫ 淡灰色シルト (淡黄褐色粘土粒混)
- ⑬ 暗灰色シルト (淡黄褐色粘土ブロック混)
- ⑭ 暗灰色シルト (淡黄褐色粘土ブロック・黒色粘土ブロック混)
- ⑮ 暗灰色シルト (黄褐色細砂混)
- ⑯ 淡灰褐色シルト (淡黄褐色粘土ブロック混)
- ⑰ 灰褐色シルト (淡黄褐色粘土ブロック混)
- ⑱ 黄褐色粘土ブロックと黒色粘土ブロックの混合
- ⑲ 淡緑灰色粘土ブロックと黒色粘土ブロックの混合
- ⑳ 淡緑灰色粘土 (地山層)

h-h'

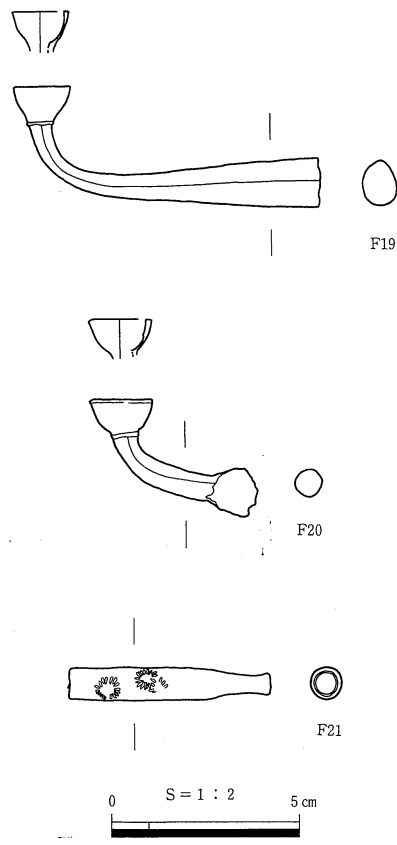
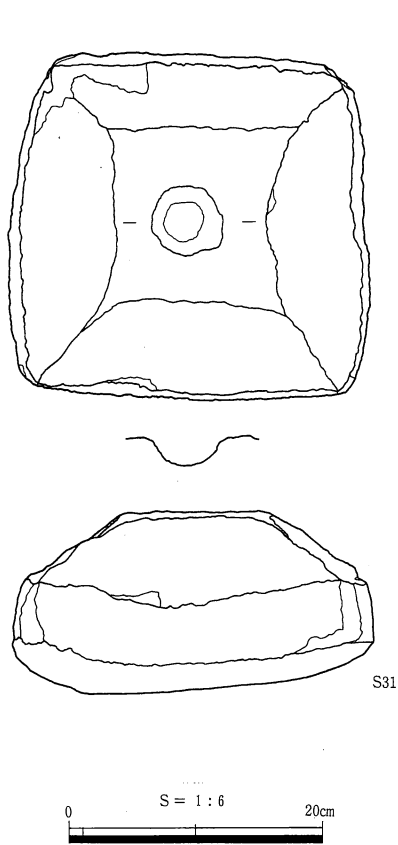
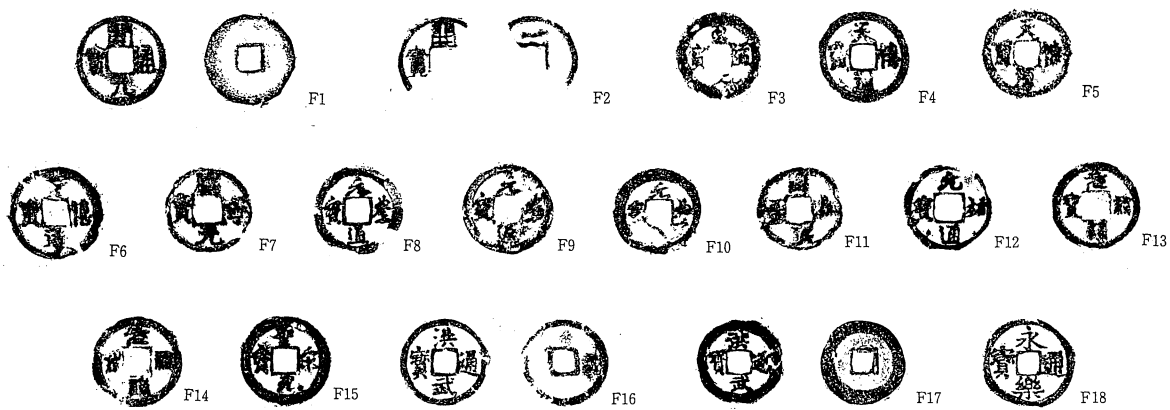
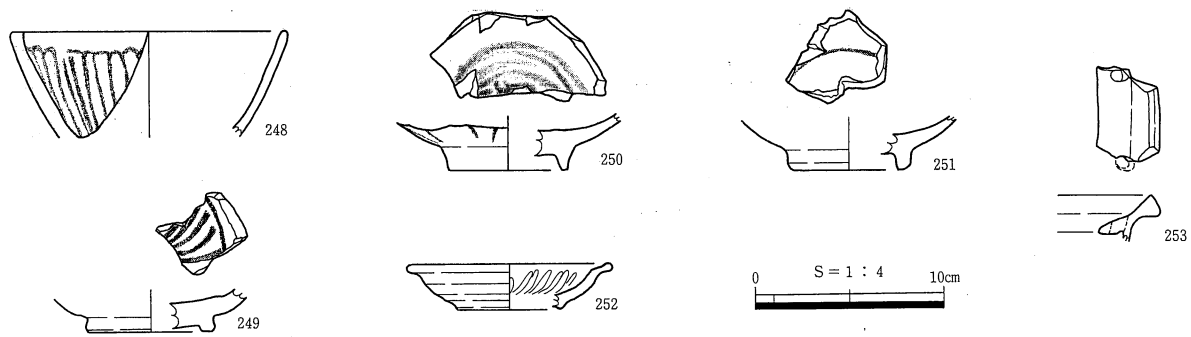
- ① 灰褐色粘質土
- ② 灰色粘質土
- ③ 灰褐色砂質土
- ④ 黒褐色粘質土
- ⑤ 灰褐色砂質土 (暗灰色粘土ブロック混)
- ⑥ 淡黄灰色砂
- ⑦ 暗灰色粘質土
- ⑧ 暗灰色粘質土
- ⑨ 橙灰色粘質土
- ⑩ 明灰色砂

21.0m  
A



S=1:4 10cm

第37図 S D03実測図及び出土遺物実測図



第38图 中·近世遺構外出土遺物実測図

S D 10 (第36図)

東1区にある。D1・2グリッドにおいては直線的で断面形状も逆台形を呈す。その方向性から考えて、排水溝を越えてSD07につながるものであろうか。幅1.0m、深さは0.2mほどである。須恵器、土師器片が出土しているがやはり中世以降のものと判断した。(中森)

2. 遺構外出土遺物 (第38図)

248～251は青磁碗。248は外面に細長い線描き連弁文をもつもので、上田秀夫氏分類<sup>3)</sup>のB-IV類に相当する。249は低い高台をもちその外面まで釉がかかる。畳付けは釉剥ぎ、外底無釉。見込みにはヘラ描き文が施文される。13世紀末～14世紀初頭に当たる。250は外面に幅の広い片切彫の連弁文をもつもの。内面見込みにはスタンプ文と円形の線描文がみられる。釉は畳付けを越えて高台内面にまでまわるもので、B-II-b類に相当しよう。251は全面に施釉するもの。内面見込みには円形の線描文がみられる。

252は瀬戸・美濃系の剥ぎ菊皿で高台畳付けが露胎、他は施釉されたもの。藤澤良祐氏編年<sup>4)</sup>の第7小期(16世紀末)に相当しよう。253は土鍋の口縁部であろう。断面形態をみると口縁部を左右にT字状に拡張させ、その内面頂部からほぼ垂直方向に穿孔が2ヵ所なされる。本品は土師質であるが、瓦質のものが米子市目久美遺跡、泉中峰遺跡などから出土している。

古銭は調査地内から18点出土しており、下表にまとめた。

F19～21は煙管である。F19、F20は雁首。いずれも長く湾曲した油返しが火皿へと続くもので、さらに火皿との間に補強帯をもつもの。古泉弘氏編年<sup>5)</sup>の第3段階(17世紀後半)に相当する。F21は吸口で菊のような花であろうか、2単位が彫られている。S31は五輪塔火輪。安山岩製である。(中森)

番号	地点	銭貨名	初鑄年	備考
F1	B2	開元通寶	唐、621年	背面不明
F2	E10	開元通寶	唐、621年	背上月
F3	E8	至道元寶	北宋、995年	
F4	A2	天禧通寶	北宋、1017年	
F5	B2	天禧通寶	北宋、1017年	
F6	B2	天禧通寶?	北宋、1017年	
F7	A2	熙寧元寶	北宋、1068年	
F8	A2	元豊通寶	北宋、1078年	
F9	A2	元豊通寶	北宋、1078年	

番号	地点	銭貨名	初鑄年	備考
F10	E4	元豊通寶	北宋、1078年	
F11	-	元豊通寶?	北宋、1078年	表採
F12	B1	元祐通寶	北宋、1086年	
F13	D8	元祐通寶	北宋、1086年	
F14	A2	元祐通寶	北宋、1086年	
F15	A2	聖宋元寶	北宋、1101年	
F16	A2	洪武通寶	明 1368年	
F17	A2	洪武通寶	明 1368年	背文字?
F18	A2	永樂通寶	明 1408年	

出土銭貨分類表

- 註 1) 鳥取県教育委員会 1984 『鳥取県生産遺跡分布調査報告書』  
 2) 八峠 興 1998 「山陰における中世土器の変遷について-供膳具・煮炊具を中心として-」  
 『中近世土器の基礎研究』XIII  
 3) 上田秀夫 1982 「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』No. 2  
 4) 瀬戸市史編纂委員会 1993 『瀬戸市史 陶磁史篇』四  
 5) 古泉 弘 1988 『江戸の考古学』 ニュー・サイエンス社

## 第6節 時期不明の遺構

本節で扱う土坑18基、溝状遺構1条は、圃場整備による削平のため、掘り込み面が確認できなかった。また出土遺物も僅かで、埋土の検討を行ったが、時期は決定できなかった。

### S K 01 (第40図)

西1区B4グリッドに位置し、径約1.2m、深さ約0.75mを測る円形の土坑である。出土遺物はない。底面が湧水点に達しており、井戸とも考えられる。

### S K 04 (第40図)

西1区A1グリッドに位置する。長径1.45m、短径1.25mの楕円形を呈す。深さは約0.5mを測り、底面に径0.1～0.2mのピットをもつ。規模や形状からS K 01同様、井戸の可能性も考えられる。

### S K 05 (第40図)

東1区D2グリッドに位置する。長径約1.45m、短径約0.8mで上縁部、底面ともに不整形を呈す。深さは約0.2mである。埋土を採取し洗浄を行ったが、遺物は出土しなかった。

### S K 07 (第40図)

東1区D2グリッドに位置する。上縁部は径約0.8mの不整形円で、底部は長径約0.8m、短径約0.55mの楕円形で深さも約0.8mを測る。貯蔵穴などの可能性も考え埋土を採取し洗浄を行ったが、遺物はなく性格を決定づけられなかった。

### S K 08 (第40図)

東1区D2グリッドに位置する。上縁部は不整形で底部はやや方形をしている。内部は袋状の掘り込みが施され、深さは約0.5mを測る。出土遺物はない。

### S K 09 (第40図)

東1区D3グリッドに位置する。南側は排水溝にかかるため全体の形状・規模は不明であるが、検出面から復元すると不整形円形になると想定される。埋土を採取し洗浄を行ったが、遺物はなく性格は不明である。

### S K 11 (第41図)

東1区C1グリッドに位置する。全体を復元すると径約0.5mの円形を呈すると思われる。埋土上部で五輪塔の水輪(S 32)を、埋土中で掌大から人頭大の礫をそれぞれ検出した。礫の大部分は底面より浮いている。水輪は埋土を挟んで礫より上部にあるが、意図的に置かれたものかは不明である。また、墓の可能性を考えて埋土を採取し洗浄を行ったが、遺物はなかった。

### S K 12 (第39図)

西2区B7グリッドに位置する。長径が約4m、短径が約2mの不整形楕円形である。緩やかに傾斜して掘り込まれた大型の土坑で、底面までの深さは約0.6mである。出土遺物はなく、性格も不明である。

### S K 13 (第41図)

東1区C1グリッドに位置し、S K 11に隣接する。埋土中から拳大及び底面に接して人頭大の礫を検出したが、遺構に伴うものかは不明である。

### S K 14 (第41図)

東1区C1グリッドに位置し、S K 11に隣接している。南北を軸とする長径約0.65m、短径約0.5mの不整形円形をしており、深さは0.14mを測る。遺構上面で人頭大の扁平な礫を検出した。S K 11、13と直線上に並んで位置しており、互いに関係を持った遺構とも考えられる。

### S K 15 (第41図)

東3区D6グリッドに位置する。径約0.9mの不整形円形を呈す。深さは最大で0.38mを測る。底面に拳大ほどの扁平な礫が検出されたが、意図的に置かれたものかどうかは不明である。埋土を採取し洗浄を行ったが出土遺物は

なく、性格は不明である。

S K 16 (第41図)

東3区D9グリッドに位置する。長径約0.7m、短径約0.45mの楕円形を呈す。深さは約0.55mを測る。断面形は逆台形を呈す。出土遺物はない。

S K 19 (第39図)

西3区A10グリッドに位置する。北東-南西方向に軸を持つ長径約0.9m、短径約0.6mの不整楕円形で、深さは約0.25mである。南西側の底面に拳大の礫のまとまりを検出したが、性格は不明である。

S K 24 (第41図)

東1区D1グリッドに位置し、S K 26に隣接する。長径約1.4m、短径約1.2mの不整楕円形を呈し、深さは最大で0.4mを測る。出土遺物はない。性格は不明である。

S K 25 (第41図)

東1区D1グリッドでS K 26、27に近接し、調査区の北の境に位置する。長径約1.15m、短径約0.65mの楕円形で、深さは0.5mを測る。底部中心に深さ約0.1mのピットをもつ。出土遺物はない。

S K 26 (第40図)

東1区D1グリッドに位置する。調査区の東境にかかっているため、全体の規模は不明である。断面は2段に掘り込まれ不整形を呈す。検出した深さは約0.35mである。出土遺物はない。

S K 27 (第40図)

東1区D1グリッドに位置し、S K 26に北接する。調査区の東境にかかっているため、全体の規模は不明である。断面は2段に掘り込まれ不整形を呈す。深さは約0.3mである。出土遺物はない。

S K 28 (第41図)

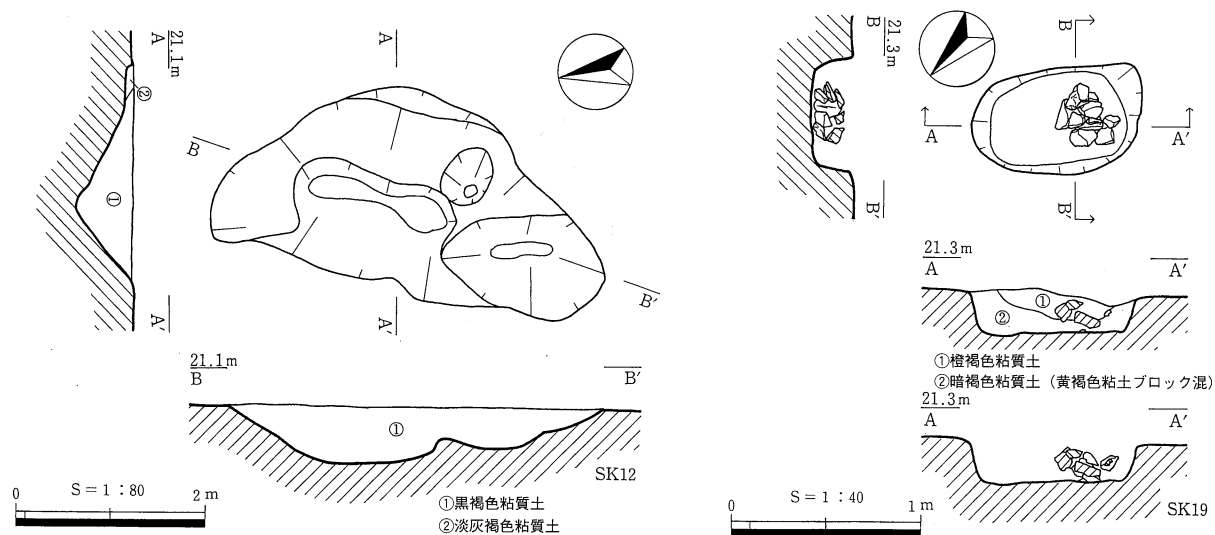
東1区D1グリッドに位置する。南北を軸とする、長径0.75m、短径0.5mの不整形を呈す。深さは0.13mを測る。出土遺物はない。性格も不明である。

S K 29 (第41図)

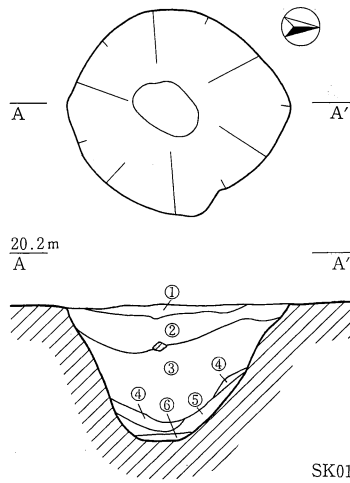
C4グリッドに位置する。南北を軸として、長径1.35m、短径1.1mの不整楕円形を呈す。埋土を採取し洗浄を行った結果、土器片を1点のみ検出したが、摩滅しており時期は不明である。

S D 42 (第41図)

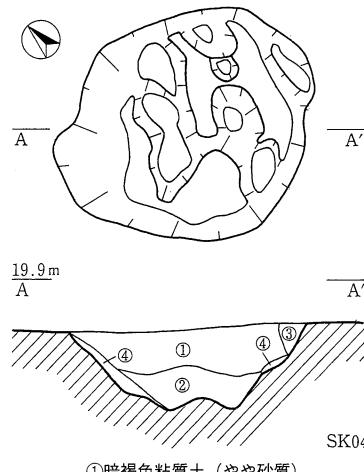
東1区D2グリッドの東端に位置する直線状の溝で、南東は調査区外に伸びる。北西側は削平を受けており、長さ約2mしか検出していない。幅0.4~0.5m、深さ0.05~0.15mを測る。出土遺物はない。(内田)



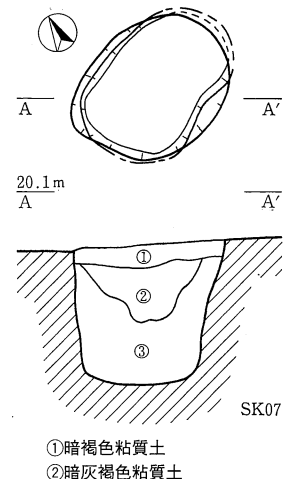
第39図 時期不明遺構実測図(1)



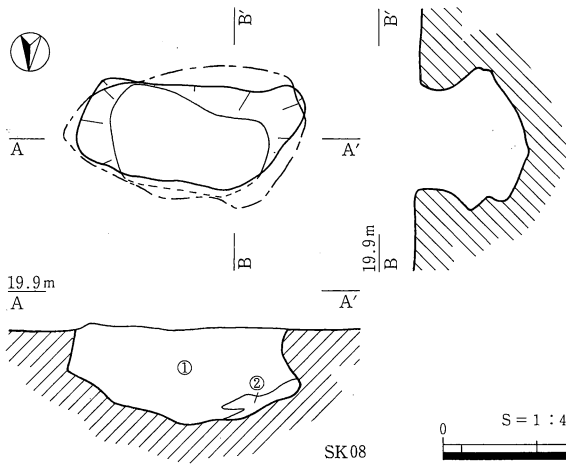
- ①黒褐色粘質土 (床土混じり)
- ②黒褐色粘質土 (砂礫入る)
- ③黒褐色粘質シルト (黄色土ブロック混)
- ④黄色土ブロック
- ⑤黒褐色粘性シルト
- ⑥暗灰色粘性シルト



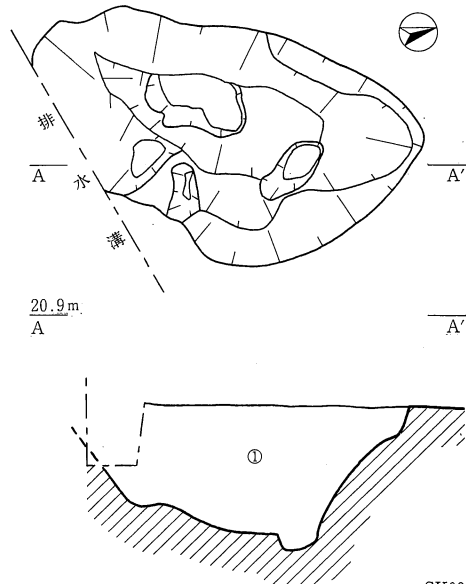
- ①暗褐色粘質土 (やや砂質)
- ②黒褐色粘質土 (粘性強い)
- ③暗灰褐色粘質土
- ④暗赤褐色粘質土



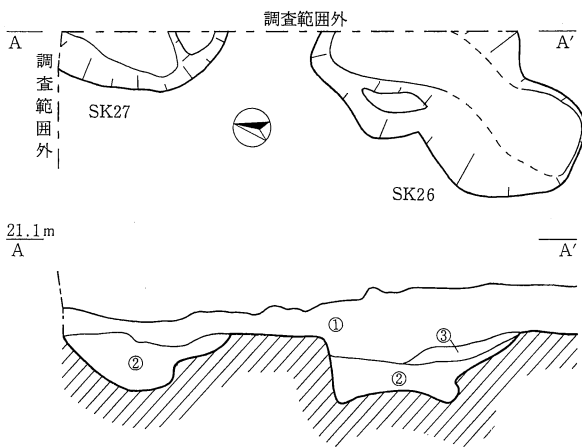
- ①暗褐色粘質土
- ②暗灰褐色粘質土
- ③暗黄褐色粘質土 (粘性強い)



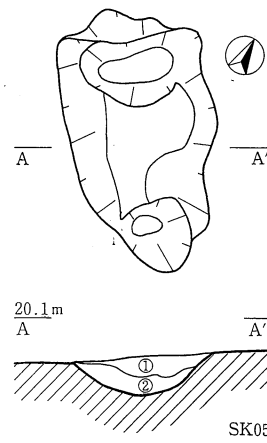
- ①黒褐色粘質土
- ②黄灰褐色粘質土



- ①黒褐色粘質土 (非常に固い、上部にやや鉄分混じる)



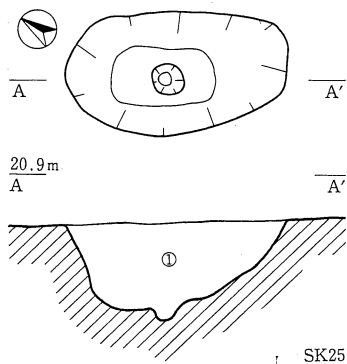
- ①灰褐色粘質土
- ②暗灰色粘土
- ③灰褐色粘土



- ①暗灰色粘質土 (砂粒、風化礫混)
- ②暗灰色粘質土

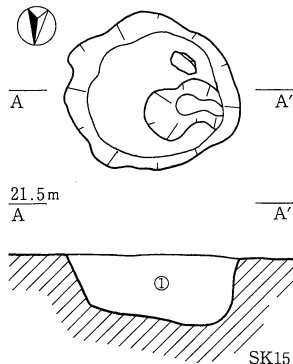
第40図 時期不明遺構実測図(2)





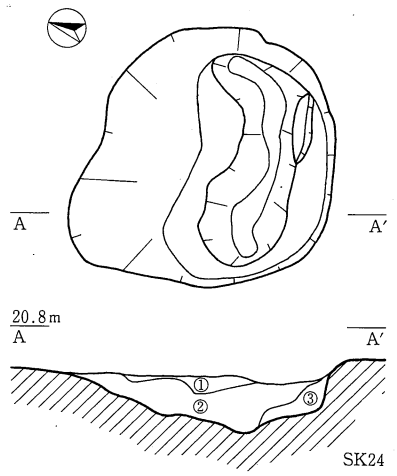
①暗灰色粘土

SK25



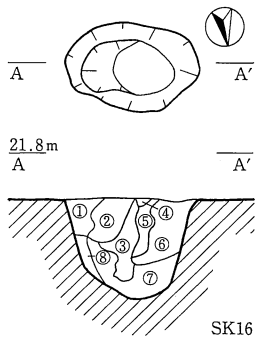
①黒褐色粘質土（風化礫混）

SK15

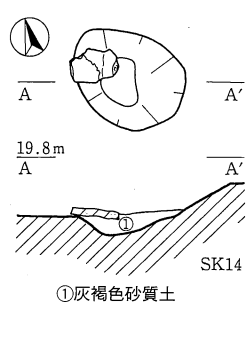


①暗灰色粘質土  
②暗灰色粘土  
③暗灰色砂

SK24

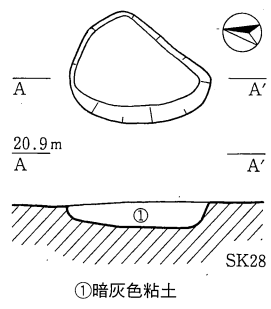


SK16



①灰褐色砂質土

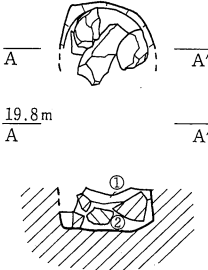
SK14



①暗灰色粘土

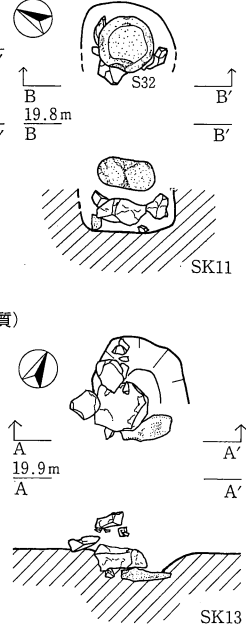
SK28

- ①黒褐色粘質土（黄白色粘土ブロック混）
- ②黒褐色粘質土（黄白色粘土ブロック混、①に類似）
- ③黒褐色粘質土（黄白色粘土ブロック混、①に類似）
- ④黒褐色粘質土（黄白色粘土ブロック混、やや少ない）
- ⑤黒褐色粘質土（黄白色粘土ブロック混、④に類似）
- ⑥黄白色粘土
- ⑦黒褐色粘質土（黄白色粘土ブロック混、④に類似）
- ⑧黄白色粘土

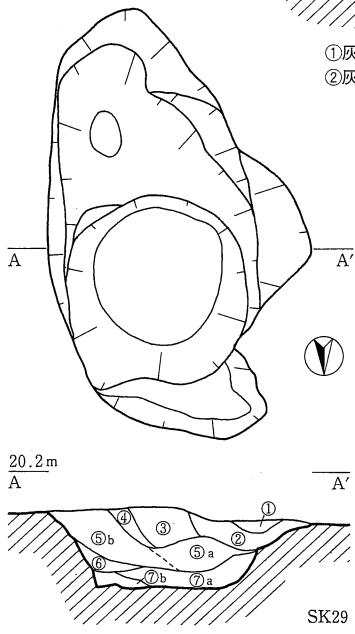
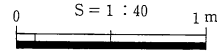


SK11

①灰褐色粘質土  
②灰色砂（やや粘質）

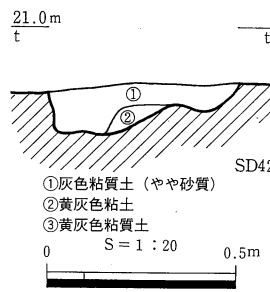


SK13



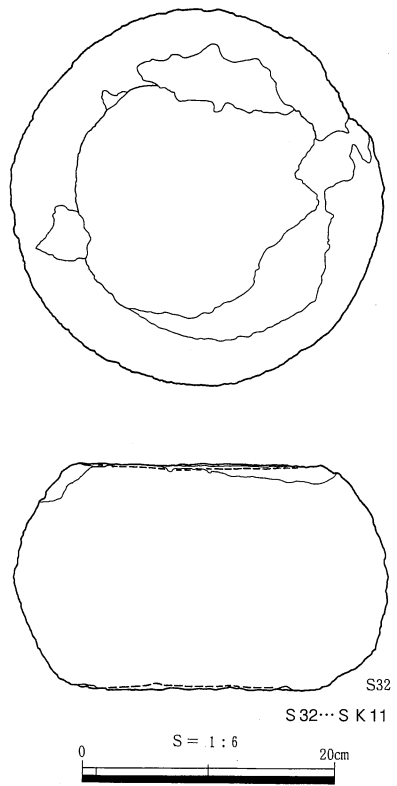
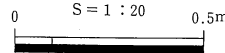
SK29

- ①黄褐色風化礫
- ②黒褐色粘質土（風化礫、砂混）
- ③黒褐色粘質土（白色粒子、風化礫小粒、人頭大角礫多数混）
- ④黒褐色粘質土（風化礫大・小粒混）
- ⑤a 黒褐色粘質土（風化礫[径2、3cm]混）
- ⑤b 黒褐色粘質土（風化礫[大きくて1cm]混）
- ⑥黄橙色粘性砂質土
- ⑦a 黒色粘質土（風化礫混）
- ⑦b 黒色粘質土（粘性強く、混入物無し）



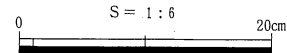
SD42

①灰色粘質土（やや砂質）  
②黄灰色粘土  
③黄灰色粘質土



S32

S32... S K 11



第41図 時期不明遺構実測図（3）及びS K 11出土遺物実測図

(計測値の単位はcm)

ピット	グリッド	長 径	短 径	深 さ	特記事項
P01	A2	43	37	34	
P02	A2	43	-	23	P03に切られる
P03	A2	41	35	21	
P04	A2	35	31	17	
P05	A2	26	25	18	
P06	A2	38	37	30	P05に切られる
P07	A1	27	25	23	
P08	A1	33	29	29	
P09	A5	60	40	9	
P10	B2	23	22	16	
P11	B2	36	35	25	
P12	A2	44	42	21	
P13	A1	13	12	10	
P14	D3	24	20	14	
P15	D3	21	16	14	
P16	D3	21	18	13	
P17	D3	24	22	11	
P18	D3	28	24	22	
P19	D3	-	28	11	P48と切り合う
P20	D2	32	28	27	
P21	D2	26	23	12	
P22					欠番
P23	D2	48	38	33	
P24	E3	44	32	17	
P25	A1	24	22	9	
P26	A1	24	18	12	
P27	A1	46	46	29	
P28	A1	16	15	8	
P29	A1	24	21	11	
P30	A2	18	16	12	
P31	A1	18	14	5	
P32	A2	20	17	15	
P33	A2	30	23	10	
P34	A2	24	21	12	
P35	A2	24	16	16	
P36	A2	24	22	11	
P37	A2	-	20	21	
P38	A2	22	22	21	
P39	A2	27	24	24	
P40	A2	24	22	30	
P41	A2	17	16	24	
P42	A2	-	16	19	
P43	A2	42	36	28	
P44	A2	12	11	6	
P45	A2	15	12	5	
P46	A2	22	22	11	
P47	B2	46	42	25	
P48	D3	-	26	15	P19と切り合う
P49	D4	22	20	22	
P50	D4	18	18	-	
P51	D4	14	13	-	
P52	D4	15	12	12	
P53	D4	30	28	11	
P54	D4	12	11	-	
P55	D4	16	16	-	
P56	D4	27	24	7	
P57	D4	-	24	23	SB01
P58	D4	38	27	34	SB02
P59	D4	42	33	13	
P60	D4	30	28	17	SB11
P61	D4	37	35	16	SB12
P62	E4	30	30	14	SB11
P63	E4	33	-	18	SB12
P64	E4	30	27	25	SB11・SB12
P65	E4	35	32	36	SB12
P66	E4	37	-	28	SB11

ピット	グリッド	長 径	短 径	深 さ	特記事項
P67	E4	30	29	13	SB12
P68	E4	-	31	26	P67に切られる
P69	E4	28	-	13	SB11
P70	E4	35	29	13	SB12
P71	E4	28	-	15	SB11
P72	E4	34	30	16	SB11・SB12
P73	D4	28	21	11	SB11
P74	D4	-	18	9	SB12
P75	D4	24	23	32	SB02
P76	D4	-	30	17	SB01
P77	D5	47	40	21	
P78	D5	33	33	13	
P79	D5	24	21	17	SB01
P80	D5	22	20	17	SB02
P81	D5	14	14	35	
P82	D4	25	22	30	SB01
P83	D4	24	-	28	SB02
P84	E5	12	10	-	
P85	A5	43	35	34	
P86	B5	33	31	42	
P87	B5	27	25	32	
P88	B7	37	35	21	
P89	B7	39	33	27	
P90	B7	25	23	30	
P91	B7	43	38	38	
P92	B7	30	28	22	
P93	B7	20	19	13	
P94	B7	42	41	34	
P95	B7	45	34	23	
P96	B7	39	34	8	
P97	B7	47	46	28	
P98	B8	25	25	30	
P99	B8	25	25	12	
P100	B8	25	20	6	
P101	B8	21	19	7	
P102	C8	21	21	5	
P103	B7	41	40	14	
P104	B7	38	36	14	
P105	B7	51	41	11	
P106	B8	24	22	18	
P107	B7	20	19	9	
P108	B8	30	27	8	
P109	B8	21	19	12	
P110	B7	39	39	13	
P111	C5	22	19	14	
P112	C5	26	23	25	
P113	C6	21	15	6	
P114	C6	21	19	13	
P115	C6	28	23	24	
P116	C6	28	16	17	
P117	C6	40	34	23	
P118	C6	31	28	11	
P119	C7	31	17	4	
P120	C8	21	21	21	
P121	D1	38	37	34	
P122	D1	23	21	13	
P123	E7	27	21	11	
P124	E7	55	42	21	
P125	E7	30	28	24	
P126	E7	29	27	20	
P127	E7	54	48	12	
P128	E7	65	43	23	
P129	E7	46	40	22	
P130	E7	19	19	11	
P131	E7	55	38	21	
P132	E7	51	46	29	

ピット一覧表 (1)

(計測値の単位はcm)

ビット	グリッド	長 径	短 径	深 さ	特記事項
P133	E7	34	30	20	
P134	E7	37	36	18	
P135	E7	25	21	9	
P136	E7	45	40	17	SB04
P137	E7	34	31	15	
P138	E7	34	31	27	SB14
P139					欠番
P140	E7	55	45	29	SB14
P141	E7	29	19	20	SB04
P142	E7	30	29	34	
P143	E7	39	31	21	SB04
P144	E7	33	32	27	SB14
P145	E7	38	-	28	P144に切られる
P146	E7	38	37	17	SB04
P147	E7	38	-	33	SB14
P148					欠番
P149	E8	-	-	19	
P150	E8	59	42	30	
P151	E8	58	53	20	SB05
P152	E8	34	33	16	
P153	E8	45	44	16	SB05
P154	E8	51	50	13	SB05
P155	E8	35	33	24	SB05
P156	E8	35	32	16	
P157	E8	48	34	14	
P158	E9	23	19	20	SB06
P159	D9	29	26	18	
P160	D9	75	65	22	
P161	D9	33	30	39	
P162	D8	35	30	27	
P163	D8	28	24	11	P164に切られる
P164	D8	36	31	19	
P165	D9	26	20	46	
P166	D8	36	25	27	
P167	D8	27	21	19	
P168	D8	29	26	30	
P169	D8	45	36	21	SB14
P170	D8	30	29	33	
P171	D8	38	36	22	
P172	D7	45	40	21	SB14
P173	D7	46	34	21	
P174	D7	23	20	15	
P175	D7	47	36	16	
P176	D7	26	19	28	
P177	D7	37	32	26	
P178	D7	39	37	11	
P179	D7	52	36	28	
P180	D7	38	34	6	
P181	D9	40	36	47	SB09
P182	D7	24	20	9	
P183	D6	32	26	56	
P184	D7	46	39	44	
P185	D8	-	27	25	P186に切られる
P186	D8	35	-	22	
P187	D8	27	27	13	SB13
P188	D8	35	33	14	
P189	D6	45	-	19	SB10
P190	D6	24	22	44	
P191	D7	41	33	6	
P192	D6	35	32	10	SB10
P193	D8	39	38	17	SB13
P194	D9	37	33	31	
P195	E9	26	23	27	
P196	E9	20	19	13	
P197	E9	30	26	14	SB06
P198	E9	34	30	46	

ビット	グリッド	長 径	短 径	深 さ	特記事項
P199	E9	18	15	13	
P200	E9	21	20	19	SB06
P201	E8	50	43	16	
P202	E9	29	26	24	SB06
P203	E8	28	14	12	
P204	E8	52	27	24	
P205	E8	43	34	14	
P206	E7	77	68	38	SB07
P207	E7	74	61	47	SB07
P208					欠番
P209	D8	37	29	9	SB13
P210	D8	30	27	19	SB13
P211	D8	45	41	46	
P212	D8	60	-	18	P238を切る
P213	D8	27	26	7	
P214	D8	35	34	22	SB13
P215					欠番
P216	D8	43	42	23	SB13
P217	E8	41	26	7	
P218	E8	-	13	14	SB13
P219	E9	23	20	15	SB06
P220	E8	56	31	28	SB13
P221	E7	34	29	13	SB04
P222	E9	32	25	33	
P223	E8	41	41	25	
P224	D6	33	29	30	
P225	D6	29	26	9	
P226	D6	43	31	36	SB10
P227	D6	34	30	21	SB10
P228	D6	26	25	36	SB10
P229	D6	22	21	13	
P230	D6	61	55	39	
P231	D6	40	34	46	
P232	D6	57	54	28	
P233	D7	40	35	15	
P234	D6	25	20	24	SB10
P235	E7	22	20	27	
P236	E7	38	33	22	
P237	D7	50	34	15	
P238	D8	42	-	29	P212に切られる
P239	E8	24	21	16	
P240	D8	37	30	39	
P241	D8	16	15	11	
P242	D8	35	31	44	
P243					欠番
P244	E8	52	47	35	
P245	E8	36	-	19	
P246	D6	20	19	12	SB10
P247	D6	19	18	14	
P248	D9	59	48	48	SB09
P249	D6	40	37	22	
P250	D8	40	34	17	
P251	D8	50	36	12	
P252	D8	51	50	23	
P253	E7・E8	60	54	44	SB07
P254	E7	28	20	9	P255に切られる
P255	E7・E8	45	40	12	
P256	E7	53	-	35	P257に切られる
P257	E7	62	-	23	
P258	E7	36	28	7	
P259	E8	28	25	30	
P260	E8	55	-	46	SB07
P261	E8	42	34	36	
P262	E8	73	68	32	
P263	F8	37	-	14	
P264	E7	24	20	7	

ビット一覧表 (2)

(計測値の単位はcm)

ピット	グリッド	長 径	短 径	深 さ	特記事項
P265	E7	41	40	22	SB14
P266	E6	55	46	48	SI03
P267	E6	23	18	15	
P268	E6	20	17	22	
P269	E6	30	22	13	
P270	E6	22	19	10	
P271	E6	36	31	33	SI02
P272	E6	37	27	50	SI03
P273	E5	31	25	41	SI02
P274	E5	25	20	19	
P275	E5	29	23	41	SI01
P276	E5	26	22	45	
P277					欠番
P278	E5	47	46	36	
P279	E5	46	45	50	SI02
P280	E5	37	35	30	SI03
P281	E5	33	28	58	SI01
P282	E5	34	25	59	
P283	E5	21	19	14	
P284	E5	40	39	33	SI02・03
P285	E5	56	32	44	
P286	E5・E6	62	52	31	
P287	E6	52	44	50	SI02
P288	E6	41	33	54	
P289	E7	33	28	29	
P290	E8	45	37	32	SB14
P291	E7	25	22	23	
P292	E7	22	21	9	
P293	E7	32	28	15	
P294	E7	23	17	12	
P295	E7	28	24	12	
P296	E8	50	35	9	
P297	F8	31	30	48	
P298	E9	69	54	56	SB09
P299	D6	64	43	41	
P300	E8	41	31	12	SB05
P301	E8	29	27	17	
P302	F8	26	21	29	
P303	F8	35	34	18	
P304	F8	31	30	21	
P305	E9	28	28	25	
P306	D9	-	49	34	SB09
P307	D7	27	24	37	
P308	D7	50	45	44	
P309	D7	27	21	17	
P310	D7	40	28	22	
P311					欠番
P312	D7	33	26	20	
P313	E7	34	30	38	
P314	E7	31	30	49	
P315	E7	20	19	42	
P316	E7	44	42	52	
P317	D7	28	24	12	
P318	E7	26	25	15	
P319	E5	26	10	18	
P320	E6	44	39	14	
P321	E5	40	35	52	SI03
P322	E6	56	52	59	SI03
P323	E6	110	70	45	SI02・03中央ピット
P324					欠番
P325					欠番
P326	E6	31	29	49	
P327	E6	47	36	51	SI03
P328	E5	20	19	23	
P329	E5	21	19	18	

ピット	グリッド	長 径	短 径	深 さ	特記事項
P330	D10	16	14	7	
P331	D10	20	18	7	
P332	D10	25	24	7	
P333					欠番
P334	D10	45	44	14	
P335					欠番
P336	D10	32	30	23	
P337	D10	41	34	39	
P338	D10	32	30	20	
P339	D10	76	50	32	P337に切られる
P340	D10	46	42	76	
P341	D10	41	36	48	
P342	D10	-	30	50	P343に切られる
P343	D10	52	45	38	
P344	D10	30	15	48	
P345	D10	52	44	30	
P346	D10	40	30	10	
P347	D10	46	43	51	
P348	D10	38	30	31	
P349	D10	28	26	37	
P350	D10	44	40	52	P349に切られる
P351	D10	48	43	50	
P352	D10	41	38	28	
P353	D10	44	30	37	
P354	D10	30	29	15	
P355	D10	35	24	38	
P356	D10	34	19	19	
P357	D10	24	20	36	
P358	D10	27	25	22	P359と切り合う
P359	D10	35	-	10	P358と切り合う
P360	D10	39	30	23	P361に切られる
P361	D10	35	28	11	
P362	D10	28	20	14	
P363	D10	22	18	24	
P364	E10・E1	36	34	47	
P365	E10	24	15	18	
P366	E10・D1	44	37	44	
P367					欠番
P368	E10	27	25	10	
P369	E10	25	-	14	
P370	E10	35	30	21	
P371	E10	20	18	18	
P372	E10	29	22	19	
P373	E10	28	23	12	
P374	E10	28	26	30	
P375	E10	32	32	12	
P376	E10	30	26	32	
P377	E10	35	32	40	
P378	E10	44	25	30	
P379	E10	50	30	32	
P380	E10	22	18	11	
P381	E10	22	20	21	
P382	E10	-	40	-	
P383	E10	50	43	44	SB03
P384	E10	21	19	21	
P385	E10	26	-	26	
P386	E10	32	27	29	
P387	E10・F1	39	30	22	
P388	E10	27	19	33	
P389	E10	24	18	19	
P390	E10	27	20	15	
P391	E10	25	22	15	
P392	E10	12	10	14	
P393	E10	17	13	19	
P394	E10	19	18	7	

ピット一覧表 (3)

(計測値の単位はcm)

ビット	グリッド	長 径	短 径	深 さ	特記事項
P395	E10	46	37	18	
P396	E10	37	24	29	SB08
P397	E10	31	24	24	
P398	E10	30	24	31	
P399	E10	24	22	17	
P400	B9	35	29	27	
P401	B10	30	26	16	
P402	B10	35	28	13	
P403	B10	28	24	13	
P404	B10	30	26	21	
P405	B10	28	21	9	
P406	B10	53	36	29	
P407	B10	33	26	5	
P408	B10	33	25	31	
P409	B10	24	20	30	
P410	B10	28	15	17	
P411	B10	32	31	21	
P412	B10	50	43	7	
P413	B10	34	30	22	
P414	B10	22	20	11	
P415	B10	28	23	20	
P416	B10	25	22	30	
P417	B10	28	26	8	
P418	B10	32	24	18	
P419	B10	40	25	35	
P420	B10	25	20	28	
P421	B10	18	16	8	
P422	B10	15	14	22	
P423	B10	28	22	14	P492と切り合う
P424	B10	55	44	19	
P425	B10	55	48	23	
P426	B10	30	19	20	
P427	A10	21	20	9	
P428	A10	52	37	25	
P429	B10	38	35	27	P430に切られる
P430	B10	48	40	35	
P431	B10	52	51	22	
P432	B10	20	18	17	
P433	A10	19	16	16	
P434	A10	30	26	17	
P435	B10	52	28	29	
P436	B11	31	30	44	
P437	A11	26	19	42	
P438	A11	24	22	16	
P439	B11	30	26	22	
P440	B11	36	29	23	
P441	B11	22	20	19	
P442	B9	30	27	28	
P443	B9・B10	30	28	19	
P444	B9	21	19	16	
P445	B9	46	24	16	
P446	B10	22	18	18	
P447	B10	20	10	27	
P448	A10	50	45	39	
P449	B10	43	40	17	
P450	C10	25	20	42	
P451	C10	27	23	47	
P452	C10	27	22	29	
P453	C11	46	35	18	
P454	C11	32	25	15	
P455	C11	65	51	52	
P456	C11	-	36	5	
P457	C11	30	28	10	
P458	C12	-	-	23	
P459	C12	35	32	17	
P460	C12	38	32	40	

ビット	グリッド	長 径	短 径	深 さ	特記事項
P461	D11	24	19	13	
P462	D11	33	26	55	
P463	D11	35	33	22	
P464	D11	37	28	55	
P465	D11	26	20	20	
P466	D11	28	23	23	P466に切られる
P467	D11	-	42	21	
P468	D11	28	22	13	
P469	D11	38	36	27	
P470	D11	23	-	21	P469に切られる
P471	D11	40	30	77	
P472	D11	-	20	10	P471に切られる
P473	D11	30	20	8	
P474	D11	27	23	12	
P475					欠番
P476					欠番
P477	E11	35	30	43	
P478	E11	26	23	25	
P479	E11	40	38	62	
P480	E11	38	32	19	
P481	E11・F1	50	32	45	SB15
P482	E11	14	13	15	
P483	E11・F1	33	-	20	SD30に切られる
P484	F11	27	22	31	
P485	E11	27	23	16	
P486	F11	36	32	27	
P487	E11	26	20	16	
P488	B10	42	40	11	
P489	B10	42	25	54	
P490	B10	33	32	14	
P491	B10	16	14	17	
P492	B10	40	20	8	P423と切り合う
P493	A10	46	44	39	
P494	B11	20	16	14	
P495	B11	-	30	17	
P496	B9	30	20	23	
P497	F10	35	34	36	
P498					欠番
P499	F10	34	22	8	SB08
P500	F10	33	27	15	
P501	F11	43	39	40	SD28に切られる
P502					欠番
P503	F11	40	30	21	SB15
P504	F11	20	20	28	
P505	F11	16	16	8	
P506	F11	40	34	24	SB08
P507	F11	40	30	36	SB15
P508	F11	24	20	13	
P509	F11	30	19	14	
P510	F11	12	10	21	
P511	F11	41	30	32	SB15
P512	F11	44	28	15	
P513	F11	22	20	10	
P514	E11	29	22	23	
P515	E11	34	29	13	SB08
P516	E11	34	30	33	SB08
P517	E11	46	36	45	SB15
P518	E11	33	24	19	
P519	E11	27	23	7	
P520	E11	40	30	25	
P521	E11	-	13	11	P522に切られる
P522	E11	37	28	16	
P523	E11	12	10	19	
P524	E11	34	26	7	
P525	E11	44	32	20	
P526					欠番

ビット一覧表 (4)

(計測値の単位はcm)

ピット	グリッド	長 径	短 径	深 さ	特記事項
P527	E11	39	35	39	
P528	E10	20	16	12	
P529	E10	19	17	10	
P530	B11	19	15	31	
P531	F11	63	40	40	SB15
P532	E10	25	12	12	
P533	E10	40	-	33	P534に切られる
P534	E10	38	-	8	
P535	D10	38	30	-	
P536	D10	28	26	23	
P537	E5	30	26	26	
P538	E6	22	16	31	
P539	E6	31	23	50	
P540	E5	14	13	11	
P541	E11	47	45	17	
P542	B10	20	20	21	
P543	B10	30	28	20	
P544	B10	-	30	29	P447に切られる
P545	E11	40	40	22	
P546	E11	46	31	30	
P547	E11	30	30	37	
P548	E11	34	27	25	
P549	F12	35	29	39	
P550	F12	30	20	14	
P551					
P552	F11	20	12	15	
P553	F11	40	40	13	
P554	E6	46	40	49	
P555	E6	25	22	37	SI02
P556	E6	34	32	52	SI01
P557	E6	51	36	32	
P558	E6	17	15	18	
P559	E6	11	9	7	
P560	E6	32	28	50	SI02
P561	E6	37	34	52	SI01
P562					欠番
P563					欠番
P564	E15	33	25	16	
P565	E15	68	45	25	
P566	D15・E1	35	28	16	
P567	D15	33	19	13	
P568	D15	25	20	14	
P569	D15	38	30	28	
P570	D15	32	25	19	
P571	F10	34	26	16	
P572					欠番
P573	F10	32	29	25	
P574	F10	25	16	11	
P575	F10	24	16	27	
P576	F10	31	30	36	
P577	E10	-	30	23	
P578	F10	19	10	7	
P579	F10	20	16	10	
P580	F10	41	39	39	
P581	F10	38	28	32	
P582	F10	30	21	10	
P583	E6	22	20	31	
P584	E6	14	13	8	
P585	E6	35	25	58	
P586	D7	42	34	22	
P587	D7	18	17	14	P586に切られる
P588	E11	-	40	22	SD30に切られる
P589	E11	23	16	20	
P590	F11	22	20	16	
P591	D12	25	19	19	
P592	D12	50	32	29	

ピット	グリッド	長 径	短 径	深 さ	特記事項
P593	D12	32	32	31	P594と切り合う
P594	D12	43	-	34	P593と切り合う
P595					欠番
P596	D10	26	18	35	
P597	D10	25	20	43	
P598	D10	31	20	21	
P599	D11	24	20	10	
P600	D11	40	32	20	
P601	D11	18	12	12	
P602	C14	130	83	30	SI04
P603	D12	30	25	58	
P604	E11	34	24	12	
P605	F11	-	36	38	
P606	F11	-	30	27	SB15
P607	D11	20	14	23	
P608	D11	37	30	16	
P609	D11	41	36	37	
P610	D11	30	22	17	
P611	E11	26	24	23	
P612	E11	25	23	29	
P613	E11	25	20	19	
P614	F11	54	49	27	
P615	D10	27	26	22	
P616	D9・D10	23	18	24	
P617					欠番
P618	D9	27	24	47	
P619	D9	24	24	12	
P620	D9	17	13	8	
P621	D9	57	53	24	
P622	D9	53	43	45	
P623	D9	48	44	49	SB09
P624	D9	73	61	54	SB09
P625	E9	30	30	39	
P626	E9	30	27	34	
P627	E9	28	26	8	
P628	E9	40	38	31	
P629					欠番
P630	E9・E10	45	44	25	
P631	D9	20	18	6	
P632	D9	27	19	26	
P633	E10	22	18		
P634	E9・E10	28	20	34	
P635	E9	26	24	9	
P636	E9・E10	-	20	11	P637と切り合う
P637	E10	-	17	7	P636と切り合う
P638	E9	36	30	43	SB03
P639	E9	27	22	42	
P640	E9	44	38	26	
P641	E9	17	14	11	
P642	E9	28	20	26	
P643	E9	30	26	41	
P644	E9	34	27	12	
P645	E9	36	34	4	
P646	E9	46	35	51	SB03
P647	E9	30	20	29	
P648	E9	27	20	17	
P649	E10	40	38	26	
P650	E10	21	20	4	
P651	E10	16	16	30	P652に切られる
P652	E9	78	56	15	
P653	E9	37	33	38	
P654	E9	60	40	21	
P655	E10	20	17	22	
P656	E9	19	19	7	
P657	E9	36	34	18	
P658	F9	34	32	9	

ピット一覧表 (5)

(計測値の単位はcm)

ビット	グリッド	長 径	短 径	深 さ	特記事項
P659	F9	34	32	26	
P660	F9	36	26	30	
P661	F9	34	27	10	
P662	E9	25	23	13	
P663	E9	35	30	30	
P664	E9	20	19	31	
P665	E9	-	24	22	P666に切られる
P666	E9・E10	36	34	28	
P667	E9	20	17	9	
P668	E10	27	25	14	
P669	E10	23	22	5	
P670	E10	18	13	9	
P671	E9	30	25	28	
P672	D14	49	46	25	SI08・09
P673	D14	40	30	37	SI08・09
P674	D14	44	32	8	SI08・09
P675	D14	31	28	24	SI08・09
P676	D14	41	38	28	SI08・09
P677	C14・D1	91	73	31	SI04
P678	D12	23	16	14	
P679	D11	21	18	25	
P680	D11	39	30	78	
P681	D11	48	40	19	
P682	D12	42	37	42	
P683	D11・D1	41	38	31	
P684	D12	37	25	20	
P685	D11	40	33	43	P680に切られる
P686					欠番
P687	F11	60	44	65	
P688	D9	30	24	10	
P689	E9	26	20	15	
P690	D9	36	27	50	
P691	E9	26	24	45	
P692	D9	27	18	4	
P693	E9	38	36	34	
P694	E9	25	18	32	
P695	E9	24	18	30	
P696	E9	32	20	24	
P697	E9	32	27	23	
P698	E9	30	22	26	
P699	E9	40	38	49	SB03
P700	E9	30	26	24	P751に切られる
P701	E9	18	12	8	
P702	B9	56	45	9	
P703	B9	25	20	24	
P704	B9	56	55	63	
P705	B9	30	28	15	
P706	B9	10	8	11	
P707	B9	25	20	15	
P708	B9	25	20	11	
P709	B9	28	26	9	
P710	B9	54	47	36	
P711	B9	70	35	19	
P712	B9	18	16	14	
P713					欠番
P714	B9	40	40	5	
P715	B9	40	35	11	
P716	B9	20	20	16	
P717	B9	30	29	18	
P718	B9	18	15	13	
P719	E9	24	20	37	
P720					欠番
P721	E9	16	15	9	
P722	F9	20	19	14	
P723	E9	30	18	11	
P724	D9・D10	47	42	28	
P725	D10	42	40	9	
P726	C9	28	19	29	

ビット	グリッド	長 径	短 径	深 さ	特記事項
P727	B9	26	25	17	
P728	B9	26	23	23	
P729	B9	25	22	11	
P730	B9	31	26	8	
P731	C9	15	11	11	
P732	B9	48	-	5	P715に切られる
P733	D1	36	35	25	
P734	D1	40	39	13	
P735	D1	29	24	11	
P736	D1	35	30	43	
P737	D1	22	21	16	
P738	C1・D1	38	36	31	
P739	D2	45	36	4	
P740	D2・E2	43	40	14	
P741	D2	22	20	12	
P742	D2	34	32	11	
P743	D2・E2	29	24	10	
P744	D2	25	20	17	
P745	D2	25	25	10	
P746	D2	21	20	5	
P747	D1	30	23	20	
P748	D1	22	22	24	
P749	D1	38	20	14	
P750	E3	25	14	23	
P751	E9・E10	20	18	25	
P752	E10	18	12	7	
P753					欠番
P754					欠番
P755	D9	27	22	32	
P756	D1	25	20	12	
P757	D1	30	26	22	
P758	D1	14	14	16	
P759	D14	73	65	35	SI08・09
P760	D14	-	54	12	P759に切られる
P761	D1	23	20	42	
P762	D1	48	28	25	
P763	C1・D1	36	28	9	
P764	E9	60	40	16	
P765	E9	28	22	22	
P766					欠番
P767	E10	22	22	24	
P768	D9	40	36	43	
P769					欠番
P770	D9	20	20	21	
P771	D9	50	48	38	
P772	D9	20	14	39	
P773					欠番
P774					欠番
P775	C14	48	41	52	SI04
P776	C14	84	69	31	SI04
P777	C14	47	45	12	SI04
P778					欠番
P779	C14	52	39	16	SI04
P780	C14	46	38	38	SI04
P781	D14	40	37	25	SI08・09
P782	D14	53	37	32	SI08・09
P783	D14	20	20	12	SI08・09
P784	D14	30	29	11	SI08・09
P785	D11	42	35	59	
P786	C14	68	60	8	SI04
P787	C14	78	72	42	SI04
P788	D14	113	97	27	SI08・09
P789	D9	50	33	26	
P790	C14	41	32	15	SI04
P791	D14	72	43	28	SI08・09
P792	C14	57	53	16	SI04
P793	D14	45	40	43	SI08・09
P794	E13・F1	65	51	23	

ビット一覧表 (6)

(a : 口径, b : 器高, c : 底部径, ※ : 復元値, △ : 残存値)

遺物番号	地点	器種	法量 cm	特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	SK10	縄文深鉢	a - b 3.95△ c -	外) 口縁端部肥厚させRL縄文施文後一条の沈線、口縁部ミガキか 内) 横方向丁寧なミガキ	やや粗	良	黒褐色	
2	SK10	縄文深鉢	a - b 6.75△ c -	外) 調整不明、沈線文 内) 調整不明	粗	軟	外) 暗灰色 内) 淡褐色	波状口縁
3	SK10	縄文深鉢	a - b 5.45△ c -	外) 粗いヨコナデ 内) 粗いヨコナデ	やや粗	軟	黄褐色	
4	SK10	縄文深鉢	a 31.6 ※ b 7.6 △ c -	外) 横方向ケズリ後ナデ 内) ナデ	粗	やや軟	淡褐色	
5	SK10	縄文深鉢	a 25.7 ※ b 4.1 △ c -	外) ケズリ後ナデか。口縁部に明瞭な屈曲 内) ケズリ後ナデ。貼付突帯状	粗	やや軟	暗褐色	
6	SK10	縄文深鉢	a - b 8.3 △ c -	外) 斜方向ケズリ 内) 横方向ナデ	粗	やや軟	黒褐色	5と同一個体
7	SK10	縄文深鉢	a - b 8.7 △ c -	外) ケズリ条痕 内) ナデ	粗	やや軟	褐色	
8	SK10	縄文鉢	a - b 3.4 △ c -	外) 口縁部ナデ、胴部羽状縄文 内) ナデ	やや粗	軟	淡黄褐色	9・10と同一個体
9	SK10	縄文鉢	a - b 3.8 △ c -	外) 羽状縄文 内) ナデ	やや粗	軟	淡黄褐色	8・10と同一個体
10	SK10	縄文鉢底部	a - b 1.1 △ c 5.2	外) 調整不明、僅かに凹み底を呈す。 内) 調整不明	粗	軟	淡褐色	黒変 8・9と同一個体
11	SK10	縄文深鉢	a - b 10.5 △ c 5.9 ※	外) 調整不明、底部斜行沈線・平行沈線、底面ナデ 内) 胴部ヨコナデ、底部指オサエ	やや粗	軟	淡褐色	
12	SK10	縄文深鉢底部	a - b 4.0 △ c 7.9	外) ナデ 内) 胴部ヨコナデ、底部粗いナデ	粗	やや軟	暗灰色	2と同一個体
13	SK10	縄文深鉢底部	a - b 2.65△ c 6.1 ※	外) 調整不明 内) ナデ	粗	やや軟	淡褐色	内部黒変
14	SI08	縄文深鉢	a - b 4.5 △ c -	外) 目の粗い縄文RL 内) ヨコナデ	やや粗	やや軟	暗灰褐色	
15	SI01 P560	縄文浅鉢	a - b 3.2 △ c -	外) ナデ、連続刻目 内) ナデ	密	良	外) 淡褐色 内) 淡橙褐色	外面黒斑あり
16	D12	縄文深鉢	a - b 1.95△ c -	外) 口縁端部刻み、端部よりやや下がった位置に突帯を巡らせ、小D字状刻み。突帯下部には斜方向刻み 内) 調整不明	粗	軟	淡黄褐色	
17	SI01	弥生壺	a 21.2 ※ b 6.8 △ c -	外) 口縁部擬凹線、頸部ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密	良	淡黄褐色	
18	SI01	弥生甕	a 12.8 ※ b 2.9 △ c -	外) 口縁部擬凹線、頸部ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部左方向ヘラケズリ	やや粗	良	淡黄褐色	
19	SI01	弥生甕	a 16.0 ※ b 3.25△ c -	外) 口縁端部ヨコナデ、口縁部三本の擬凹線 内) 口縁部ヨコナデ、胴部右方向ヘラケズリ	やや粗	やや軟	淡褐色	黒斑あり
20	SI01	弥生甕	a 16.8 ※ b 3.6 △ c -	外) 口縁部擬凹線ナデか、頸部ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	密	良	淡黄褐色	
21	SI01	弥生甕	a 16.1 ※ b 5.55△ c -	外) 口縁端部ヨコナデ、口縁部貝殻腹縁の擬凹線、頸部ヨコナデ・貝殻腹縁の刺突文 内) 口縁部ヨコナデ、胴部左方向ヘラケズリ	密	良	外) 褐色 内) 淡褐色	スス付着 黒斑あり
22	SI04	土師器甕	a 22.25 ※ b 7.35△ c -	外) 口縁部ヨコナデ、頸部以下ハケメ 内) 口縁部ヨコナデ、頸部以下右方向ケズリ	粗	やや軟	乳白色	
23	SI04	須恵器高坏脚部	a - b 6.75△ c 10.25 ※	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	密	良	外) 暗緑色 内) 灰色	四方向に透かし 内外面暗緑色の 自然釉かかる

出土土器観察表 (1)



(a : 口径, b : 器高, c : 底部径, ※ : 復元値, △ : 残存値)

遺物番号	地点	器種	法量 cm	特徴	胎土	焼成	色調	備考
24	SI04	須恵器 坏蓋	a 15.75※ b 4.95 c -	外) 天井部ヘラケズリ、体部回転ナデ 内) 回転ナデ	密	良	灰色	
25	SI05	土師器 高坏	a - b 6.1 △ c -	外) 調整不明 内) 調整不明	やや粗	やや軟	橙褐色	
26	SI08	土師器 甕	a 17.0 ※ b 5.1 △ c -	外) ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、頸部右方向ケズリ	粗	やや軟	淡黄褐色	
27	SI08	土師器 甕	a 18.7 ※ b 6.5 △ c -	外) 口縁部ハケメ及びヨコナデ、頸部ハケメ 内) 口縁部ハケメ及びヨコナデ、頸部右方向ケズリ	やや粗	良	乳白色	
28	SI08	土師器 甕	a 17.3 ※ b 7.8 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ、頸部以下ハケメ 内) 口縁部ヨコナデ、頸部以下右方向ケズリ	やや粗	良	淡黄褐色	
29	SI08	土師器 甕	a 18.0 ※ b 9.55△ c -	外) 口縁部ヨコナデ、頸部以下タテハケ 内) 口縁部ヨコナデ、頸部右方向ケズリ	やや粗	良	灰褐色	
30	SI08	土師器 坏	a 10.95※ b 5.6 c -	外) タテハケ後ナデ 内) ナデ	やや粗	やや軟	淡褐色	
31	SI08	土師器 高坏 坏部	a 12.2 ※ b 6.05△ c -	外) ナデ 内) ナデ	やや粗	やや軟	淡灰色	外面赤色顔料
32	SI08	土師器 高坏 坏部	a 15.75※ b 4.95 c -	外) 口縁端部ハケメ、胴部以下調整不明 内) しぼり	やや粗	やや軟	淡橙褐色	
33	SI08	土師器 高台	a - b 2.15△ c 6.2 ※	外) ナデ 内) ナデ	やや粗	やや軟	乳白色	
34	SI08	須恵器 坏蓋	a 13.5 ※ b 4.3 △ c -	外) 天井部左方向ケズリ、体部回転ナデ 内) 回転ナデ	密	良	暗灰色	
35	SI09	土師器 高坏か	a 13.8 ※ b 3.8 △ c -	外) ヨコナデ 内) ヨコナデ	やや粗	やや軟	淡褐色	
36	SI09	土師器 甕	a 19.35※ b 7.25△ c -	外) ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、頸部以下ケズリ	やや粗	良	淡灰褐色	
37	SI09	土師器 甕	a 20.7 ※ b 15.4 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ、頸部以下ハケメ・一部ナ デ消し 内) 口縁部ヨコナデ、頸部以下右斜方向ケズリ	やや粗	良	淡黄灰色	
38	SI09	須恵器 坏蓋	a 14.6 ※ b 3.6 △ c -	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	密	良	外) 暗灰色 内) 灰色	
39	SI09	須恵器 坏蓋	a 13.25※ b 2.0 △ c -	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	密	良	灰色	
40	SI09	須恵器 坏身	a 11.05※ b 2.9 △ c -	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	やや粗	良	灰色	
41	SI09	須恵器 坏	a - b 4.45△ c 6.0	外) 体部回転ナデ、底部右方向回転ケズリ 内) 体部回転ナデ、底部ナデ	密	良	淡灰色	ヘラ記号
42	SI09	須恵器 坏身	a 11.6 ※ b 4.9 △ c -	外) 口縁端面取、体部回転ナデ、底部右方向 ケズリ 内) 回転ナデ	密	良	灰色	外面自然釉かかる 底部ヘラ記号?
43	SI09	須恵器 坏身	a - b 4.3 △ c -	外) 体部回転ナデ、底部左方向ヘラケズリ 内) 回転ナデ	密	良	灰色	
44	SB14 P138	弥生 壺	a - b 4.1 △ c -	外) ヨコナデ・三条の凹線 内) ヨコナデ・ヘラケズリ	やや粗	良	淡黄褐色	赤色顔料
45	SB14 P138	弥生 甕	a - b 2.9 △ c -	外) ヨコナデ 内) ヨコナデ	やや粗	良	黒褐色	
46	SB13 P214	土師器 甕	a 14.9 ※ b 4.0 △ c -	外) ヨコナデ 内) ヨコナデ	密	良	淡褐色	

出土土器観察表 (2)

(a:口径, b:器高, c:底部径, ※:復元値, △:残存値)

遺物番号	地点	器種	法量 cm	特徴	胎土	焼成	色調	備考
47	SB15 P511	土師器 高坏 脚部	a - b 1.7 △ c 8.7 ※	外) ナデ 内) ナデ、脚端部指オサエ	密	良	淡黄褐色	
48	SK30	弥生 甕	a 20.9 ※ b 4.75 △ c -	外) 口縁部沈線、頸部ハケメ、胴部ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部右方向ヘラケズリ	やや粗	良	淡褐色	
49	SK30	弥生 壺	a 17.9 ※ b 5.15 △ c -	外) 口縁部三条の沈線、頸部ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、頸部ナデ	やや粗	やや軟	淡黄褐色	
50	SK30	弥生 無頸壺	a 7.7 ※ b 4.4 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラミガキ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部指オサエ・ヨコナデ	密	良	淡褐色	
51	SK30	土師器 高坏 坏部	a 14.2 ※ b 7.2 △ c -	外) タテハケ 内) ヨコナデ	密	良	外) 黄褐色 内) 淡黄褐色	赤色顔料
52	SK30	土師器 高坏	a 13.2 ※ b 13.45 c 10.5 ※	外) ヨコナデ 内) ヨコナデ	やや粗	やや軟	橙黄色	スス付着
53	SK30	土師器 甕	a 13.4 b 14.9 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ、頸~胴部上半ヨコハケ、 胴部下半タテハケ 内) 口縁部ヨコナデ、頸 部以下右方向ヘラケズリ	密	良	淡灰黄褐色	
54	SK30	土師器 甕	a 16.5 ※ b 14.4 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ、頸部以下ハケメ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部右方向ヘラケズリ	密	良	淡黄褐色	
55	SK06	甕	a 21.2 ※ b 11.3 △ c -	外) 口縁部ナデ、頸部以下タテハケ 内) 口縁部ナデ、口頸部右方向ヘラケズリ、 胴部左方向ヘラケズリ	やや粗	良	淡黄褐色	
56	SD19	弥生 壺	a 19.0 ※ b 7.15 △ c -	外) 口縁部沈線、頸部ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部斜方向ナデ	やや粗	良	褐色	
57	SD19	弥生 壺	a 15.2 ※ b 5.85 △ c -	外) 口縁部沈線、頸部ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ	やや粗	良	淡褐色	
58	SD19	弥生 無頸壺	a 11.95 ※ b 4.15 △ c -	外) 凹線 内) ヨコナデ	密	良	淡黄褐色	
59	SD19	弥生 壺	a 19.6 ※ b 5.6 △ c -	外) 口縁部凹線、頸部タテハケ 内) 口縁部ヨコナデ、頸部指オサエ、胴部右方 向ケズリ	密	良	淡黄褐色	
60	SD19	弥生 壺	a 14.75 ※ b 4.45 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ、頸部ヘラ状工具による刺 突文 内) 口縁部ヨコナデ、頸部タテナデ、 胴部ケズリ	密	良	淡褐色	
61	SD19	弥生 甕	a 17.1 ※ b 5.2 △ c -	外) 口縁部凹線 内) 口縁部ヨコナデ、胴部左方向ケズリ	やや粗	良	淡褐色	
62	SD19	弥生 甕	a 19.6 ※ b 6.35 △ c -	外) 口縁部沈線、頸部貝殻腹縁使用の連続刺突 文 内) 口縁部ヨコナデ、頸部ケズリ	やや粗	良	黒褐色	
63	SD19	弥生 甕	a 16.55 ※ b 3.5 △ c -	外) 口縁部擬凹線、頸部ヨコナデ 内) 調整不明	密	良	橙褐色	
64	SD19	弥生 甕	a 14.2 ※ b 3.1 △ c -	外) ヨコナデ・口縁部凹線 内) 口縁部ヨコナデ、胴部左方向ケズリ	密	良	淡褐色	
65	SD19	弥生 甕	a 22.4 ※ b 4.7 △ c -	外) 口縁部凹線、頸部ナデ 内) 口縁部ヨコナデ、頸部左方向ケズリ	密	良	橙褐色	
66	SD19	弥生 甕	a 18.2 ※ b 3.25 △ c -	外) ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、頸部不明	密	良	淡黄褐色	
67	SD19	弥生 甕	a 21.0 ※ b 3.4 △ c -	外) 口縁部擬凹線、頸部ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部左方向ケズリ	密	良	淡褐色	
68	SD19	弥生 壺	a 14.4 ※ b 6.35 △ c -	外) 口縁部擬凹線 内) 調整不明	粗	良	橙褐色	
69	SD19	弥生 甕	a 14.25 ※ b 3.15 △ c -	外) 口縁部擬凹線 内) 口縁部ヨコミガキ、胴部ケズリ	密	良	淡黄褐色	

出土土器観察表 (3)

(a : 口径, b : 器高, c : 底部径, ※ : 復元値, △ : 残存値)

遺物番号	地 点	器 種	法 量 cm	特 徴	胎 土	焼 成	色 調	備 考
70	SD19	弥生甕	a 13.8 ※ b 3.4 △ c -	外) 口縁部擬凹線 内) 口縁部ヨコナデ、胴部左方向ケズリ	密	良	橙褐色	
71	SD19	弥生甕	a 17.4 ※ b 4.8 △ c -	外) 口縁部擬凹線、頸部擬凹線 内) 口縁部ヨコナデ、頸部左方向ケズリ	密	良	淡褐色	
72	SD19	弥生甕	a 16.0 ※ b 6.0 △ c -	外) ハケ工具による口縁部波状文、頸部刺突文 内) 口縁部ヨコナデ、胴部左方向ケズリ	密	良	淡橙褐色	
73	SD19	弥生甕	a 17.6 ※ b 4.4 △ c -	外) 口縁部貝殻縁擬凹線、頸部ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、頸部右方向ケズリ	やや粗	良	濃褐色	
74	SD19	弥生甕	a 17.6 ※ b 4.2 △ c -	外) 調整不明 内) 調整不明	密	良	濃褐色	
75	SD19	弥生底部	a - b 3.3 △ c 6.9 ※	外) 調整不明 内) 調整不明	密	良	淡褐色	外面黒斑あり
76	SD19	土師器底部	a - b 3.5 △ c 8.0 ※	外) ヨコナデ・ナデ・指オサエ 内) 調整不明	密	良	淡褐色	
77	SD19	弥生底部	a 7.1 ※ b 4.35 △ c -	外) 調整不明 内) 調整不明	密	良	褐色	外面黒斑あり
78	SD19	弥生底部	a - b 4.15 △ c 9.9 ※	外) 調整不明 内) 調整不明	密	やや軟	外) 橙褐色 内) 褐色	
79	SD19	弥生底部	a - b 3.0 △ c 7.4 ※	外) 胴部タテヘラミガキ、底部調整不明 内) 胴部下から上に向かってケズリ	密	良	褐色	
80	SD19	弥生底部	a 1.7 ※ b 3.3 △ c -	外) 調整不明 内) 調整不明	密	良	淡褐色	
81	SD19	弥生底部	a - b 4.05 △ c 4.6 ※	外) 調整不明 内) 調整不明	やや粗	良	褐色	
82	SD19	弥生底部	a - b 1.3 △ c 3.7 ※	外) 調整不明 内) 調整不明	密	良	外) 橙色 内) 淡褐色	
83	SD19	弥生底部	a - b 1.2 △ c 3.5 ※	外) ナデ 内) 調整不明	密	良	外) 淡褐色 内) 褐色	
84	SD19	弥生蓋	a 3.1 ※ b 2.65 △ c -	外) ナデ 内) 天井部指オサエ、底部ナデ	密	良	褐色	
85	SD19	弥生蓋	a - b 3.8 △ c 7.7 ※	外) ヨコナデ 内) ヨコナデ	密	良	淡褐色	
86	SD19	注口	a - b 7.45 △ c -	外) ヘラミガキ	やや粗	良	淡黄褐色	
87	SD19	弥生高坏	a - b 4.3 △ c -	外) 調整不明 内) 坏部右方向ケズリ	粗	良	淡黄褐色	四方向透かし
88	SD19	弥生脚部	a - b 3.8 △ c 10.8 ※	外) 凹線、端部ヨコナデ 内) 調整不明	密	良	褐色	高坏か器台の脚部
89	SD19	弥生脚部	a - b 3.0 △ c 12.0 ※	外) 端部ナデ 内) ケズリ	密	良	淡黄白色	円形透かし
90	SD19	弥生脚部	a - b 12.55 △ c 12.0 ※	外) 櫛描沈線、端部ナデ 内) 左方向ケズリ・指オサエ	密	良	淡黄褐色	
91	SD19	弥生脚部	a - b 2.3 △ c 14.5 ※	外) タテヘラミガキ、端部櫛描沈線 内) 左方向ケズリ	密	良	橙褐色	
92	SD19	弥生高坏	a 17.6 ※ b 2.65 △ c -	外) ヨコナデ 内) ヨコナデ	密	良	淡橙褐色	

出土土器観察表 (4)

(a:口径, b:器高, c:底部径, ※:復元値, △:残存値)

遺物番号	地点	器種	法量 cm	特徴	胎土	焼成	色調	備考
93	SD19	弥生脚部	a - b 5.45△ c 12.55	外) ヨコナデ、端部擬凹線 内) 左方向ケズリ、端部ヨコナデ	密	良	淡黄白色	
94	SD19	土師器甕	a 17.6 ※ b 5.15△ c -	外) ヨコナデ 内) ヨコナデ、胴部ケズリ	密	良	淡黄褐色	
95	SD19	土師器甕	a 20.0 ※ b 6.1 △ c -	外) ヨコナデ 内) ヨコナデ、胴部右方向ケズリ	密	良	淡褐色	
96	SD19	土師器甕	a 22.5 ※ b 7.15△ c -	外) 口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部左方向ケズリ	密	良	淡黄褐色	
97	SD19	土師器甕	a 22.4 ※ b 6.95△ c -	外) ナデ 内) 口縁部ナデ、胴部ケズリ	密	良	淡黄褐色	
98	SD19	土師器直口壺	a 10.0 ※ b 7.75△ c -	外) 口縁部ナデ 内) 口縁部ヨコナデ、頸部タテナデ	密	良	淡黄褐色	
99	SD19	土師器鼓形器台	a 18.2 ※ b 5.8 △ c -	外) ヨコナデ 内) ヨコナデ	やや粗	良	淡黄褐色	
100	SD19	土師器鼓形器台	a 21.0 ※ b 5.25△ c -	外) 調整不明 内) 調整不明	密	良	淡黄褐色	
101	SD19	土師器鼓形器台	a - b 6.65△ c -	外) ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、脚部ケズリ	密	良	淡黄褐色	
102	SD19	土師器低脚坏	a - b 2.2 △ c 5.95※	外) ナデ 内) ナデ	密	良	淡褐色	
103	SD19	土師器低脚坏	a - b 1.9 △ c 5.95※	外) ナデ 内) 調整不明	やや粗	良	橙褐色	
104	SD19	土師器低脚坏	a - b 1.6 △ c 6.45※	外) ヨコナデ 内) 調整不明	密	良	淡黄褐色	
105	SD19	土師器低脚坏脚部	a - b 2.3 △ c 8.25※	外) ナデ 内) ナデ	密	良	淡褐色	
106	SD19	土師器低脚坏	a - b 2.55 c 8.35	外) ヨコナデ 内) 調整不明	密	良	淡黄褐色	
107	SD19	土師器低脚坏	a - b 2.9 △ c 8.5 ※	外) 指オサエ 内) ナデ	密	良	淡赤褐色	
108	SD19	土師器甕	a 13.8 ※ b 6.15△ c -	外) ヨコナデ 内) ヨコナデ、胴部左方向ケズリ	密	良	淡褐色	
109	SD19	土師器壺	a 18.3 ※ b 5.65△ c -	外) ヨコナデ 内) ヨコナデ、頸部ケズリ	やや粗	良	淡黄褐色	
110	SD19	土師器壺	a 18.0 ※ b 5.95△ c -	外) ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部左方向ケズリ	密	良	褐色	
111	SD19	土師器甕	a 16.6 ※ b 4.65△ c -	外) ヨコナデ 内) ヨコナデ、胴部ケズリ	密	良	黄褐色	
112	SD19	土師器甕	a 16.0 ※ b 3.45△ c -	外) ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部左方向ケズリ	密	良	黄褐色	外辺部黒斑あり
113	SD19	土師器甕	a 17.8 ※ b 5.45△ c -	外) ナデ 内) ナデ、胴部左方向ケズリ	密	良	褐色	
114	SD19	土師器甕	a 15.8 ※ b 4.35△ c -	外) ヨコナデ 内) ヨコナデ	密	良	黒褐色	
115	SD19	土師器甕	a 15.8 ※ b 5.25△ c -	外) ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部左斜上方向ケズリ	やや粗	良	橙褐色	

出土土器観察表 (5)

(a : 口径, b : 器高, c : 底部径, ※ : 復元値, △ : 残存値)

遺物番号	地点	器種	法量 cm	特徴	胎土	焼成	色調	備考
116	SD19	土師器壺	a 17.5 ※ b 5.35 △ c -	外) ヨコナデ 内) ヨコナデ	密	良	淡黄褐色	
117	SD19	土師器甕	a 15.8 ※ b 7.9 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ、頸部ハケメ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部右方向ケズリ	密	良	黒褐色	
118	SD19	土師器甕	a 15.4 ※ b 6.6 △ c -	外) ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部右方向ケズリ	密	良	淡黄褐色	
119	SD19	土師器甕	a 19.4 ※ b 18.85 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ、胴部上半ヨコハケ・下半タテハケ 内) 口縁・頸部ヨコナデ、胴部左方向ケズリ	密	良	淡黄褐色	スス付着
120	SD19	土師器甕	a 16.85 ※ b 15.35 △ c -	外) 調整不明 内) 口縁・頸部ヨコナデ、胴部右方向ケズリ	やや粗	良	淡黄褐色	
121	SD19	土師器壺	a 16.35 ※ b 11.0 △ c -	外) タテハケ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部右方向ケズリ	密	良	淡黄褐色	
122	SD19	土師器壺	a 11.4 ※ b 5.75 △ c -	外) ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部右方向ケズリ	密	良	淡黄褐色	
123	SD19	土師器甕	a 15.6 ※ b 9.95 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ、胴部タテハケ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ	密	良	淡褐色	
124	SD19	土師器甕	a - b 10.75 △ c -	外) ハケメ 内) 左方向ケズリ	やや粗	良	橙褐色	
125	SD19	高坏坏部	a - b 6.1 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ、接合部ハケメ 内) 調整不明	密	良	橙褐色	
126	SD19	土師器高坏坏部	a 14.2 ※ b 6.2 △ c -	外) タテハケ 内) ヨコハケ	密	良	淡橙黄色	
127	SD19	土師器高坏脚部	a - b 5.8 △ c 10.35	外) タテヘラミガキ 内) しばり後左方向ケズリ、端部ヨコハケ	密	良	淡黄褐色	
128	SD19	土師器甗	a 27.0 ※ b 16.25 △ c -	外) 把手部ケズリ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部タテケズリ・左方向ケズリ	密	良	淡褐色	
129	SD19	土師器甗底部	a - b 5.0 △ c -	内) ヘラミガキ	密	良	黄白色	
130	SD14	弥生甕	a - b 2.0 △ c -	外) 口縁部凹線、頸部ヨコナデ 内) ナデ	密	良	淡褐色	
131	SD14	弥生壺	a 17.2 ※ b 3.45 △ c -	外) 口縁部凹線、頸部ヨコナデ 内) ヨコナデ	密	良	淡黄褐色	
132	SD14	弥生甕	a - b 2.7 △ c -	外) 口縁部擬凹線、頸部ナデ 内) 口縁部ナデ、胴部右方向ケズリ	密	良	橙褐色	
133	SD14	弥生壺	a 14.2 ※ b 2.25 △ c -	外) 口縁部擬凹線、頸部ナデ 内) ナデ・ミガキ、頸部右方向ケズリ	密	良	外) 淡褐色 内) 暗褐色	
134	SD14	弥生甕	a 22.6 ※ b 3.3 △ c -	外) 口縁部沈線、頸部ナデ 内) ナデ	密	良	淡黄褐色	
135	SD14	弥生甕	a 16.0 ※ b 4.4 △ c -	外) 口縁部擬凹線、頸部ナデ 内) ヨコナデ	密	良	淡褐色	
136	SD14	弥生甕	a 15.4 ※ b 3.75 △ c -	外) 口縁部擬凹線、頸部ナデ 内) 口縁部ナデ、胴部左方向ケズリ	密	良	淡褐色	
137	SD14	弥生壺	a 21.0 ※ b 4.8 △ c -	外) 口縁部擬凹線、頸部ナデ 内) 口縁部ミガキ、胴部右方向ケズリ	密	良	淡褐色	
138	SD14	弥生甕	a - b 4.1 △ c -	外) 肩部二枚貝腹縁による連続刺突文・沈線 内) 左方向ケズリ	密	良	外) 淡黄褐色 内) 淡褐色	

出土土器観察表(6)

(a:口径, b:器高, c:底部径, ※:復元値, △:残存値)

遺物番号	地点	器種	法量 cm	特徴	胎土	焼成	色調	備考
139	SD22	土師器 甕	a 16.0 ※ b 3.95△ c -	外) 口縁部ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部右斜方向ヘラケズリ	やや粗	良	淡褐色	
140	SD18	弥生 壺	a 15.8 ※ b 6.3 △ c -	外) 調整不明 内) 調整不明	やや粗	軟	橙黄褐色	
141	SD41	土師器 坏	a 12.9 ※ b 5.6 c -	外) 口縁部回転ナデ、胴部左斜方向ヘラケズリ、 底部ナデ 内) 回転ナデ、底部仕上げナデ	密	良	淡灰橙褐色	
142	SD41	土師器 高坏	a 14.0 ※ b 11.8 △ c 8.1 ※	外) ヨコナデ 内) 坏部ナデ、脚部しほり後ナデ、裾部指オサエ、 脚端部ヨコナデ	密	良	淡黄褐色	黒斑あり
143	SD41	土師器 高坏	a - b - c 11.6 ※	外) 接合部ハケメ、脚部ヨコナデ 内) 坏底面ナデ、脚部しほり後ナデ、裾部ヨコ ナデ、脚端部ハケメ	密	良	淡黄褐色	
144	SD21	弥生 脚部	a - b 4.8 △ c 21.5 ※	外) 脚部ヨコナデ・凹線、脚端部擬凹線 内) 右方向ヘラケズリ、端部ヨコナデ	密	良	淡黄褐色	
145	SD21	弥生 壺	a - b 3.2 △ c -	外) 頸部ヘラ状工具の刺突による羽状文 内) ケズリ	密	良	淡黄褐色	
146	SD21	土師器 小型丸 底壺	a 6.5 b 6.9 c -	外) 口縁部ヨコナデ、胴部ナデ 内) 口縁部ヨコナデ、頸部左方向ヘラケズリ、 胴部ナデ、底部指オサエ	密	良	褐色	
147	SD21	土師器 甕	a 17.1 ※ b 20.6 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部右方向ヘラケズリ	密	良	褐色	スス付着
148	SD21	土師器 甕	a 15.7 ※ b 9.6 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部右方向ヘラケズリ	密	良	外) 淡褐色 内) 褐色	
149	SD21	土師器 甕	a 16.1 ※ b 10.1 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ、胴部タテハケ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部右方向ヘラケズリ	密	良	赤褐色	スス付着
150	SD21	土師器 甕	a 13.9 ※ b 16.6 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部右方向ヘラケズリ	密	良	淡褐色	スス付着
151	SD21	土師器 甕	a 10.85 ※ b 16.65 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ、胴部ヨコハケ 内) 口縁部ヨコナデ、頸部指ナデ、胴部右方向 ヘラケズリ	密	良	淡褐色	
152	SD21	土師器 甕	a 15.3 ※ b 7.35 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ、胴部タテハケ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部右方向ヘラケズリ	密	やや 不良	淡黄褐色	
153	SD21	土師器 甕	a 16.3 ※ b 7.25 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ、胴部調整不明 内) 口縁部ヨコナデ、胴部右方向ヘラケズリ	密	不良	淡褐色	黒斑あり
154	SD21	土師器 甕	a 13.7 ※ b 6.65 △ c -	外) ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部右方向ヘラケズリ	密	良	淡黄褐色	スス付着
155	SD21	土師器 甕	a 10.8 ※ b 7.2 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ、胴部調整不明 内) 口縁部ヨコナデ、頸部右斜方向ヘラケズリ、 胴部左方向ヘラケズリ	密	やや 不良	淡褐色	
156	SD21	土師器 甕	a 9.8 ※ b 9.4 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ、胴部ヨコハケ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部右方向ヘラケズリ	密	良	淡褐色及び褐 色	
157	SD21	土師器 甕	a 17.5 ※ b 6.8 △ c -	外) 口縁部・胴部ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部右方向ヘラケズリ	密	良	淡黄褐色	
158	SD21	土師器 高坏	a 15.8 ※ b 12.65 △ c 10.45 ※	外) 口縁部ヨコナデ、接合部ハケメ、脚部ナデ 内) 口縁部ヨコナデ、脚部ナデ、脚端部ハケメ	密	良	橙褐色	黒斑あり
159	SD21	土師器 高坏 坏部	a 18.6 ※ b 7.1 △ c -	外) 調整不明 内) 調整不明	密	やや 不良	赤褐色	
160	SD21	土師器 高坏 坏部	a 17.65 b 6.55 △ c -	外) ヨコナデ 内) ヘラミガキによる暗文	密	良	淡橙黄色	
161	SD21	土師器 高坏 坏部	a 16.1 ※ b 5.8 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ、坏部ハケメ、底部ヨコナ デ 内) 口縁部ヨコナデ、坏部仕上げナデ	密	良	淡黄褐色	

出土土器観察表 (7)

(a:口径, b:器高, c:底部径, ※:復元値, △:残存値)

遺物番号	地点	器種	法量 cm	特徴	胎土	焼成	色調	備考
162	SD21	土師器 高台	a - b 1.55△ c 5.45	外) ヨコナデ 内) 胴部仕上げナデ、底部裏ナデ	密	良	淡黄褐色	
163	SD23	土師器 甕	a 16.8 ※ b 3.25△ c -	外) 口縁部ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部左斜方向ヘラケズリ	やや粗	やや軟	淡赤褐色	
164	SD26	弥生 甕	a - b 3.2 △ c -	外) 口縁部擬凹線、頸部棒状工具による刺突文 内) ヨコナデ	密	良	明橙褐色	スス付着
165	SD26	甕	a 22.1 ※ b 13.5 △ c -	外) 口縁部端部一条の凹線、口縁部ヨコナデ、体 部ハケメ 内) ヘラミガキ	密	良	赤橙色	内外面赤色顔料 外面スス付着
166	SD27	弥生 甕	a 15.0 ※ b 3.75△ c -	外) 頸部ヨコナデ、口縁部三条の凹線 内) 調整不明	やや粗	良	明橙褐色	
167	SD30	弥生 甕	a 15.5 ※ b 4.25△ c -	外) 口縁部二条の凹線 内) 口縁部ヨコナデ、胴部ケズリ	やや粗	良	淡褐色	
168	SD32	須恵器 坏身	a 11.9 ※ b 2.15△ c -	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	密	良	白灰色	
169	SD29	須恵器 坏蓋	a 11.4 ※ b 2.9 △ c -	外) 口縁部回転ナデ、肩部稜あり 内) 回転ナデ、端部段あり	密	良	灰色	
170	SD29	須恵器 坏身	a - b 2.5 △ c -	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、口縁端部凹線	密	良	灰色	
171	SD29	土師器 高坏 脚部	a - b 4.72△ c -	外) ヨコナデ 内) 脚部しぼり後ナデ、脚部ヨコナデ	密	良	淡橙黄色	
172	SD29	土師器 高杯 脚部	a - b 3.3 △ c 6.2 ※	外) ヨコナデ 内) 底部仕上げナデ、脚部ヨコナデ	密	良	淡橙黄色	
173	SD39	土師器 高坏 脚部	a - b 6.4 △ c 8.0 ※	外) 脚部ヘラミガキ 内) ヨコナデ	密	良	淡黄褐色	赤色顔料
174	SD40	弥生 壺	a 21.0 ※ b 3.3 △ c -	外) ヨコナデ、四条の凹線 内) ヨコナデ	密	良	淡黄褐色	
175	SD40	弥生 高坏	a - b 4.0 △ c 13.7 ※	外) 脚部ヘラ状工具による縦方向の沈線、脚端 部ヨコナデ 内) 左方向ヘラケズリ	密	良	淡黄褐色	黒斑あり
176	SD40	弥生 底部	a - b 7.2 △ c 8.4 ※	外) 胴部タテナデカタテミガキ、底部ナデ 内) 胴部右斜方向ヘラケズリ・指オサエ	密	良	淡黄褐色	黒斑あり
177	SD40	弥生 胴部	a - b 3.1 △ c -	外) ヨコナデ、竹管状工具による刺突文 内) ヨコナデ、右方向ヘラケズリ	密	やや軟	淡黄褐色	
178	SD40	弥生 胴部	a - b 2.4 △ c -	外) ヨコナデ・竹管状工具による刺突文・ヨコ ハケ 内) 左方向ヘラケズリ	密	やや軟	淡黄褐色	スス付着
179	SD40	弥生 胴部	a - b 2.6 △ c -	外) ヨコナデ、竹管状工具による刺突文 内) 調整不明	密	やや軟	橙黄褐色	
180	SD40	土師器 甕	a 13.2 ※ b 4.45△ c -	外) ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部右方向ヘラケズリ	密	やや軟	褐色	
181	SD40	土師器 甕	a 9.9 b 6.1 △ c -	外) 口縁部・頸部ヨコナデ、胴部タテハケ 内) 口縁部ヨコナデ、頸部ヘラケズリ後ナデ、 胴部左方向ヘラケズリ	密	良	淡褐色	スス付着
182	SD40	土師器 甕	a 14.5 ※ b 6.25△ c -	外) 口縁部ヨコナデ、胴部ヨコハケ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部右方向ヘラケズリ	密	良	淡褐色	
183	SD40	土師器 甕	a 17.2 ※ b 4.7 △ c -	外) ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部左方向ヘラケズリ	密	良	暗褐色	炭化物付着
184	SD40	土師器 壺	a 12.1 ※ b 4.7 △ c -	外) ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部左方向ヘラケズリ	やや粗	良	淡橙黄褐色	

出土土器観察表 (8)

(a:口径, b:器高, c:底部径, ※:復元値, △:残存値)

遺物番号	地点	器種	法量 cm	特徴	胎土	焼成	色調	備考
185	SD40	土師器甕	a 18.5 ※ b 9.75△ c -	外) 口縁部ヨコナデ、頸・胴部ハケメ 内) 口縁部ヨコナデ、頸部ケズリ後ヨコナデ、胴部右方向ヘラケズリ	やや粗	良	暗褐色	
186	SD40	土師器甕	a 20.7 ※ b 9.6 △ c -	外) 胴部ヨコナデ、胴部タテ・斜方向ナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ後ヨコナデ	密	良	暗褐色	
187	SD40	土師器直口壺	a 10.8 ※ b 4.6 △ c -	外) ヨコナデ 内) ヨコナデ	密	良	淡灰褐色	スス附着
188	SD40	土師器直口壺	a 10.8 ※ b 9.15△ c -	外) 調整不明 内) 口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ	やや粗	やや軟	橙黄褐色	
189	SD40	土師器甕底部	a - b 5.5 △ c -	外) ヨコハケ 内) 胴部右方向ヘラケズリ、底部ナデ・指オサエ	やや粗	良	淡灰褐色	
190	SD40	土師器坏	a 11.75 b 5.5 c -	外) 口縁部ヨコナデ、底部丸底ヘラケズリ後ナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部仕上げナデ	密	良	暗橙褐色	
191	SD40	土師器坏	a 12.05※ b 5.3 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ、端部つまみ出す、底部左方向ヘラケズリ 内) ヨコナデ	やや粗	良	淡橙黄色	
192	SD40	土師器坏	a 11.65 b 5.35 c -	外) ヨコナデ、底部ナデ 内) ヨコナデ・仕上げナデ	密	良	淡黄褐色	赤色顔料
193	SD40	土師器高坏	a 21.0 ※ b 3.3 △ c -	外) ヘラミガキ 内) ヘラミガキ	密	良	赤褐色	赤色顔料
194	SD40	土師器高坏	a - b 2.5 △ c -	外) 口縁部ハケメ、坏部ナデ 内) ヨコハケ後暗文状のヘラミガキ	密	良	暗赤褐色	
195	SD40	土師器高坏脚部	a - b 5.9 △ c 8.9	外) ヨコナデ・ヘラミガキ、端部ナデ 内) ナデ、端部ハケメ	密	やや良	淡黄褐色	黒斑あり
196	SD40	土師器高坏脚部	a - b 8.25△ c 8.4 ※	外) 接合部ハケメ、脚部ヘラミガキ、脚端部ヨコナデ 内) 脚部ヨコナデ・指押さえ、脚端部ハケメ	密	良	黄褐色	黒斑あり
197	SD40	土師器高坏	a - b 7.95△ c 10.1 ※	外) ヨコナデ 内) ヨコナデ、脚端部ヨコハケ	密	良	明褐色	脚部三方向に円形の透かしスス附着
198	SD40	土師器口	a - b 4.8 △ c 5.95	外) ナデ 内) ナデ	やや粗	良	淡灰褐色	
199	SD40	土製支脚	a - b 8.0 △ c -	外) ナデ 内) ナデ	密	良	淡橙黄褐色	脚の1/2残存
200	SD40	須恵器坏身	a 12.2 ※ b 3.95△ c -	外) 口縁部回転ナデ、体部下半ヘラケズリ 内) 口縁部・体部回転ナデ、口縁端部に段	密	良	灰色	
201	SD40	須恵器坏蓋	a 13.8 ※ b 4.95△ c -	外) 口縁部回転ナデ、肩部に稜あり、天井部回転ヘラケズリ 内) 口縁部に段、回転ナデ	密	良	灰色	
202	SD40	須恵器坏蓋	a 12.2 ※ b 5.25△ c -	外) 天井部1/2程回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内) 回転ナデ、口縁端部段あり	密	良	灰色～暗灰色	器壁薄く、他と胎土異なる。
203	SD40	須恵器疎	a - b 8.3 △ c -	外) 体部回転ナデ、肩部に二条の沈線 内) 回転ナデ	密	良	灰色	円形透かし
204	SD40	須恵器高坏	a 15.7 ※ b 6.9 △ c -	外) 回転ナデ・二条の突帯・波状文 内) 回転ナデ	密	良	灰色	
205	SD40	須恵器高台付坏	a - b 4.85△ c 7.15	外) 回転ナデ・底面回転糸切り、高台部ナデ 内) 回転ナデ	密	良	外) 暗灰色及び 内) 灰色	外面自然釉かかる
206	SD40	須恵器坏	a 11.8 b 4.25 c 7.3	外) 回転ナデ、底部回転糸切り 内) 回転ナデ・仕上げナデ	密	良	灰色	
207	SD40	土師器甕	a - b 7.7 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内) ヨコナデ	密	良	淡黄褐色	底欠損

出土土器観察表(9)



(a:口径, b:器高, c:底部径, ※:復元値, △:残存値)

遺物番号	地点	器種	法量 cm	特徴	胎土	焼成	色調	備考
208	P377	弥生甕	a 18.3 ※ b 11.6 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部左方向ヘラケズリ	やや粗	良	淡橙黄褐色	
209	D2	弥生壺	a 23.0 ※ b 3.5 △ c -	外) 口縁端部肥厚ヨコナデ、三条の凹線 内) 調整不明	密	良	淡褐色	
210	F13	土師器 小型丸 底壺	a 12.9 ※ b 6.3 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ、胴部ハケメ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部左方向ヘラケズリ	やや粗	良	外) 淡褐色 内) 淡橙褐色	
211	E12	土師器 高坏 坏部	a 14.1 b 5.05 △ c -	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	密	良	外) 淡黄褐色 内) 淡橙黄褐色	外面黒斑あり
212	D7	須恵器 甕	a 16.2 ※ b 3.45 △ c -	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	密	良	灰白色	
213	C11	須恵器 坏蓋	a 14.6 b 5.3 c -	外) 天井部回転ヘラケズリ、肩部凹線、口縁部 回転ナデ 内) 天井部ナデ、口縁部回転ナデ、口縁端部沈線	密	良	外) 暗灰色 内) 灰色	
214	F11	須恵器 高台付 坏	a 14.15 ※ b 5.0 c 7.8	外) 回転ナデ、底部回転糸切り 内) 体部回転ナデ、高台部ナデ、底部仕上げナ デ	密	良	外) 暗灰色及 び灰色 内) 灰色	
215	C10	須恵器 高台付 坏	a - b 5.2 c 8.45	外) 体部回転ナデ、底部回転ヘラケズリ、底面 ナデ 内) 回転ナデ	密	良	灰色	
216	SD01	弥生 甕	a 19.4 ※ b 3.4 △ c -	外) 口縁部三条の擬凹線、頸部ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部左方向ヘラケズリ	密	良	淡褐色	
217	SD01	須恵器 坏蓋	a 11.8 ※ b 1.6 △ c -	外) 回転ナデ 内) 端部返りあり、回転ナデ	密	良	灰色	
218	SD01	須恵器 脚部	a - b 5.0 △ c 9.3 ※	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	密	良	外) 灰色 内) 暗灰色	脚部二方向透かし
219	SD01	須恵器 底部?	a - b 0.95 △ c 7.0 ※	外) 底部ナデ後工具による花卉状の刺突文 内) 底部回転ナデ	密	良	灰色	
220	SD01	須恵器 甕	a - b 9.1 △ c -	外) 平行タタキ 内) 車輪状タタキ	密	良	灰色	
221	SD01	土師器 坏	a 16.0 ※ b 9.0 c 5.4 ※	外) 胴部回転ナデ、底部回転糸切り 内) 回転ナデ	密	良	淡黄褐色	スス付着
222	SD01	土師器 坏	a 14.5 ※ b 4.2 c 5.5 ※	外) 回転ナデ、底部回転糸切り 内) 回転ナデ	密	良	淡褐色	
223	SD02	須恵器 蓋つま み	a - b 1.25 △ c -	外) ナデ 内) ナデ	密	良	灰色	
224	SD02	須恵器 坏蓋	a - b 2.20 △ c -	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、端部返りあり	密	良	灰色	
225	SD02	須恵器 隙	a - b 4.0 △ c -	外) 回転ナデ、肩部二条区画内沈線 内) 回転ナデ	密	良	明灰色	
226	SD02	須恵器 長頸甕 底部	a - b 2.95 ※ c 4.1 △	外) 体部回転ナデ、底部ヘラケズリ 内) 回転ナデ	密	良	灰色	
227	SD02	須恵器 高坏	a - b 2.9 △ c -	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	密	良	灰色	脚部ヘラ切り痕 三方向透かし
228	SD02	須恵器 高坏	a - b 3.55 △ c -	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	密	良	暗灰色	脚部二方向に方 形の透かし
229	SD02	須恵器 坏身	a - b 2.25 △ c 8.2	外) 体部回転ナデ、底部回転糸切り、高台貼付 後ナデ 内) 体部回転ナデ、底面仕上げナデ	密	良	灰色	
230	SD07	須恵器 坏蓋	a 9.7 ※ b 2.85 △ c -	外) 天井部上半左方向ケズリ、以下回転ナデ 内) 回転ナデ、端部に返り	密	良	灰色	

出土土器観察表 (10)

(a : 口径, b : 器高, c : 底部径, ※ : 復元値, △ : 残存値)

遺物番号	地点	器種	法量 cm	特徴	胎土	焼成	色調	備考
231	SD07	須恵器 坏蓋	a 12.2 ※ b 2.65 △ c -	外) 回転ナデ、肩部凹線 内) 回転ナデ、端部に段あり	密	良	暗灰色	
232	SD07	須恵器 高坏	a - b 3.3 △ c -	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	密	良	暗灰色	脚部二方向三角形の透かし
233	SD07	須恵器 底部	a - b 4.0 △ c 12.0 ※	外) 体部~底部格子目タタキ 内) 体部タタキ	密	良	灰色	
234	SD03	弥生 甕	a 22.5 ※ b 3.5 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ 内) 調整不明	やや粗	良	褐色	口縁部刻み
235	SD03	弥生 底部	a - b 2.6 △ c 4.1 ※	外) 胴部ヨコナデ、底部ナデ 内) 胴部ヘラケズリ、底部指押さえ	粗	良	褐色	
236	SD03	弥生 脚部	a - b 4.7 △ c 15.0 ※	外) 脚部凹線、脚端部肥厚 内) ヘラケズリ	やや粗	良	淡褐色	
237	SD03	弥生	a - b 3.5 △ c -	外) 調整不明 内) 竹管状工具による刺突文	やや粗	軟	外) 淡赤褐色 内) 淡褐色	外面に刺突文
238	SD03	弥生 甕	a 14.2 ※ b 5.5 △ c -	外) 口縁部擬凹線、頸部ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部右方向ヘラケズリ	やや粗	軟	淡褐色	
239	SD03	弥生 甕	a 13.0 ※ b 4.95 △ c -	外) 口縁部擬凹線後一部ナデ消し、頸部ヨコナ デ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部右方向ヘラケズリ	やや粗	良	淡褐色	
240	SD03	土師器 甕	a 18.2 ※ b 3.65 △ c -	外) 口縁部ヨコナデ 内) 口縁部ヨコナデ、胴部右方向ヘラケズリ	やや粗	良	淡黄褐色	
241	SD03	土師器 高坏 脚部	a - b 6.4 △ c -	外) 調整不明 内) 調整不明	粗	軟	明橙褐色	
242	SD03	土師器 埴輪	a - b 5.0 △ c -	外) ヨコナデ 内) 調整不明	やや粗	軟	外) 橙黄色 内) 灰褐色	
243	SD03	須恵器 坏蓋	a 12.2 ※ b 1.85 △ c -	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、端部に返り	密	良	暗灰色	
244	SD03	須恵器 高坏	a - b 2.8 △ c -	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ、坏部仕上げナデ	密	良	灰色	
245	SD03	須恵器 高坏	a - b 10.7 △ c 10.7 ※	外) ヨコナデ・二条の凹線 内) 回転ナデ	密	良	灰色	脚部二方向二段に透かし
246	SD03	須恵器 壺 底部	a - b 2.95 △ c 8.0 ※	外) 回転ナデ 内) 回転ナデ	密	良	灰色	高台付
247	SD03	土師器 坏	a - b 2.0 △ c 6.0	外) 回転ナデ、底部回転糸切り 内) 回転ナデ	やや粗	やや軟	淡褐色	
248	D7	磁器 碗	a 14.5 ※ b 5.6 △ c -	外) 施釉 内) 施釉	緻密	良		外面連弁文
249	SD08	磁器 碗 底部	a - b - c 6.7 ※	外) 高台外面まで施釉、畳付け釉剥ぎ、外底無 釉 内) 施釉	緻密	良		見込みにヘラ描文
250	A2	磁器 碗 底部	a - b 3.1 △ c 6.4 ※	外) 高台内面まで施釉、底面露胎 内) 施釉	緻密	良		外面連弁文 見込みスタンプ
251	E4	磁器 碗 底部	a - b 2.9 △ c 6.2 ※	全面施釉	緻密	良		見込みに線描文
252	B3	陶器 皿	a 10.5 ※ b 2.5 △ c 7.3 ※	外) 高台畳付露胎、他は施釉 内) 施釉	密	良		
253	C3	土師器 土鍋	a - b 2.5 △ c -	外) ナデ 内) ナデ	やや粗	良	淡褐色	

出土土器観察表 (11)